

330.4-Ta59-2ウ



1200500736958

30.4

59

2



始



330.4
TA59
2



武田經濟研究所長
商學博士
武田鼎一著

竹堂春秋時論

東京 敬文堂書店刊



953

100

序

私が大正十年以來昭和十七年迄に執筆した短篇論文と試みた講演の速記録が、三冊の書籍に蒐録された。その第一冊は「竹堂經濟瑣談」と題され、その第二冊は「竹堂時事論叢」と名付けられ、既に昭和十七年の春に上梓された。今回第三冊目が「竹堂春秋時論」と命名されて出版されるに到つた。果して讀者の参考となるだけの價値ありや否やは判明しないが、殆ど洩れなく私の筆にし口にしたものが、印刷に附され得たことは、私自身にとつては無限の意味を持つものである。

眞豪は自分の墓石に萬金を投じるが、人の心の中に永遠に生きる記念碑である著述を後世に遺した例は殆どない。私は物質的には極めて貧困であるが、精神的には遙かに世の富豪に劣らないだけの富を有して居ると自惚れて居る。その證據として私は、私の純粹學問的な十冊ばかりの著書の外に、此等の論文講演集三冊を世に贈つて、私の永遠の墓石とした次第である。

昭和十八年一月十六日

東都の旅舎にて

著者識

竹堂春秋時論 目次

一、企業整備と國民思想……………	一	三、大東亞民族政策の核心……………	四三
二、邦人南方進出對策綱概……………	三	四、南方統治と新國防計畫……………	三六
三、南方新領土統治策一般……………	五	五、南方經營の經濟的方途……………	四〇
前篇總論……………	六	六、内地に於ける中小商工業	
後篇各論……………	二	の前途……………	四四
四、南方新領土統治策一般補遺……………	六	七、皇道自由經濟の理論と實際……………	四七
五、大東亞皇榮圈完成の方途……………	三	八、南方進出邦人の將來……………	五二
一、何故大東亞皇榮圈といふか……………	三	九、原地勞働力増強と適地分	
二、大東亞戰爭は永久戰なり……………	三六	布方法……………	五六

十、皇榮園完成後の諸問題……………六一

十一、日本の眞の危機はいつ来るか……………六

十二、經營効率としての利潤尊重……………一三

十三、意圖的な利潤追求を排す……………一三

十四、完全包圍戰術を排す……………一三五

十五、國民に悟道を興へよ……………一三七

十六、重工業團體再編成に就て……………一三九

十七、國家總動員法の改正について……………一四一

十八、經濟統制手法を即時改善せよ……………一四三

十九、助成金制度徹廢に賛成……………一四五

二十、價格統制方策の是正……………一四七

二十一、農業團體統制と商工業……………一四九

二十二、西園寺公の國葬……………一五一

二十三、經濟統制會とインフレ……………一五三

二十四、西園寺公の國葬……………一五五

二十五、中央協力會議に望む……………一五七

二十六、新支那中央銀行の生誕……………一五九

二十七、內閣強化……………一六一

二十八、第七十六議會の召集……………一六三

二十九、商工行政の刷新……………一六五

三十、物價政管の再出發……………一六七

三十一、軍官民協力の眞諦……………一六九

三十二、配給機構の整備……………一七一

三十三、大政翼賛會をめぐつて……………一七三

二十四、公益優先……………一五三

二十五、産業科學研究員の態度……………一五五

二十六、中央協力會議に望む……………一五七

二十七、新支那中央銀行の生誕……………一五九

二十八、內閣強化……………一六一

二十九、第七十六議會の召集……………一六三

三十、商工行政の刷新……………一六五

三十一、物價政管の再出發……………一六七

三十二、軍官民協力の眞諦……………一六九

三十三、配給機構の整備……………一七一

三十四、大政翼賛會をめぐつて……………一七三

三十五、時局認識と實踐……………一七五

三十六、日米外交張整の能否……………一七七

三十七、民間自主統制組織の整備……………一七九

三十八、中小機械工業對策……………一八一

三十九、總動員法改訂と經濟新體制……………一八三

四十、總力戰體制の完備……………一八五

四十一、建設的革新の基礎……………一八七

四十二、滿洲企業政策の再檢討……………一九一

四十三、大政翼賛會をめぐつて……………一九三

四十四、獨伊三國の經濟提携……………一九〇 五十三、科學陣營の整備について……………二〇六

四十五、増産と資源確保……………一九二 五十四、米國の超高速生産擴充……………二〇八

四十六、計畫經濟の意義……………一九四 五十五、小倉氏登場の意義……………二一〇

四十七、米ソ兩國の増産と將來……………一九六 五十六、經濟政策の綜合統一……………二二二

四十八、衆議員の議事終了に際して……………一九七 五十七、商工行政の新性格……………二二四

四十九、アメリカ航空機の生産能力……………一九九 五十八、歐洲戰局の變貌とわが國策……………二二六

五十、産業團體會と指導者……………二〇一 補強……………二二八

五十一、ル大統領演説に關聯して……………二〇三 六十、日ソ國交調整と今後の外交……………二三〇

五十二、政策の神速性……………二〇五 六十一、住宅政策の再檢討……………二二二

六十二、米國の立場……………二二四 七十一、形式的物價政策を排す……………二四二

六十三、天長の佳節に當り志を述ぶ……………二二六 七十二、懇談會の實相とその改善策……………二四四

六十四、イギリス謀略の教訓……………二二八 七十三、無報酬勤務者ウオック……………二四六

六十五、防諜の意義……………二三〇 七十四、諸事須らく徹底すべし……………二四七

六十六、支那事變處理……………二三三 七十五、發明の工業化……………二四九

六十七、世界情勢と我國の立場……………二三四 七十六、新農林大臣に望む……………二五一

六十八、戰時金融會社創設を提唱す……………二三六 七十七、南方經略の將來……………二五三

六十九、官民協力の目標……………二三八 七十八、實質的低物價を望む……………二五五

七十、價值の顛倒……………二四〇 七十九、國際新情勢と工業界の覺悟……………二五七

八十、工業技術と音楽……………二五九 八十九、低金利の時局的考察……………二七六

八十一、指導者の責任……………二六一 九十、時局の重大性に目覚めよ……………二七六

八十二、國家主義統制の批判……………二六三 九十一、物價對策の新方針に

八十三、工作機工業の總力戰的

意義……………二六五 九十二、英米共同宣言を糾す……………二八一

八十四、暴利令強化の意義……………二六七 九十三、戰時經濟體制の整備

八十五、財政金融基本方策要綱

を急げ……………二八四

登表……………二六九 九十四、地下資源探求に邁進せよ……………二八六

八十六、革新税制の目標……………二七〇 九十五、金の將來性と用金獎勵策……………二八八

八十七、全體主義と民主主義……………二七三 九十六、崇高至聖の目的を知れ……………二九〇

八十八、獨ソ戰進展と我國の立場……………二七四 九十七、中等教育機關の轉換を

急げ……………二九二 百六、國防政治體制の完成を期す……………三〇七

九十八、中小企業整理統合の

緊急性……………二九三 百八、増税の時局的意義……………三一

九十九、米國の參戰近接とわが

覺悟……………二九四 百十、國運分岐の十字路……………三二四

百、至妙なるかな思想戰略……………二九六 百十一、進學制限を撤廢せよ……………三二六

百一、圓域貿易の特殊性を強化……………二九八 百十二、開放研究の擴充を斷行

百二、官界の割據主義を排す……………三〇〇

せよ……………三二八

百三、物資缺乏現象を解消せよ……………三〇三 百十三、世界永久戰と國民の覺悟……………三三〇

百四、買物行列解消の一方法……………三〇四 百十四、南方皇榮圈統營に關する

百五、經濟機械改革と政治的温情……………三〇五

一考察……………三三三

百十五、純粹國民經濟學原理大綱……三三四

(未完稿)

- 第一、國民經濟の一般的概念……三三四
- 第二、國民經濟の意義……三三五
- 第三、國家觀と人生觀……三三八
- 第四、國民經濟學の一般的概念……三三〇
- 第五、價格の本質……三三二
- 第六、價格の使命……三三四

竹堂春秋時論

一 企業整備と國民思想

筆者が過年來強調し來つた過去實績による被統制企業の封建的保護の撤廢が漸く實踐期に入り、今回發表されたる小賣業整備令に於ても或程度の實績否認の態度が認めらるゝに到れることは、實に欣ぶべき事柄である。實績否認の筆者の主張は、併し乍ら、唯單に封建的世襲的企業獨占の弊害についてのみ云々するに非ずして、眞に憂慮すべき點は、國民思想に關聯するものであり、この重大問題を眼目として取扱ふべきにも拘らず、朝野の識者が此點に一顧だも與へざるがために、將來に於て必ず國民指導の役に在る人々が後悔するの日到るべきを豫想して、特に強調する次第である。

謂ふ所の過去の實績なるものは、個人自由營利主義の時代に於ける實績であつて、かゝる實績

を今日に於てもなほ更今後に亘つても永久に認めんとすることは、個人自由營利主義そのものを永久に承認すること、實體に於て同一の結果に陥るものである。國家の要請に應じて犠牲となるものは、今日の場合に於ては、個人自由營利主義時代に於て最も多くその恩恵に浴して富を獲得したものであるべきで、純真正直なる人間にては到底成すを得ざる致富の途を歩んで來た人々を永久に保護することは、果して國家主義の強調されつゝある今日適當の處置であらうか。今日迄の企業整理に於ては愚直なるものは斥けられ、個人自由營利主義時代に敏腕家として賞揚されたユダヤ的性格の最も勝れたるものが覇權を握つて居る事例が非常に多いのである。

米英を撃滅しユダヤの制覇を根絶せしめんとする大東亞戰爭に於て、國內にあつてはユダヤ的性格の勝れたることによつて經濟界の王座を占むるに成功せる幾多の成金者流が今後永久に亘つてその覇權を法の保護の下に保障されることは、國民思想の觀點よりして果して黙過し可なりであらうか。政府當局は想を此點に到して純真誠忠なる國民の志を壓して他日に悔を残さざらんよる最善の方法を講ぜんことを熱望して己まなす。(昭和十七年五月三十一日稿)

二 邦人南方進出對策綱概

一、可能的最大量の邦人進出を企圖すべし。

理由Ⅱ 滿洲及北支の重要性を第一義として邦人の南方進出を抑制せんとする主張をなすものあるも之は思はざるの甚しきものであつて、我國民の直接の手によつて南方生命線を確保する方策を採らざれば遠からざる將來に於て米英蘭等の反撃を受くる可能性を増すものと思はる。滿洲北支は我國本土と極めて近接せるも、従つて如何なる軍事的措置も急速に行ひ得る利便あるも、南方諸地方は本土より遠隔の地にあり之に對し本土より應急の對策を講ずるに時間的に相當の遲滯を免かれず、其所に常時の備えあるを必要とすることは、滿支に於けるそれに幾倍するものと考へらる。可能的最大量の邦人を進出せしめ置く必要あるは贅言を要せざること、信ず。

二、進出邦人に國家的任務をも負はしめることによつて一石二鳥の効果を收むる如くすべし。

理由Ⅱ 進出邦人をして單に經濟關係のみの任務に服せしむるに止まらず、進んで之に軍事的並

に治警的任務をも帯はしめ南方第一線の國防と治安の責に任せしめることによつて一石二鳥の効果を擧げ得べし。即ちそれによつて駐屯軍の兵力を節約すると共に進出邦人の指導的資格をより多く保持するを得べし。

三、進出邦人の選擇及訓育の目標を二重任務遂行の適格性に置くべし。

理由Ⅱ政府に於ても南方進出者の選擇及び訓練教育について特に配慮しつゝあるが如きも、その目標は單に經濟的進出に重點を置き總力戰的觀點よりする何等の配意も行はれ居らざるを以て、此際進んで進出邦人に對して軍事的並に治警的訓練を施し、その人格の陶冶を完遂して、南方諸地方に於て眞に如何なる觀點よりするも指導者たるに恥じざる如き人物に仕立て上げて進出せしむるの用意を缺いてはならない。

四、進出邦人の二重任務遂行方法の例示。

例示Ⅱ例へば邦人小賣商店主並に店員に對し同時に地方村落の武装警察官たるの資格を與え、各地全村落に邦人小賣商店網と同時に治警網を張り廻らせば、完全なる軍治的行政組織を整備し得べく、恩威並び行ふことによつて全地域を安住の樂土たらしめ得る筈である。

勿論前項に述べたる進出邦人の人格陶冶の完成が前提たるは言ふを俟たない。

五、現地永住不可論を排す。

理由Ⅱ邦人が南方熱帯地方に永住する場合、民族的素質の低下すべきを理由として、南方への移住を反對するものもあるも、是は一を知つて二を知らざるものと云はねばならぬ。即ち、今次のマレー戦線に於て看られし如く我國の戰陣醫學の進歩は克く熱帯病を征服して餘りある如く、南方地方生活様式について科學的検討を加え、家屋並に食物及び衣料につき一大革新を斷行するならば必ずや民族的素質の低下なくして永住可能なることを確信する。又隔年乃至三年毎の内地との歸往住制度などの採用によつて補足手段を講ずることも可能である。殊に國內には潜在失業者とも稱すべき、仕事なくて遊んで居るもの又は仕事らしき仕事なくて就業を假装して居るもの、合計して數百萬人に達する現狀に於て、人的資源の不足による南方進出不可論は一顧だも値しない謬論である。(昭和十七年二月八日稿)

三 南方新領土統治策一般

前編 總論

一、概 説

今次の大東亞戦争に依て占領下に置かるべき舊蘭領東印度諸島及舊英米領諸地方は、何等の運疑もなく當然 天皇の直接領有に歸すべきものであつて、大東亞戦争以前の英米蘭制覇時代に於て考へられた如き傀儡政府を樹立して獨立國の形式を採る謀瞞方策は採用さるべきではない。又英米蘭制覇時代に於て起生したる獨立運動は 天皇政治にあらざる霸道政治下の獨立運動なりしを以て 天皇政治下に置かれる場合に於てもなほ舊來の觀念による獨立運動を許すことは 天皇政治に對する反逆を容認するものなるを以て絶対に許容すべきに非ず。従つて比島獨立等は絶対に排撃すべきである。所謂南洋通と稱する人士の言議には聽くべき多くの點あるも、支那事變當初及び中期迄に於ける所謂支那通の建言が、すべて青年支那を知らざるため甚しく支那事變處理を妨害したる先例に鑑み、英米蘭制覇時代に於て南洋の或一面に偏したる生活をのみ經驗したる人々の議論には、大東亞共榮圈を新らしき皇道理念によつて創建する理想なくした樹てられたる

もの多きを以て、彼等の建議をその儘請け容れることなき戒心を必要とす。蓋しそれはすでに述べたる 天皇政治の神聖性を冒瀆するの惧多きを以てなり。大東亞共榮圈統營の根本目標は我國を理想國家の境域にまで昇すに存することは言ふを俟たない。従つて南方諸民族の人心安定を求めると急にして彼等に倭ねるが如きことあらんか我國家目的の達成は却つて不成功に終る惧なきに非ずやと思はる。勿論彼等原住民並に善良なる來住民の生活安定を圖るべきは論を俟たざるも又然かする事か皇道政治本來の道なるも、支那事變に於て見られし如く我國の利益を害して迄も彼等の歡心を買ふ必要は絶対に存しない。

大東亞戦争は或一定期間内に終焉するを豫想し得る如きものにあらずして、世界永久戦争たる性格を有するものなるを以て、占領地に向つて多數の我國民を送り、百般の事項に亘つて指導的生活を営ましむるに非ざれば良く國防の目的を達する能はざるものと考へる。従つて北滿開拓民に對して行ひつゝあるものとは性質に於ては異なるも、類似の而も一層卓越したる方法を實施して、眞の日本人の永久的移植を圖らねばならない。又それと同時に並行して敵性國人の占領地外放逐を敢行すべきであり、安價にして似面非なる人道主義にかぶれて、彼等を永久に占領地に居

住せしむるならば、世界永久戦争に於ける敵國の對占領地謀略を根絶するを得ないであらう。

上述する我國民の永久的移植のためには、國內のあらゆる企業の整理統合を促進して、少なくとも三百萬人以上の人を選出して之を南方に送るべきであり、政府は之等の無資産者に對して永久安住の資金を無償にて給與するの英斷に出づることを切望する。利子を附し制限を附したユダヤ的資金貸出法による南方經營金庫案の如きものによつて、南方生命線確保の戦士を遇することは政府として採るべき道ではない。

之を要するに、我國の永遠の隆昌を保障するに足る南方生命線上の諸地方の統治は、安價なる人道主義によつて禍さるゝことなく、確固不動の 天皇政治の實施によつてのみ治績をあぐるを得るものなるを以て、政治の局に當る人々は深く思を茲に致さんことを切望する。

猶最後に附言したきは、大東亞共榮圈の範圍は能ふ限り早き時期に於て西南は英領印度に東南はニュージールランド若し能ふべくんはサモア諸島以東に迄も擴大すべきであり、又同時に支那變事をビルマ攻略と同時に終焉せしめ、南方地方の過剰生産物の消費地を支那大陸に求むるの用意を怠つてはならない事である。

二、基本方針

(イ) 我國を理想國家にまで仕立上げることと根本方針とすること。

註 理想國家とは一に完全國家とも稱し得るものであつて「拙著國防國家と經濟新體制」中に述べたる如く「經濟的には自給自足が可能でありより多くの經濟的福祉のために他國との通商に於て對等の地歩を有し且つ思想的にも政治的にも完全なる統一が行はれ不可侵不脅威の武力を持つ」如き國家を意味する。如何なる政治經濟文化の各方面に亘つての施策が、南方占領地に對して行はるべきかは、一に上述の目標の措定なくば決定を見得ざるものである。

(ロ) 理想國家完成のためには南方占領諸地方を悉く我國の直接領有下に置くこと。

註 南方地諸方を直接領有下に置くにあらざれば理想國家の完成は絶對不可能である。而して南方共榮圈なる言葉の裡には、南方諸地方が獨立國家として我本國と對等の地歩に立つことを豫想したる意味が寓されて居る。従つて南方共榮圈なる言葉の使用を今後廢止して之に代るに、大東亞共榮圈中の南方新領土地方を一括して南方新領土圈と呼ぶべきであり、又佛印泰支那滿洲に對しては佛印圈泰國圈支那大陸圈等の名稱を附すべきである。

三、實踐要綱

(イ) 政治は 天皇直屬の總督政治とする事。

(ロ) 南方諸地方を比島地區、ボルネオ及セレベス地區、ギニア地區、ジャワ、スマトラ地區、マレイ地區等適宜の地區に區分して各地區に總督を置くこと。

(ハ) 各地區の財政經濟は各地區毎の自給力を高めつゝ同時に、本土地區への絶對的奉仕をなすべきこと。

註 世界永久戰に於ける防衛並に進攻作戰の必要上、各地區毎に或程度の自給能力を各地區の自然的並に人爲的條件を顧慮して育成すると同時に、各地區は本土地區に於ける財政經濟各般の實力充實向上に關する要請に絶對に聽從する要あり。勿論本土地區に在つても各南方地區の自給策を尊重するに吝であつてはならない。要は大局の判斷を誤らず緩急宜しきを得て我國を本土及び新領土を打つて一丸とせる理想國家となすの目標に向つて進むべきである。

(ニ) 民族對策の主眼は漸を逐ふて原住民を皇國民たらしむるに在々も、各地區毎の住民の性に照しその程度宜しきを得ること。

(ホ) 經濟對策は現今本土地區に於て行はれつゝある如き拙劣なるものを成るべく速かに清算し、筆者の主張する「皇道自由經濟體制」を完備すること。

註 南方各地區の生産力を善用して物資の不足を克服し、常に餘裕あを物質經濟體制を確立し安價豐潤の理想状態を現出せしむるにあらざれば、世界永久戰の勝者たる地位を確保し得ないであらう。物資豐潤による低物價は實質的低物價政策であり、そこには最早拙劣なる經濟統制を必要とせざる而も各人が己の欲する儘に行つて法を犯さざる經濟生活の基礎が築かれる譯である。即ち皇道自由經濟の體制を整へ得る筈である。

後編 各論

(但當面の問題處理について)

一、占領地の歸屬及び行政の問題

(イ) 占領地は日本領土に編入すること。

註 宣戰布告されたる限り占領地は當然日本領土たるべきものにして又然かすることによつて

のみ完全なる戦果を收穫し得べし。

(ロ) 占領地内外の治安回復までは軍政を施行すべきも回復後は速かに 天皇直屬の總督政治を以てすること。但し總督は文武官何れにても任用し得ること。

註 數十年乃至數百年間英米蘭の屬領たりし歴史に鑑み、之等諸島の獨立を認むる必要なく、寧ろ原住民に直接皇化を及ぼし、以て南方第一線の護りを固くすべきである。

(ハ) 英米蘭時代の行政機關は差支なき限り殘存せしめ利用すべきも原住民以外に英米蘭人及び華僑等を行政官に任用せざること。

註 皇道政治の徹底化を圖り且つ敵性の片鱗だも殘存せしめざるため、原住民以外の者は絶對に軍政乃至總督政治に直接又は間接にも關與せしめざるを要す。但し本國より派遣の官吏又は現地任用の本國人又は原住民官吏が行政に通曉するまでの期間、便宜上英米蘭人等の官吏を引續き利用するを妨げず。

(ニ) 當面の政治の目標は本國への國防資材の供給確保に存するも、極めて急速に英米蘭時代と同程度にまで原住民の生活状態を回復せしむること。

註 戦争のため生じたる混亂状態を收拾し 速かに少なくとも英米蘭時代に於ける如き状態にまで住民の生活を回復せしむるに非ざれば、國防資材の對本國供給は勞働力獲得の困難により著しく妨げらるゝものと思惟す。

二民族並に敵性人處置の問題

(イ) 民族意識の啓發は努めて漸進的なるべきこと。

註 原住民族の在來の習俗を尊重しその精神状態の平靜を圖るの肝要なるは言ふを俟たざる所にして、原住民と日本人と同祖同族の故を以て直ちに本國人と同一水準に待遇することは、却つて自覺なき原住民の徒らなる錯覺を誘發すべきを以て、徐ろにその自覺向上を誘導する方策を採るを可とす。

(ロ) 原住民族の精神並に物質生活の水準向上は是亦努めて漸進的なるべきこと。

註 英米蘭の植民行政による原住民の民族的自覺の缺落は、我國が彼等の爲になす急速なる精神的な生活並に物質的生活の水準向上のための努力を、過重なる負擔を彼等に課するものと見做し、却つて原住民の怨を買ふべきを以て、教育その他凡百の原住民の生活向上の指導は極

めて漸進的なるを可とす。

(ハ) 敵性華僑並に英米蘭人の政治關與を嚴禁すると同時に出來得る限り之を占領地外に驅逐すること。

註 一、の(ハ)に述べたる如く英米蘭人は言ふに及ばず敵性華僑を悉く占領地外に放逐し、主として我本國人と原住民による社會を構築すべきであるが、所謂「まつらふもの」を厚遇する意味に於て眞に皇道政治に服従する者の居住は許可すべきも絶対に政治に言議を用ゆることを許容してはならない。安價なる人道主義的考え方は此際一擲すべきである。

(ニ) 樞軸國人の取扱は友誼的なるべきも、ユダヤ系樞軸國人極めて多きを以て、此點に留意し敵性あるものは嚴に處罰し占領外に放逐するを辭せざること。

註 非敵國人中には非敵國籍を利用して敵性を隱微の間に發輝するものあるを以て、決してその取締を寛にしてはならない。日本人の正直さと單純さを以て之に對する計慮を怠つてはならぬ。

(ホ) 獨立運動者を絶対に彈壓すること。

註 所謂獨立運動者なるものは多くの場合一個の企業性格を持つものであり、自己の生命の安全を托せる亡命先の國家に對しその獨立後に於て必ず反抗的態度に出づるものなることは事實の常に教示する所である。又我國に於ける之等獨立運動の同情者乃至庇護者も時代錯誤に陥り居るを以て之が迷想を啓發する要あるも、要するに 天皇政治の恩澤に原住民を直接に浴せしめることこそ人道に則せるものと言ふべきである。原住民は必ず皇道政治に信賴し安居樂業すべきを確信す。

三、財政金融に關する問題

(イ) 租税は英米蘭時代のもの繼承すべきも人頭税的租税を全廢すること。

註 原住民に對する善政の第一として英米蘭時代に課せられたる人頭税的な苛酷なる租税を廢止する必要あり。

(ロ) 本國人官吏の俸給を蘭印時代の如き高額となさざること。

註 英米蘭時代に於ては官吏俸給の形態による富の搾取甚しかりしため、住民に對する財政的負擔大なりし事實に鑑み、努めて本國人官吏の俸給を低くし置く必要あり。

(ハ) 英米蘭時代に於けるが如き輸出超過の状態は當分の間望み得ざるべきを以て財政は極度に緊縮を餘儀なくさるべきこと。

註 南方圏の生産物が多く相互類似性を有するを以て大東亞共榮圏内の相互消費によるのみにては生産過剰を來たすものが多きが故に、各地區に於て戰鬪の一應の終了を見るも直ちに均衡状態の回復不可能なるべきを以て、占領地自給財政としては緊縮方針の下に進むべきものと思惟す。

(ニ) 通貨は在來の通貨を繼承し發行制度は正貨準備無き保證發行制度とすること。

註 ギルダー、ペソ等の通貨を繼承し各地發券銀行も亦在來の機關をそのまま指定し無準備保證制度の下に管理通貨たる紙幣を發行することを可とすべし。保證準備用の證券は軍政施行中は軍政部發行の軍事公債を以てし之に對し紙幣を發行することとし、その軍事公債は他日日本本國政府に於て肩代りする條件の下に發行するものとす。戰鬪行為中の發兌にかゝる軍票はなるべく早期に右幣と交換回收することによつて軍票の亂發を阻止すべきである。

(ホ) 金融機關は在來の諸機關を利用すること。

註 英蘭時代の金融機は極めて適地的に整備され居るを以て、そのまま繼承利用すべきものと考ふ。

四、經濟に關する問題

(イ) 共榮圏内相互需給によつて調整し得ざる過剰物資の生産は(甲)生産制限(乙)備荒貯藏(丙)戰備貯藏(丁)耕地轉換等によつて調整すべきも、需要方面並に需要地區の急速なる擴大を圖つて、成るべく生産制限を行はざる如くすること。

註 支那事變の急速なる解決による支那五億大衆の需要喚起は過剰生産の一大救濟方法であるべく、又消費方法について新機軸を案出して需要の増大を圖るべきである。

(ロ) 各地區重複物資の生産調節については大局的見地より均等の負擔を課する如くし、或一地區に過重の負擔を課せざるよう留意すること。

註 例へばマレイ地區とジャワ、スマトラ地區とボルネオ地區の石油ゴム又は錫等の生産調節に當つて、マレイにのみ或はスマトラにのみ大なる生産制限の重壓を加ふべきではない。又臺灣と比島とジャワの砂糖についても同様の考慮が必要である。

(ハ) 海上輸送機關の急速なる擴充のためには、各地區殘存の造船造機設備を利用して、木造船の建造に努力すると同時に、最も生産困難なる汽機汽罐の製造に關しては本土地區内の生産機關を極度に利用して、南方各地區の船體建造に適合する如く努むること。

註 南方各地區には船體の建造設備多きも、汽機汽罐の製造設備少なきを以て、内地の生産能力を以て補ふ必要あり之が調整は極めて困難なるべきを以て、本土政府に於て特に努力する必要ありと信ず。

(ニ) 南方各地區經濟自給力向上のために必要な資材にして本土地區内よりの供給に俟たざるべからざるものについては、特に本土政府に於てその調達に考慮を費すこと。

註 右は特に化學藥品及機械の方面に於て痛感されることと信ずるを以て、今日より應急對策を考へ置く必要あり。(昭和十七年一月十二日稿)

四 南方新領土統治策一般補遺

一、占領地の獨立は絶対に許す可らず。

理由 占領地の獨立を許すべしとの議論あるも、占領地の獨立は我 天皇政治の尊嚴を冒瀆す 惧るあるを以て絶対に容認してはならない。舊獨立國の歴史的尊嚴性については議論の餘地なきも、例へば從來米英蘭時代の屬領の行政官に過ぎざる可き程度の者を獨立體の元首とするに到つては、吾人忠良なる臣民は之を默するに忍びないのである。政策的欺瞞政府を樹立しその代表者をして、天皇に對し對等の禮を執らせる如きは果して許さるべきであらうか。そればかりではない。我本土内では中小業者が父祖傳來の家業を失ない、獨立の業務を捨て、他人の雇傭者となり、辛苦艱難の生活をも心から國家のためでめると觀念して實踐躬行しつゝある際、昨日まで敵性を發揮し邦人婦女子の虐殺をも敢てせし者共に對し、米英式個人自由主義の獨立國家を形成せしめ、表面的な協力態度に満足する如きことあらんか、如何にして本土内國民の不滿を解き得ようか。

須らく新領土は 天皇の直接的御領土にしなければならない。

二、占領地各地區の或程度の經濟的自給力の培養は軍の機動力を増す上より見て絕對必要なり。

理由 一般海上輸送力の充實は鐵鋼の増産能力と軍艦、航空機建造要求の急増に鑑みて、相當

の歲月を要すべきを以て、一般民需品の原料を南方地方より本土へ輸送し之を製品として再輸送する如き船腹不足を加重する方法を極力避け、本土地區内の遊休未働機械類を南方地區に移出し、それらの地方にて獲得し能ふ原料に依てそれ等地區内の民需充足の方策を講ずべきであり、それは又同時にそれ等の製造能力を利用して民需以外に軍需の充足にも當らしめ、兵器彈藥以外の軍需品の多くの部分を現地にて調辨して、本土よりの兵器彈藥の輸送能力を極度に培養し置くことによつて、軍の機動力を増し、南方第一線の國防を完璧たらしめ得べしと信ず。

三、現地自給力の培養は現地失業者救済のためにも絶対必要なり。

理由 南方新領土に於ける生産物は各地區に於て多く重複し居るを以て、又英米並に獨伊等への輸出不可能なるを以て、甚しき生産過剩を來すべく、之が對策として生産制限が必然的に行はれるべきは豫想に難くないのであるが、生産制限を敵性國國營又は敵性國人經營の企業に對し行ふ場合、經營者側は戰爭當然の結果に對し責任を負ふものなるを以て問題なきも、雇傭労働者特に原住民労働者に對しては、我方に於て格別の救済方法を講じ、彼等の生活維

持を圖るべきである。その救済方法のして現地自給對策が極めて良き方法であると信ずる。

四、占領地と本土間物資輸送に關聯して生ずる外國爲替相場の觀念を排除するを要す。

理由 占領地が我國の領有に歸する限り占領當時又はそれ以後の治安回復期中に於てはそれ等各地區に從來流通せる通貨を軍票と並行して通用せしむるを便とするも、永久對策としては本邦通貨圏内に收容さるべきものなるを以て、占領地と本土間に外國貿易關係が成立して輸出入の不均衡より生ずる外國爲替相場の變動が生ずる場合は如以にすべきかを考ふることは全然意味なき杞憂である。速かに圓通貨圏を成立せしめることによつて外國爲替觀念は解消せしめると同時に事實上圓直系通貨圏の成立し得る如き各地區毎の或程度の自給制の確立と各地區毎の經濟關係の均衡を招來する如く施策すべきである。(昭和十七年二月一日稿)

五 大東亞皇榮圈完成の方途

一、何故大東亞皇榮圈といふか

只今御紹介を受けました武田でございます、一昨年十月綿業會館におきまして時事通信社が催されました今晚と同様の講演會の席上におきまして、今日の大東亞戰を豫言いたしました、いろく大東亞共榮圈が如何にあるべきかといふやうな事柄をお話致したのでありますが、その際に、御聴衆の皆様方がまださういふことがあるべきであるかどうかといふことについて何等の知識をお持ちになつてゐなかつた時でございますので、今日いはれてをります大東亞共榮圈、さういふものがあり得るのかどうかといふことについて大變疑問をお持ちになりました、一體お前のいふ大東亞共榮圈においては、お前のいふやうなさういふ物資が澤山あつて自給自足が出来るやうな状態になり得るのであるか、さういふことを實際調べていつてゐるのかといふ風な御質問が、講演會終了後に起つたことがあるのであります、今日におきましては最早さういふ疑問をお持ちの方はお一人もいらつしやらないのぢやないかと私は確信するのであります、しかし國內におきましてはまだこの戰爭の前途について、大東亞共榮圈を如何にすべきかといふことについて、確信をお持ちにならない方がないでもないと聞いてをります。

時事通信社からは「大東亞共榮圈はいつ完成するか」といふ題を與へられたのであります、

どうも易者か何かでございませぬと、何年何月何日まで完成するといふお請合は致し兼ねる。共榮圈の完成の時期を豫言致しますことは、恐らく何人も不可能ではないかと考へる。又この戰爭がいつ終るかといふことの豫言もこれまた絶對不可能ぢやないかと思ふのであります。で私は時事通信社から與へられました試験問題を私自身勝手にこゝに掲げてあります「大東亞皇榮圈完成の方途」といふことに書替へました。先生の試験問題を生徒が勝手に書替へて答案を書くといふことは、學校では落第生になる譯であります、時事通信社では落第をさせないで寛大な御處置で演題をかういふ風に書替へられてをります、これでお話をさして頂きたいと考へてゐるのであります。しかし最初に與へられました「いつ完成するか」といふことについても私の及ぶ限りの解釋を加へて見たいと考へてゐるのであります。

この演題を御覧になりました、どこか一字皆様が不斷新聞雜誌で御覧になつてゐる熟語と違つた漢字があるやうにお感じぢやないかと思ふのでございますが、どれか一字違つてをりまんでございませうか、それは私は機會ある毎にいろくの會合いろくの研究會なんかにおきまして、常に主張してをります事柄なんであります、それはこの東亞共榮圈を完成しますについては國

民の意氣込と申しますか、寧ろ國民の心得を端的に文字の上には表はしますには、私はこゝにあるやうなかういふ熟字でなくつちやいけないといふ信念の下に、皇榮圈と致してをります。何故に私が皇榮圈と致しまするかと申しますと、その理由は他ではないのでありまして、共榮圈の中心は皇國であります、皇國を中心としての共榮圈なれば寧ろ皇榮圈、皇御國が中心となつて各民族に對しその所を得せしめ、繁榮の圈が出来るのがいゝんぢやないか、そこに日本の皇道政治と申しますか、さういふものはつきり現はれた共榮圈といふものがこの文字によつて明確に示されてゐるんぢやないかと思ふ。私の關係してをります或る新聞の論説に、私は大東亞共榮圈は須く皇榮圈に書直すべしといふ論文を書いて置きましたのでありますが、未だに情報局では書換へませんところを見ますと、情報局でまだその論文を見て下さらんぢやないかと思ふ。今夕の講演會の速記が出来ましたならば、情報局に送りますれば、少くとも奥村情報局長なんかは私の説に双手を擧げて賛成してくれるんぢやないかと確信するのであります。

この大東亞皇榮圈は如何なる範圍のものであるかといふことについては、一昨年十月既に私は述べて置きましたが、今日々本の第一期作戰計畫の地域、西南はビルマ、東京は舊蘭領印度にお

いて終つてをりますが、しかしこれから後皇軍の進みます道は、申さなくても自ら明瞭なところでありまして、濠洲とか或は印度とか南阿方面、或は南米方面まで戦の手が伸びるであらうといふことは明かに想定し得るのであります。

私は本年春の衆議員議員選挙の際に、私の友人の應援を頼まれましたが、その時數回そのことを述べました、實はその候補者の方には大變お氣の毒でありました、その候補者は私が演壇に立ちますといふと、候補者を禮讃をしまして是非この候補者に投票して貰ひたいといふことを懇々頼んでくれるだらうと思ひになつたと存じますが、しかるに私は立ちまして、大東亞皇榮圈のことばかり申しました、日本の將來あるべき經濟は如何なるものであるかといふことを述べて、終りにちよつぱりこの候補者はさういふ皇榮圈を確立すべきために是非選ばなければならぬ代表的ものであるといふことを附加へただけであります。幸ひその方は當選をされましたからいゝやうなものゝ、もし落選でもしましたら私は大變なお叱りを受けてをつたんぢやないかと考へるのであります、そのやうに私は機會ある毎に叫んでをります。

この皇榮圈の完成の方途について詳しく述べます前に、一度元に戻りまして、時事通信社から

與へられました答であります「大東亞共榮圏はいつ完成するか」といふ、その時期の問題に觸れて見たいと思ふのであります。

二、大東亞戦争は永久戦なり

それには先づ第一に皆様方と研究を致さなければならぬのは、この戦争がいつまで続くかといふ問題であります、私の友人の或る陸軍大佐などは「百年戦争宣言」といふ書物を書いて世に問ひましたし、大阪毎日新聞にも數日に亘つて連載されましたので、恐らく皆様もお讀みになつていらつしやるだらうと思ひますが、多分三年以前の話だつたと考へます、ところがその當時百年戦争なんて馬鹿なことをいふといつてをりましたが、最近では殆ど何人も、もう無意識的に長期戦、百年戦争といふ言葉が用ゐられてゐる。しかし私は今回の戦争は長期戦といひますと或る期間を限られた戦争のやうに聞える、百年戦争といへばこれは永い戦争といふ形容詞であるが、正直に受ければ百年かゝれば済むんぢやないかといふ風に考へられるが、私の考では今回の戦争は百年戦争でもなければ期限のある長期戦にあらずして、世界永久戦であるといふことを申してを

ります。従つて與へられました試験問題の「いつ完成するか」といふ時期は、實は私の考にはないのであります。もし戦争が続くことが皇榮圏完成の障碍であると見ますなれば、永久に皇榮圏といふものは時間的には完成し得ないと思ふのであります。しかし事實においてこれを完成せしむる方法は幾らでもあるのであります。

何故私が今回の戦争を永久戦であるかと申しますと、御承知のやうに英國及びアメリカは全世界に經濟的資源をもつてをります、これを叩き潰すことはなか／＼容易なることではない、既に支那事變においてあの廣大なる地域に皇軍が作戦を致しまして滿五年になります、未だにいつこれが平定されるとも判りませぬ。ドイツがロシアを撃つてをりますが、これも昨年戦争を始めた時は、數ヶ月にして打破ると考へられたのであります、實際今日ではロシアを完全に潰滅せしむることは不可能であるといふことを、ドイツ當局者は言明してゐるやうであります。従つて私の考では、恐らくこの戦争がいつ済むといふことについては何人も斷言し得ないと信じてゐる譯であります。

それなれば何故に永久戦と申しますかといふと、これは一昨年十月に私が申しましたやうに、

今回のやうな戦争は所謂總力戦で、國家の總力を擧げて戦ふ、しかも戦ふ方法が單純に彈丸で打破るだけの戦争ではありません、最近やかましくいはれてをります防諜に關聯してゐる思想戦なんかは、彈丸を撃ち合つてゐない間にも行はれてをります、また經濟戦といふものは、戦争を致しませんでも、常に日常戦はれてゐる戦争であります、かりにロシアが暫く摺伏しますか、或は英國が手を擧げる、アメリカが休戦を申出るといふやうなことがあると致しましても、戦争といふものはそこで終つたのではないのであります、これを總力戦的に見ますれば、不斷にかういふ戦争は行はれてゐると見なければならぬ、そこに私の申します世界永久戦といふ性格が總力戦の性質と御諒解になれると思ひます。事毎に御覽になれば如何にも尤もであるといふことが御諒解つくと信ずるのであります。さういふ總力戦的考へ方をもつて今回の戦争の處理が行はれるであらうと考へます。

戦争の経過を想像致しますと、御承知のやうにアメリカ軍隊の士氣は甚しく振はないやうであります、英國の軍隊もシンガポールその他が陥落します以前における行動、或はビルマの戦鬪に徴しますと非常に弱いやうであります、しかしこれは非常に速い出先での戦争で、自分の本國

又は自分の國の存立が、根底から覆へるやうな心配のある場合になると、極めて強力な抵抗を現はすものである。英國或はアメリカの兵隊は決してわれ／＼の考へてをりますやうな、抗日支那の兵隊よりも弱いものではないのであります、彼等の多くは或は商會、銀行邊りに勤めてゐる人の狩集めとか植民地軍の狩集めとかによるので非常に弱いのであります、今後の英軍、或は濠洲軍、米軍は絶対に侮つてはいけない、もしさういふ弱い軍隊であつたとするならば今日まで待ちませんでも、わが軍隊は今も恐らくイラン、イラク邊りまで行つてゐるんぢやなからうか、メルボルン、シドニーもとつくに陥落し得たんぢやないかと思ふ。

最近濠洲におけるアメリカの空軍の陣容なんかを見ますと、決して侮ることの出来ない優勢なものであることが判るのであります、特にアメリカのやうな非常にスポーツの盛な國におきましては、地味な戦争より空軍による派手な戦争は非常に得意なところでありまして、わが忠勇なる、また世界に冠絶してをります荒鷲をもつてすればこれらを打負かすことは容易であります、しかし皆様が毎日御經驗になりますやうに、例へば茶碗の上に一匹の蠅がゐるとすれば、これを追拂ふことは容易であります、何十匹、何百匹、何千匹の蠅が假りに茶碗を襲つて來たと

した時に、蠅打の一本や二本でこれを追拂ふことは不可能で、滿洲或は北支にいらつしやつた方は御経験がありませんが、滿洲の蠅は内地にゐる蠅と違つて鼻の中口の中まで侵入して來るものが澤山をる、さういふことを比喩としてお考へになりますと、アメリカの空軍、英國の空軍が死物狂ひになつて數多くやつて來るならば、加藤少將のやうな方がをられましたも、容易に撃滅し得ないのぢやないかといふことを私は心配してをります。

英米の軍隊が物質に頼つて精神が全くお留守であるといふことをよくいはれます、明らかに日本軍隊に比べて精神的には非常に劣弱であります、しかし物質といふものは精神の缺陷を補ふに十分に役立つものであります、例へば飛行機が百臺と百臺ならば士氣の盛んである方が勝ちませう、或は百臺と二百臺の場合でも士氣の旺盛な百臺の方が勝つかも知れません、しかし百臺の飛行機に對して十萬臺の飛行機が敵にあれば如何に士氣の旺盛なわが空軍にしても敵を撃滅することは容易でない。こゝにアメリカと英國との物質的の力、或は工業生産力の威大さといふものを計算に入れますならば、或はニューヨークの灣頭において觀艦式を行ひ、或はロンドンにおいて入城式を行ふといふ事はいふは易くてなかく行ひ難きことぢやないかと私は心配するので

あります。

かく申しましても別に戦争の前途を悲觀して申すのぢやありません、さういふ状態であるとするならば、わが大東亞皇榮圈を如何にして完成せしむべきか、大東亞皇榮圈を或る意圖の下に或る方法によつて完成してをけばアメリカ或は英國が何年經つて日本に抵抗して來ようとも、わが國は微動だもせずしてこれを拂ひのけ、おしまひには撃滅することが出来るのである。それは敵を侮らずして敵の勢力を十分認識しながら、自らの力を培養して行くことが大東亞皇榮圈完成の方途として先づ第一にわれ／＼が尊重しなければならぬ方針ぢやないかと考へます。どうかこの世界永久戰的性格であるといふ今度の戦争の性格をよくお呑込み下さいまして、決して今日までの戦争を見て英米が今にも屈服するんだといふ風なお考へを持たれぬやうに、皆様に希望致します。

私達がこの英米撃滅の方策を立てまして是非これをやつて貰ひたいといふことを政府その他當路に要望しました際に、さういふことは甚だ無暴なことであるといつて諫めました民間人が澤山ありましたが、昨年十二月七日午後十一時五十九分まで、英米と戦争する不得策を論じました方

は、殆んど日本國民中の十中八九までぢやなかつたかと考へるのであります、今日の戦争がかくも憚かしい戦果をもつて進みましたことは、日本が進むべき本然の道を進んで行きましたからであります、支那事變をやるよりも先づ英米撃滅を先にすべきであつた、しかるにそれを後にして支那に手を染めましたがために支那事變といふものが長くなつた、一昨年十月申しましたやうに英米が支那をして日本と戦はしめてゐる、その奥にあります策謀の本元を衝かずして、傀儡になつてゐるものを幾ら撃ちましても、事變の終息を見ないことは明らかであります。

今日私が大東亞皇榮圈の方途についていろ／＼と論じますについても、恐らく皆様も大部分、或は世間の識者はさういふことは駄目だ、或は絶対さういふことはないだらうといふ風な反對のお氣持を持つていらつしやるだらうと思ふ、これは何年か後において初めて實證されることでありまして、今日何れが正しいかどうか、議論を致しますことは水掛論でありますから、それは致しませぬが、とにかく世界永久戰的性格といふことを先づ最初に前提條件としまして、大東亞皇榮圈完成の方途につきましてこれから順次述べて見たいと考へるのであります。

三、大東亞民族政策の核心

先づ私は民族問題から論じて見たいと思ふのであります、今日世界においてやかましくいはれるものは民族問題で、ナチスがその威力を振ひましたのは、一つはドイツの民族意識を宣揚したからであります、所謂アリアン人の純血を保ち、ドイツ帝國は昔のゲルマン帝國の姿に還るべきであるといふ民族意識をもつて國民を激励しました、又イタリーは舊ローマ帝國を復活すべきであるといふムツソリーニの言葉によつて、國民を率いてファシストの團體が出来、今日のイタリーになつたのであります。それで民族問題を日本において論じます場合には、いさゝかドイツ或はイタリーと趣きを異にした取扱をしなければならぬ、或は漢民族である、或はインドネシヤ族である、或はスペイン的の民族がフィリッピンにゐるとか、さういふやうなことを言つたんでは私は大東亞皇榮圈の民族問題は解決しえぬ、民族問題といふものは人間の氣持の上に非常に重大な影響を持つものである、お互が親戚であると考へますと非常に親しく考へますが、他人であると考へますと非常にその間に意志の疎隔を來すことは、われ／＼日常生活において常に經驗す

るところであります。

私は何民族であるといふことは絶対排撃しまして、總べての者は皇民族であるといふ、この大きな皇民族の懷に大東亞の全民族を抱擁するくらい大きな民族的理想、或は思想をもつて皇榮園の經營に臨まなくてはいけないと思ふ。インドネシヤ人が日本人によく似てゐる、フィリッピン原住民も同様の種族であるとか何とか新聞に載つてをります、これらのものも日本の肇國精神に照して、すべて皇民族の分れであると考へればいゝんぢやないか、少なくとも皮膚の色が似通つてゐる、顔が似てゐる、言葉も似通つてゐる、或はそれらの南方の島々から發掘されますいゝもの、支那に遺つてをります遺跡あたりから判斷しましても、これらの南方諸民族、或は大陸の諸民族は皇民族と絶対に違つてゐないのであります。

最近の考古學の研究、或は日本民族、特に太古の日本國の發生の歴史を研究してをります方々の説によりますと、日本民族は結局最も東に位する神の國の民族である、アジアの陸地が天變地異によつて埋没する、或は大洋の中に陥没するとかして残つたものが現在の日本、或は大陸、或は南方の諸島であるといふことは、日本の學者よりも寧ろアメリカ邊りの學者によつて主張され

てゐるのであります。外國の學者でさへさういふことをはつきりいつてをります際、日本人が何のために遠慮して日本民族と南方民族が違ふ民族であるといふ必要があるだらうか、私はさういふ遠慮は絶対必要ないと考へる、さういふやうに民族問題を大きく考へて、印度人だらうがフィリッピン人だらうが、すべて大東亞皇榮園の中に入る民族を皇民族として考へるならば、これから日本の行ひます南方經營、大東亞皇榮園の方策はすべてやさしく進行するのであります。

かつて東條總理大臣は議會において、どこそこの國がもし日本に協力するならば獨立を許す、どこそこの民族に對しては日本に協力するならばその所を得しむるだらうといふ演説をされました、これは東條首相の思ひやりとして大變それらの地方の人々に對する親切なお言葉であると感ぜまして、それらの地方の人々は非常に感激をし、また一面民族政策とし、一面思想戰略として極めて巧みなものであつたことは申すまでもないのであります、しかし翻つて只今私の申しました皇民族の大きな考へ方から行きますと、獨立の力のない民族をして獨立せしめて非常な苦しみをさしますよりは、寧ろこれを皇民族として日本の國民にしてやる方が一層親切ではないかと考へるのであります。

例へばフィリッピンにつきましては、勿論アメリカ領有時代にはこれを獨立せしめようといふ案がありました、前ケソン大統領なんか獨立について随分努力したと聞いてをりますが、しかしフィリッピンはアメリカ領有時代の状態では、軍備の状態からいつても絶對不可能で、如何にして國を守るべき軍隊を作り海軍を作るか、これは思ひもよらぬことである、寧ろ日本が占領致しました今日、日本の國民にしてやることこそ、フィリッピン人の幸福ではないかと考へる、軍隊を拵へる軍艦を拵へるといふことになると、フィリッピン人の全所得を税金として國家に奉納しても、恐らく驅逐艦一隻、潜水艦一隻を建造するにも足りないと思ふ、日本ならば片手間で潜水艦、驅逐艦は出来るのであります、また彼等が國內における種々の施設を日本の手によらずして独自の力でやらうとすれば、例へば教育機關その他によつて民度の低い土着民を非常に高度な教育にまで伸してやらうといふ大學、専門學校、普通教育、義務教育といふやうなことを考へますならば、これは數千萬圓、數億圓の費用を要し、これまたフィリッピン現在の住民の經濟力では絶對不可能な事柄なであります、寧ろ日本がこれらの犠牲を拂つて彼等の向上發展を圖つてやつてこそ、これらの民族の幸福になるんぢやないかと信ずる。

このことは他の方面においても立派に適用すると思ふ、それらの民族が自分の力で獨立し得るやうな状態になれば勿論獨立させてやつていゝと思ふ、しかし恐らくその時期に達した場合には、これらの諸民族は皇民族であり日本國民である方がいゝから獨立はどうか止めさせて下さいと願ひ出るだらうと思ふ、日本軍隊がジャバに上陸しますと、インドネシヤの住民は擧つて日本の軍人に手を合して拜み、子供達は兵隊にまつはりつきまして、われは日本人と同様であるといつて喜んださうであります、それらの原住民の考へ方をよく推察してやつて、ジャバといふやうな土地を日本の領土にし、お前達を皇民族の中に入れてやるんだといへば、手の舞ひ足の踏むところを知らずといふ程喜ぶだらうと思ひます、これは大東亞皇榮圈全部に推し及んで絶對誤りのないことと信ずるのであります、勿論各地方によつてそれ〴〵特殊の事情がありますから直ちにさういふことは致しませんが、皇榮圈といふ意義を考へますと、私は長い年月にはそれらの住民が全部日本國民にして呉れといつて願ひ出る時期があると信じ、又さういふ時代が来るやうに大東亞皇榮圈を經營して行かなければならぬと信ずるのであります。

四 南方統治と新國防計畫

そこで今度は新領地の歸屬問題を政治的に申してみたいのであります、民族方策としましては大體今申しましたやうなことでよいのであります、しからば實際に政治的にさういふことがいひ得るかと申しますと、これは漸を追つてその所その場所に合ふ實際政策が行はなければならぬのであります、今日においては現に行はれてゐる軍政下における總督政治が私は一番よいと考へる、これらの新領地を直ちに民治と申しますか、或は自治的のものにするのはいけないのであります、暫くこれを軍政下にをき、或る時期を過ぎましたならば、朝鮮或は臺灣における總督政治の如き政治をもつて南方新領土を經營して行くべきだと考へるのであります。

其等の問題になりますと餘りに専門的になりますので深く入らないことに致しますが、先づその政治に關聯致しまして、第一に考へられますことが軍備の問題であります、こゝに申しますやうなこれらの地方の軍備を各地方の自力によつてやらすことは非常に困難であります、日本がこの軍備の責任を採りますならば、非常にやさしく實行し得る、それはそれらの地方の原住民で

日本に非常に信頼を寄せてをります者の中から軍隊を作りまして、それを特殊な日本の協力部隊として發達させますならば、少數のわが日本軍隊が直接多數のそれらの軍隊を指導致しまして、完全なる國防が南方において行はれ得るのであります。この點は支那における南京政府の軍隊に劣らぬ位の日本に忠實なる軍隊が、原住民によつて組織されると期待し得るのであります。

又南方には御承知のやうに何千何萬といふ島が澤山ある、これらの島々を統治致しますには特に海軍の船をもつて統治するといふこと、正しい言葉で申せば統治の連絡をとることは非常に困難でありますから、寧ろこれは今まで日本にありませんでした陸軍の海上機動部隊といふものを拵へて、それによつてこれらの島々の所謂軍政的の統治を圖るのがよいんぢやないかと考へます。海軍は英米の海軍を相手としてまだ、これから永く戦争をして頂かねばならぬから、占領した土地の軍備は非常に人數の多い陸軍の手で、しかも輕快なる船を用ひて海上陸軍機動部隊といふものが出来れば非常によいんぢやないかと考へる。現にボルネオを占領致します場合でも、その他の島々を占領します場合でも、日本の陸軍の軍人さんが船に乗つて占領されてゐる事實を考へますと、所謂英語でいふミタリマリンといふものを拵へることが、私は平和を確保する上

に一番よいんぢやないかと考へるのであります。

五 南方經營の經濟的方途

次に政治或は軍備の問題を離れて經濟問題に入つて少しお話を進めて見たいと思ふ。これは大阪は皆様方に直接關係の深い問題でありまして、南方の經濟といふものゝ經營の仕方がどうなるであらうかといふことが、皆様夢寐にもお忘れにならないことだと考へます。この頃いろ／＼意見がありますが、結局この大東亞皇榮園それ自體の經濟的自給自足が出来ることが先づ必要であるといふことは、何人も異議のないところであります。しからば自給自足をどういふ風にしてやるのかといふことが現實の問題として非常に重要になつて来る、例へば油が南洋に澤山出る、ゴムが剩る程ある、錫も剩る程ある、いろ／＼の物が剩る程あるといふことははつきり分つてゐるのであります。

しかし足りないものも非常にあります、例へば綿製品の如きは非常に足りない、廣い意味に申しますれば纖維品は南方においても支那大陸においても或は滿洲においても足りない、これを如

何にして供給するかといふ問題になつて来ますと、皇榮園全體の自給自足の問題が起つて来るのであります、又一面におきまして、假に澤山棉花がとれるとして、日本内地に紡績會社がある、そこに棉を持つて来て絲にし織物にして、これを又持つて行くといふことにしますと、現在の何倍かの船がなければそれらの原料製品の輸送が出来ない、現在においてはそれは殆んど出来ない相談である、政府においても鐵船を造るのが間に合はなければ木造船をもつて補はうとまでいつてをられるやうな實情にあるのであります。

従つて大きい皇榮園の全範圍における自給自足と同時に、各地方の部分的の自給自足をやらなければならぬ、フィリッピンならフィリッピンだけの自給自足、ジャバならジャバだけ、ボルネオならボルネオだけの自給自足の方法を講じませんと、本當の全體の自給自足が出来ない、棉花が全體として非常に不足してゐることは皆様御承知の通り、政府においてもフィリッピンでは砂糖畑をつぶし棉花を栽培しようとか、いろ／＼のことをお考へになつてゐるやうであります、それで直ちに棉花が出来るかといふと、日本の紡績で要るだけの棉花は出来ない、現在自然的に存するいろ／＼の纖維を利用してとないと、われ／＼の衣類が出来ないのでありますから、そ

の土地／＼で得られるもので先づ自給自足せしめるやうにしなければなりません。

マレーはゴムばかりで食糧の自給自足は出来ませんから、結局は原住民を指導して畠を作らせ水田を拵へて自給自足しようといふ考へであるらしいが、各地區別の自給自足でもつて、先づ各地區住民全體の第一生活が行はれることが絶対必要である、各地の原住民が飯を食つて行け、餓死をしないといふ態勢が出来て、それから後全體の自給自足を考へて行かなければならぬ。さうすると全體の自給自足を考へるまでの間に、所謂輸送能力を考への中に入れて全體の計畫を樹てなければならぬ、新聞或は商船會社、郵船會社邊りの専門家によりますと千數百萬噸の汽船が要るといふことで、現在日本の造船能力が假に百萬噸として十數年かゝらなければその補充が出来ないとすればなんにもならぬ、假に倍としても五六年かゝるといふことでは急場の間に合はない、そこで先づ第一にこの地區別自給自足といふことが考へられなければならぬのである。

われ／＼が砂糖を鱈腹舐めようと思つても、それを我慢してフィリッピンに棉を作らせる、或は米を作らせる、いろ／＼のことをして行かなければならぬ、それが又一面先刻申しました世界永久戦といふことに對應しまして、是非必要なのであります、私はこれを蚯蚓政策といつてゐる。

蚯蚓は御承知のやうに一吋刻みに刻んでも一寸、一寸の各部分は生きてゐるんであります、高等動物になると手を切られ足を切られたゞけで死ぬのでありますが、下等動物は一部分を切られても死な／＼い、さういふ蚯蚓のやうな状態にする、各地區を或る程度の自給自足が出来るやうにしてをくことは、如何なる場合でも必要であると思ふ、全體が非常に高度な發達をしても片ちんばのものばかり寄合つて、全體の自給自足が出来ると、各地區別の自給自足が出来てをり、なほ一層大きい全體の自給自足の體制が立つてゐるとでは、大變な相違が起つて来る。そこで繰返し申します、蚯蚓政策、地區別自給自足といふことがどうしても永久戦に對應する上に必要であると思ひます。

それは又戰略的にも必要であります。萬一日本がアメリカ或は英國から反撃を受けるやうな場合があつても、南方にある兵隊さんの靴下からゲートル、軍服等が自給出来ずならば、日本の船で運びますものは武器と彈藥だけで足りる、さうなれば戦争の上の力、専門的に申せば軍の機動力と申しますが、それが極度に發揮出来る、さういふ軍の作戦上の重要性から申しても、今いつた地區別自給自足といふことが必要になつて来る、アメリカ或は英國が世界に亘つて物資の供

給をしてをつたが、今度の戦争によつて船を沈められ交通路を遮断されて非常に狼狽し、アメリカでさへガソリン、ゴムの統制をしなければならぬことになつたのは、つまり地區別自給自足を考へてなかつた缺陷が齎したものであらうと考へます。

六 内地における中小商工業の前途

ところがこの私の説に對して有力な實業家の方々からいろ／＼反對論が起つて來てゐる、それは特に大阪地方なんかにおいて、中小商工業の方々から南方その他から原料を仕入れて來て製品にし、これを販賣してゐるものである。しかるに各地において自給自足が出来るならば、大阪の中小商工業といふものはなくなつてしまひはしないかといふことを非常に心配される方がある、しかしさういふ心配は私は無用ぢやないかと考へる、先刻申しましたわが國の皇民族政策によりまして、全南方地域或は大陸その他が皇民族の住む所となりますれば、今まで日本國においてしてゐた商賣がたゞ地域が、少し廣くなつて行くに過ぎないのぢやないかと思ふ、例へば大阪に本店があつて東京に支店をお持ちの方があると同じやうに、フィリッピンのマニラに支店を持ち、ビル

マのラングーン或は泰のバンコックに支店をお持ちになつて、そこで中小商工業のやることをおやりになれば、從來國內でやつてをつたと同じ結果になるんぢやないかと考へる、ですから何も遠慮することはない、廣くこの南方の占領地域に進出して行つて事業を經營されるならば、私は大阪の中小商工業は廣い範圍の大阪において繁榮する、狭い範圍の大阪においては外形的には衰へても、内實においては非常に富有になるんぢやないかと考へる。

私が若い時に勤務してをりました或る貿易商があります、それが一時歐洲大戰の後に破産を致しました、それまでの貿易商といひますのは資本金の數倍の取引をしてをられ、一ヶ年何億といふ取引をされてをりましたので、外形から見ると非常に盛大なものでありましたが、金庫の中は何時も空つぽで、銀行から借越また借越で商賣をしてをられた、従つて一朝恐慌が來ますと根底からひっくり返つた、ところがその商會の主人公がその後採られた政策は、一億の資本で百億の商賣をするんでなくて、十萬圓位の小さい資本になられました、それで有ゆる事業をやられましたが、すべて十萬二十萬の堅實な商賣で、今日では第一次歐洲大戰當時に數倍する資本になつてをられる、間口は小さい所にをられるが實力を持つてをられ、一ヶ年約數百萬圓の純益を現に

上げてゐるのである。

それと同じやうに従來十萬圓の資本をもつて一千萬圓或は一億圓の商賣をされるのが大阪商人の腕であるといふ風にお考へになつてをつたと思ふ、従つてそのやり方のために非常な無理がある、現在統制違反といふことも恐らく私はこの經營の無理から生ずる缺點ぢやないか、つまり利潤追及が餘りに急激である爲に、思はず知らず統制違反を行ふことになるんぢやないかと思ふ。ところが今度の大東亞皇榮園におきましては、物資は御承知のやうにあり剩る程ある、このあり剩る物資をもつて品物を製造し販賣して行きますならば、山カンの必要はないのであります、一萬圓の資本で一萬圓の商賣をし、百萬圓の資本で百萬圓の商賣をして、それで立派に生活が營めるやうな皇榮園が成立つと私は考へる。

さういふ風にするにはどうしたらよいかといへば、結局生産の増強と申しますか、今日内地でははれてをります生産力擴充といふことでございます。生産力の擴充を強力にやりましたならばインチキ商賣をしなくても國民は飢えることはない、今申しました或る貿易商のやうに、昔に勝る堅實な資産家となり得るんぢやないかと考へるのであります。

七 皇道自由經濟の理論と實際

そのやり方については私の持つてをります經濟理論——皇道自由經濟といふ組織なんであります、そのことは一昨年十月に既に申上げましたし先刻申しました或る代議士候補者の應援演説の中にも十數回申述べたのであります。それで私の申します皇道自由經濟といふものはどうして出来るのかといふと、それは大東亞皇榮園にならなければ出来ないであります、一昨年或る友人にこの皇道自由經濟を話をしましたところが、それは非常によいことであるから是非それをパンフレットにして振りまいてくれんか、今經濟統制で窮屈で困るから是非やれというて下すつた、しかしさう急に出来ないから、とにかく時事通信社の講演時報を読んでくれといつて渡しましたところが、それを讀んで非常に失望したやうな顔をしてやつて來られ、讀んで見るといふと大東亞皇榮園が出来ないとお前のいふやうな皇道自由經濟にならんぢやないか、今の場合たゞお念佛にすぎないので困はる、何とかさういふことをやらないで、皇道自由經濟の方法はないかといふ御質問を受けたのであります、それは私は手品師ではありませんから到底出来ないといつて斷つ

た。

しかるに今日の状態になりますと私の豫言致しました皇道自由經濟が眼前に行はれてゐる、今夕は一昨年十月にお出席の方もいらつしやるかどうか存じませんが、若しいらつしやるならばもう一度私の申します皇道自由經濟の理論をよくお聞き下さいまして、皆様が私と共にかういふ時代が早く来るやうに御協力願ひたいと思ふのであります、又さういふ經濟組織が出来て初めて總力戦に勝ち、永久に榮えることが出来るのであります。

しからは皇道自由經濟とはどういふことかと申しますと、これは何時も私が申しますが、論語を見ますと三十にして立ち、四十にして不惑、七十歳になりますと己の欲するところに従つて則を越えずといふことがある、つまり七十歳までも修養を積んで來ると、自分の行つてゐることが、道德に叶つてゐるか反してゐるかといふことをいろ／＼反省しなくても、自分のなす一舉手一投足がすべて禮儀に叶ひ、法則に合つてゐる、つまり完全な修養の出來た状態になるといつてゐるのであります、道德に縛られない、禮儀作法に縛られないで、たゞ自分の思ふまゝにしてをうて禮儀作法に叶つてをりますことは、全く束縛を感じない自由の状態であると言ひ得るんぢやない

か、さういふ自由、つまり皆様が物を賣つても買つても統制違反にかゝらないといふならば、皆様方は喜んでこの自由をお持ちになるんぢやないかと思ふ、今の時代、統制違反をしてまで自由を求められてはいかぬ、どうしてもちよこまつてゐなければならぬ、ところが私のいふやうな自由組織になると全然心配がなくなつて思ふまゝにおやりになつて、しかも法規にかゝらないといふのであれば、皆様も双手を擧げて御賛成下さると思ふ、皆様の中に反對の方がございましたら手を擧げて見てもらいたいと思ひます、どなたも手をお擧げにならないところを見ますと、皆様も御賛成だと思ひます。

それならばその内容はどうかと申しますと、經濟學をお習ひになりました方は無論、お習ひになりません方でも需要供給の法則といふことは御承知でせう、私は昨年七月中頃から農林省の命令を受けて京阪神の廣大なる地域における魚類配給の統制會のお世話を致してをります、統制經濟においては、すべて需要供給の法則なんものは行はれるものぢやないんだ、といふ風に考へられてをりますし、私も大體さういふ風になつてゐるんぢやないかと思ひました。

ところが昨年から本年三月まで魚が非常に不足してをりました際には、公定價格一杯で腐つた

は、ものやうなものでも賣れてをりました、ところが四月以降特に五月六月になつてだん／＼魚が多くなつて來ますと、お買ひになります方も賣る者も贅澤になつて、だん／＼公定價格から下廻つて來て、臭いは、もなんか一切買はないので、これを肥料にしたり或は海に捨て、しまふといふやうな勿體ない狀況が起つた、即ち供給が増し需要がこれに比例して増しませぬ場合には、物の値段はだん／＼安くなることははつきりしたことなんでしょう。

そこで大東亞皇榮園においては物資があり剩る程ある、足りない物資も原住民と日本人が協力して生産力の増強をしますならば、すべてあり剩る状態になることは申すまでもないことであります、さういふ状態になつて來れば物の値段がだん／＼安くなつて來る、安くなつて參りますと、最高價格を決めた現在の公定價格なんて制度は必要がなくなつて來ると思ふのであります。魚の例をとつて申しますれば鮪の公定價格は十貫目三十五圓といふことであります、鮪が毎日何百何千本と入つて來ますと、二十圓、十圓といふ風に安いものになる、鮪の刺身はいくらでも食べ放題食べられる、さうして値段はだん／＼底なしに下つて來る、さうなると魚の最高價格は全然意味をなさない、これは鐵、石炭、その他有ゆる商品について、みんな同じやうなことがいへる

んぢやないかと思ふ。

さうしますと、今度は生産が非常に増して來ますといふと、價格が下落しおしまひには採算がとれないところまで來る、過去の自由經濟では生産が引合はない状態まで下つて來ますと、つまり生産が調節されて一番採算のよい、能率のいゝ工場は商賣が續けられますが、それ以下の工場或は商人の生産販賣といふものが全部停止し、或る者は破産して競争場裡から退きまして、後は需要供給の均衡が起つて値段が回復して來る、これが過去の自由經濟の法則的現象であります。

今日價格統制をされてをりますが、生産が増すといふと物の値段はだん／＼下つて、過去の自由經濟時代には最低價格は少しも決められてをりませんでした、統制經濟では最高價格に非ずして最低價格が決められることになる、これ以下に賣つては損をする、これ以下で賣つてはいけなといふ最低價格が公定されるやうな時代か來るのではありますまいか。さうしますと皆様安くお賣りになることは自由なんですから經濟統制違反にならずしてだん／＼品物を拵へて安く賣る買はれる方も澤山買つて十分豐滿なる生活が出來るといふことになり、つまり最高價格に挺入れをしなければならぬやうな状態が來ますならば、經濟は自由放任してをいて澤山だといふや

うになるんぢやないか、南方の經濟皇榮園を經營致しますわれくの考へ方はさういふところに持つて行きたいと思ふのであります。

八 南方進出邦人の將來

皆様方は南方に行かれてこれらの生産力増強に携はられたのでありませうけれども、現在では南方に行くことは殆んど制限されて、過去において南方に行つてをつた關係者だけし行かないのですから、皆様は恐らく切齒扼腕をしてをられることと思ふ、しかし今政府のとつてをります南方渡航の制限といふことは一應理のあるところでありまして、御承知のやうに滿洲北支に自由に人が参りました際、それらの日本の方々の中に不心得の方がありまして、随分その土地の住民に不愉快な感じを起させるやうな行爲が澤山ありましたし、又側から見ても、これではどうもならぬといふ風な生活状態に陥られた方が澤山ある、大部分の方はいゝが、少數の悪い方々のために日本に對する信頼の念がすべて消えてなくなるといふことは、非常に日本國の不利益を來す。

オランダでさへ蘭領東印度を經營致しました過去三百年の間、本國から蘭領東印度に参ります本國人を非常に制限しまして完全に蘭領東印度で獨立生計の出來て、オランダ人の體面を穢さないだけの收入を持ち或は資産を持つ人でないと入れなかつたのであります。今日日本において南方に行く人々を教育し、或は相當の生活の出來る人でなければ入れないといふ政府の考へ方は、私に尤もとして諒承しなければならぬと思ふ。

或る雜誌の記事によりますと、或る滿人が妻を亡くして乳呑兒を抱いて滿鐵に乗りました際にその乳呑兒が泣出し如何に宥めても泣き止まん、その時日本の一婦人が乗合してをられて乳を出してその子供に吞ましましたために、その子供は泣き止んですやくと眠つた、そこでその滿人はその日本婦人に對して、貴女は日本人ぢやないといつて非常に感謝したといふことでもあります。その言葉を聞きまして、同じ列車に乗合した日本人はすべて顔を背けたといふ話であります。つまり日本人が本當に皇道精神を體しませんで、随分粗暴な行ひをしましたために、滿人の日本人に對する信頼は或る面においては地を拂つてなくなつた事例があるのであります。その場合さういふ婦人が現れて、日本人に對する信頼を取返したこの事實に見ても、南方に進

出します日本人は相當の教養を持ち相當の矜持を有してゐなければこれらの地方の原住民をして皇民族の誇りを持たせることは絶対に出来ないと思ふ。特に日本の兵隊さんが行かれまして、非常に嚴格な規律の下に行動をしてをられますから、日本軍隊に對する信頼は非常なものであります。

ドイツが前のヨーロッパ大戦におきまして、ベルギー、オランダ、フランス邊りをやつゝけました際に、ドイツ軍隊の行動に悪い點が多かつたために、非常にそれらの地方民から反感を受けて、随分抵抗をするものがあつた、そこでヒットラーは、自分が兵卒として出征して、それを實際目撃した點から反省して、ドイツ軍隊の道義といふものを非常にやかましくいひ、今回の戦争においてドイツ軍人は實に日本の軍人が見ても感心するやうな堅い道徳的の行爲によつて、占領地の住民の尊敬を買つてゐるのであります、従つて一箇師團で守備しなければならぬ地方が一箇聯隊で守備出来る、一箇聯隊を要するところは一箇中隊、一箇小隊で濟むことになりました。に、ドイツの大部分の軍隊は擧げてロシア撃滅戦争に専念することが出来た。

南方においてももし日本の軍隊が不正行爲をしましたならば、恐らく今報道されてゐるやうな、

ゲリラ戦皆無といふやうなことはありません。支那におけると同じやうなゲリラ戦が起つて、守備軍隊を相當多く必要とするのであります。ビルマ戡定があれだけ早かつた一因も、ビルマ人が皇軍に協力したことにあります。兵隊および一般日本國民の行ひますことが最も道義に叶ひ、その地方の住民の尊敬を買ひ得るならば、戦はずして勝ち得るのであります。

今日日本の軍票が大變占領地において信用がある、しかるに支那事變においてはどうであつたか、皆様は日本銀行のお札を信頼してお使ひになつてをり、皆様は日本銀行および日本の通貨制度に滿腔の信頼を寄せてゐらつしやるから問題が起らんが、もしさうでない場合にはお札は恐らく紙屑に等しいことになると思ひます。

一昨年十月に、支那の聯合準備銀行のお札或は儲備銀行のお札が、日本が如何にいろくの通貨政策をしても、その値打が上らないのは何故かといふと、日本の國力に對する信頼が彼等支那大陸の住民にないからである、もし日本が大東亞戦争をやつてさうして南方に完全な勢力圏を作つたならば、必ず聯銀券の相場は上つて来て、いくら大陸に行つても日本のお札の相場が下るやうなことはないだらうと申しましたが、現に大東亞戦争がこれだけ進展して、支那の法幣が紙屑

の如くなり、反對に日本の軍票や儲備銀行、聯合準備銀行のお札がだん／＼値が上がつて來た。これはすべて根本において道徳的信頼といふことが基礎になつてをりますので、その信頼は日本全體の國力ばかりでなくして、日本の行ふ皇道日本國民のなすべき日常生活すべてが大東亞の住民の師表になり得るやうでなければ、かういふ結果は來たさないのであります。大變お説教のやうなことになりましたが、どうしてもわれ／＼日本國民として絶対に粗糲の振舞ひ、道義に反する振舞ひは致していけないのであります。

九 原地勞働力増強と適地分布方法

次に大東亞皇榮園における生産の増強といふことが、私の申します皇道自由經濟、即ち思ふままに行動して經濟事犯を起さないやうな状態を持ち來す、その經濟組織が出来るのであります。しかし日本は御承知のやうに、今戦争してゐて兵隊さんの手も足りない、内地における勞力も足りない、猫の手も借りたいほどの状態であります。しかるに南方において生産を増強しようといつて、内地から澤山な人を持つて行くことはなかく／＼不可能なことであります、勿論私の計算で

は二百萬三百萬の人が南方にいらつしやることは出来ると思ひますけれども、實際に勞働者として働き得る人はさう澤山ないと思ふ、特に暑いところで原住民と一緒になつて勞働に従事する内地人は皆無といつてよい、皆所謂指導者となられる方で、現場員にはなれないと思ふ。

そこでこの生産増強に對する方法はどうしたらいか、勞働力の供給はどうしたらいかといふ問題に逢着すると思ふ。即ち勞力と申しますと南洋にをります原住民の勞働力を徵用するより外はない。ジャワに永く行つてをられた方の話を伺ひますと、南方の言語によく通じてゐる者が、南方勞働者を使はれると非常に賃金が安く長時間働いてくれる、しかるに言葉の通じない場合には僅かの時間しか働かず賃金も高い、それで南方に行つて勞働者を扱ふには、その地方の言語、一般的にはマレー語も使はれますが、マレー語のない地方ではその土地の言語を知つてゐて住民を使ふと、非常に能率が上るといふことを伺ひましたが、さういふ點を細かく研究すれば勿論いろいろあると思ひますが、一般的に南方諸民族の勞働力は非常に低いのであります。

これは教育程度が低いためである。原住民はその生活に理想をもたず努力しないのであります、その日／＼を何とかすこせればよいといふ去勢された状態にをかれた。英米蘭邊りの植民地

政策にもよりますし、又原住民の心得が悪かつたともいはれる。これらのものゝ勞働力を上げますには、やはり日本の國民學校のやうな初等教育を義務教育にまで進めて、これを教育してやらなければいけない。聞くところによりますと、蘭領東印度時代には初等學校へ入つた生徒は三年と續いたものがないさうです。一年位行くと大抵やめる、二年位になると三分の一位しかゐない、三年目には殆どゐなくなる、勉強なんかしようともしない、そこでかういふものをいくら教育してもだめだといふので、オランダ人はマレー語しか教へない、教育らしい教育をしなかつた。

ところが最近の情報によりますと、インドネシア人は非常に熱心に日本語を勉強したがる、日本の教育を受けたいといつて来る、つまり生活に對する希望が出来たのでありますから、この希望を利用して教育を施し、勤儉力行の美風を養つてやるならば、元氣のある立派な勞働者が出来て来るんじゃないか、或は技師になるやうな人が出て来るんじゃないかと思ふ。ジャバ更紗とかビルマ方面の工藝品その他を御覧になつても非常な精巧な物が作られてゐるのでありますから、これらのものを教育し鞭撻することによつて立派な工業生産物が出来ることは誤りなく期待出来ると考へる。工場勞働者に對する施設が非常に悪い、原住民を人間として取扱つてなかつた過去

の英米蘭のやり方から見て、これらの勞働者を尊重する形において工場の施設を充實してやりま

すなれば、勞働力もまた一層上るんじゃないかと考へるのであります。

それから又、彼等は榮養といふものに對して殆ど無關心で、そこらにあるものを食つて腹が張つて何とか生命を繋げばいいといふ考ですから、榮養を與へることが必要であります、又一つ勞働者の立地的の配置といひますか、移動といふことではないのであります。御承知のやうに氣候のいゝジャワ邊りに住んでをりますものは他の島々に勞働に行つても、少しもその勞働を喜びませぬで、一ヶ月か二ヶ月しますと直ちにジャワの本島に逃げ歸るさうです、出て行つて大いに働いて金を儲けようといふより、住みよいジャワで何とか彼とかその日を過せばいいのであります、そこで慰安なんかも自分等の元住んでをつたところより一層いい方法で出来ますやうな方策をわが軍政部において講じてやりませんか、勞働者の適地分布といふことは出来ないのぢやないか、勞働者の適地分布さへ出来れば、南方における生産力は驚くほど増強されると考へるのであります。

また技術的方面では、工場方面ばかりでなく農業方面にも非常に幼稚な農法を行つてゐるので

ありまして、お聞き及びの通りに、米の穂を一本／＼つんで刈入をするといふやうなやり方をやつてをるところに、日本の農耕法を教へますと、これまた二倍三倍の收穫を得ることは明かでありませう、かやうにして私は農、鑛、工、林産、工場生産に原住民の生産力を高めてやることによつて、その生活に希望を持たせることによつて、日本内地から指導的技術を入れる時は私の先刻いつた地區的自給自足が急速に出来るやうになると信ずるのであります。

また先刻ミリタリマリンのお話をしましたやうに、南方における各島嶼の連絡は、總て内地で使つてをります機帆船のやうな運輸機關を澤山使つて、各地の物資の交流を行ふことに致しませうれば、各地區の自給自足に足りないものを補ふことが出来て、豫期以上の早い期間に皇榮圈の自給自足體制が完備するかと考へるのであります。

今申しましたやうな方法によつて、勞働生産力、技術生産力乃至は輸送能力を充實することに なりますと、残る問題は資本といふ問題になつて来る、これは各地における通貨制度の確立によつて資本の供給は出来るのであります、日本内地からも銀行が参りまして、彼の地にあります銀行をも復活し、その親銀行となる南方開發金庫のやうなものを動員して通貨の擴張をやつて行つ

たならば、資本を創造して、これを供給してやることは何等苦痛のないことと考へるのであります。

特に物資が澤山ありますれば、通貨がいくら澤山増發されても物價が騰貴しない、日本内地で米が闇相場で一升〇圓から〇圓〇十錢してゐるさうです、米が足りないから自然闇のインフレで値段が高い、假りに豊作で〇千萬石も出来たら恐らく内地米を一升〇圓も〇圓〇十錢も出してお買ひになる方はないと考へます、それと同じで生産が増して來ますならば、先刻申しました皇道自由經濟の線に沿つて物價が安くなつて來るのであります、インフレーションの心配はない、幾らお札や軍票を印刷機械を廻してがらくと刷出しても大丈夫だと私は信ずるのであります。

十 皇榮圈完成後の諸問題

かやうに考へて参りますと、大東亞皇榮圈を經營し、確立します方法といふものはいと易いことだと私は考へるのであります、これを早く、いつまでに完成するかといふ、その時期をいへとおつしやれば最初に申上げたやうに時期を明らかに申上げることが非常に困難であります、先

づ大體私の考を申せば二、三年も経てばこの方法が確立し得ると信ずるのであります、それは何故かと申しますと、インドネシヤ人邊りを教育して、彼等を立派な工場労働者にして本當の力を發揮させるには、こゝ半年か一年あればいゝ、技術の修得も半年か一年でいゝ、さうするとこゝ一年か二年程、三年目には完全なる日本人的労働供給源が南方諸地方において得られると私は信ずるので、大體三年といふ期間を切つて、皇榮圈完成の年限であるといふことを申しても誤りぢやないと考へる。

しかしお前は、畢竟永久戦である、年限をいふことは出来ないといつたぢやないかとおつしやられれば、それは完全に英米を撃滅する、一方において皇榮圈が完全な形において現はれるためには年限は申上げられませんが、所謂總力戦を戦ひながらの東亞皇榮圈經營といふことになりますれば、藉すに三年の時日をもつてすれば十分になし遂げ得ると存するのであります。そこでしたらば、大東亞皇榮圈はそのやうな方法によつて二、三年の間に出來るとすれば、それで日本の能事終れりとするのかといふ問題が起つて來ると考へるのであります。

ところが日本は日獨伊三國同盟を締結しましたので、獨伊と運命を共にしてこの戦を戦つたの

でありますから、大東亞皇榮圈が出來たらそれで戦争は止めた、獨伊がどうならうとも知らないといふことはいひ得ないと思ふ、特に獨ソ戰の將來といふものは未だに判りませぬ、勿論ドイツが勝つことは豫想されますけれども、如何なる程度に勝つかといふことは豫斷出來ませぬ場合には、いつまでも獨伊との提携を続けなければ、日本は絶対に安全確保が出來ないではないかと考へる、勿論わが國の國力は自分の國の安全を確保し得るし、また實際においてしなければならぬことではありますが、完全無缺の態勢を整へますには、やはり獨伊を戰勝國として友邦にもつてゐなければならぬのでありますから、大東亞皇榮圈確保といふことゝ獨伊との提携といふものは、絶対に切放して考へられない問題と確信します。

獨伊と日本が手を繋いで行くといふことは、結局世界を指導するといふことであります、本當の指導性を握るには、世界は日本の大東亞皇榮圈だけではないのでありますから、ヨーロッパにおいて獨伊と提携する必要があり、そしてアメリカ大陸を挾撃する態勢をとることによつて、世界の指導性といふものが確立するのであります、今日の新聞にあるやうにアルゼンチンがアメリカの羈絆を脱し、アメリカに反對して完全中立を守るといふやうな事例がございますのも、やは

り獨伊と日本が提携して世界の指導的地位を握ることを豫想したためであります、これが力がな
いと見ればチリーとかアルゼンチンがブラジルと同じやうになることは明かで、かやうに考へて参
りますと日獨伊三國同盟を強化して、ますます大東亞皇榮圈經濟を確立することが絶対必要であ
りますが、しかし獨伊と日本が假りにスエズを経てまだイラン、イラクを経て手を握ることが出
來ませうとも、或はそれが出來ませんが、日本が實際に獨伊を援け、亞歐相呼應して日本が指
導性を握るためには、日本自體としてなすべき仕事は經濟問題、政治問題、或は民族問題の他に
なほ一つあるといふことを申し上げたいと思ふ。

それは私達學者だからさういふことを申すのではありませんので、國民全部が科學者であると
いふ考へ方を致しまして、總力戰的考へ方から致しますれば、日本における學問といふよりも教
育制度といふものを、今より以上に確立しなければ大東亞皇榮圈の中心がゆるぎはしないかと心
配するのであります、今日産業報國會でございますとか、或は大政翼賛會でございますとか、い
ろ／＼國民指導の團體が出來てをりますが、しかしそれらの團體が率ゐるものが國民に興へた
何物があるかと考へますと、それは從來日本に唱へられました儒教的訓育であります、漢學で教

へられた道徳的の教だけでありまして、本當の世界の宗教を率ゐ、或は日本の現在あります宗教
家を率ゐて、本當に日本國民の精神を確立するやうな指導が行はれてゐるかといふと、全然行は
れてゐないと私は斷言する。

日本の皇道の尊いといふことは皆口にしてをりますが、これを本當の理論において、哲學にお
いて體系を立て、説いてゐる人があるかといふと、これは一人もないと私は斷言してゐると思ふ、
キリスト或は釋迦、或は弘法大師邊りと比肩致すやうな立派な指導者があるかといふと、皆様は
いろ／＼佛教、神道邊りを御信仰でありますやうが、果してさういふ人が見付かるでせうか、或る
宗旨の一派においては優れた人もありますけれども、國民全部を率ゐて行くやうな大思想家があ
るかといふと殆ど見付かりませぬ、絶対になんともいふと思ふ、ヒットラー、ムツソリー
ニがドイツ國民或はイタリー國民を率ゐてをりますやうな偉大な思想的指導者がいないといふこと
が、私はこの大東亞皇榮圈を完成しますについての、根本的の一大缺陷ではないかと心配するの
であります。

いろ／＼の思想を論じられる方を新聞雑誌で皆様はよく御覧になる、又いろ／＼の講演會、座

談會の記事が雑誌に載つてをりますが、日本が今日大東亞皇榮圈内の民族を皇民族として率ゐます上に、これらのものに本當に悟の道を「へる教といふものは何であるかといふと、キリスト教回教或は佛教、その他いろ／＼の宗教を打つて一丸とし、それを超越し、それを綜合してゐる立派な宗教或は教がなければならぬ、フイリツピンにおいてはカトリック教が盛であるから、カトリック教に何等か便宜を興へなければならぬ、或は舊蘭印では回教が盛であるから回教徒の御機嫌をとらなければならぬ、或はビルマには佛教が盛だから佛教徒の御機嫌をとらなければならぬといふやうな、各地の特殊性に應じて、さういふ宗教或は教に媚びてゐたのでは日本國の指導性といふものは思想界においては全然ないことになるんぢやないか。

日本は日本としての皇道哲學を持ち思想をもつて、それを率ゐるといふことでなければならぬと思ふ、さういふ哲學といふものをどうして作るか、これは團子のやうにこねて作るものではない、粘土細工のやうに出来るものではないが、これは國民が本當の日本國體といふものを研究し、天皇の教をよく研究して、そこに國民擧つて協力して打ち立てるものでなければならぬと思ふ。一人の偉大な英雄偉人が出てそれを造るか、國民が協力して作るかと申せば、大なる天才を

俟つよりも、國民が相協力してその哲學を作ることが最も早道ではないかと思ふ、今日の各本山なんかにおきましては、この大東亞皇榮圈の出来る際に、何とか宗教家としての務を果さなければならぬといつて躍氣になつてをりますけれども、それは全部姑息なお手傳をする、或は坊様同士の交際をすること位に盡き、これらのものを率ゐて、本當に日本人を敬服せしむるやうな偉大なる宗教家といふものは一人も出てゐないのであります。

これは皆様方と御相談であります、如何にすればこれが出来るであらうか、特に大阪のやうな經濟の中心地において、しかも今日の總力戰時代においては思想戰と經濟戰と表裏一體をなしてゐるのであります、特にユダヤ人でさへ三舍を避けるといふやうな商賣道の盛んな大阪においてこの偉大なる思想が生れ出て、經濟戰と共に大東亞皇榮圈の確立のために働きますなれば、これは大變な働きをするんぢやないかと思ふ、金のない貧乏なものが幾らお説教をしても、それは空念佛に過ぎない、實力を持ち、資本を持ち、技術を持つ大阪經濟界の人々が相集つて、この皇榮圈指導の哲學を樹立し、それによつて率ゐて行くことになれば、如何ばかり強いものが出来るだらうかと私は考へるのであります。

皆様方は毎日算盤勘定に没頭してをられます、その暇をお割き下さつてもいいのでありますが、回教或は佛教、或はキリスト教の上に立つて、これらを總て吞込んでしまふやうな大きな民族思想の教といふものを拵へるといふことに皆様方の御協力を頂かなければ、私は大東亞皇榮園は要のない扇になつてしまふんぢやないかと心配致すのであります、これらの問題は勿論私が一時間や二時間喋りましたところで解決するものではありません、本日を機會にして今後さらに皆様方と御協力を誓ひ、將來かくの如き日本皇道哲學を樹立することに努力致して見たいと考へるのであります。

十一 日本の眞の危機はいつ来るか

上來述べて参りましたやうに、大東亞皇榮園を完成致しますすについての方策は、つまり全民族を皇民族と見て、さうしてこれらの各地を經濟的に自給自足せしむる、勿論それらを綜合したより大なる皇榮園全體の自給自足對策を立て、アメリカ或は英國が千年萬年日本に戰を挑んで來ても、びくともしないやうな完全な經濟力を持つといふこと、また一方においては今度歸屬しま

した各住民の生産力或は思想その他のものを、この皇榮園のために全部動員しまして、或は軍隊とし或は工員として協力させることにしますなれば、こゝに經濟力においても武力においても何等心配のない態勢が出来上ると思ふ、さういふことになりましたれば、私は大體大東亞皇榮園完成の方策といふものは述べ盡したことになるかと考へるのであります。

しかうして先づその期間は恐らく、二、三年位でありまして、さうすれば所謂世界永久戰と大東亞皇榮園完成といふものゝ間に、時間的な非常な隔りのあるといふことが大變いゝことであつて、二、三年の間に不敗の態勢を確立して、英米が参るまでいつまでも戰爭をやる、おしまひにはニューヨークで觀艦式、ロンドンで入城式をやるんだ、換言すれば戰爭状態といふものはいつまでも續くのだ、國民はこの戰爭状態が永久に續くといふ覺悟をもつて世に處して行きますなれば、恐らくそれが一番完全なる不敗の態勢ぢやないかと考へるのであります。

この戰爭はもう暫くしたら濟むだらう、英米がその内に参つてしまふだらうとか、或る人は今年秋になつたら戰爭はおしまひになるといつてをられるが、さういふ考へ方がつまり英米としては思想謀略的に非常に都合がいいのであります、この戰爭は飽くまで續くんだといふ考へ方を

日本人がしてをれば、アメリカ、英國は早く手を擧げて來ると思ふ。

しかしこゝに皆様方に御注意をお願ひ度しいことは、この戦争でもし日本が完全なる不敗の態勢を二、三年の間に確立したと致しましたなれば、恐らく謀略的に英米は講和を申込んで來ると思ふのであります、日本との戦争ではとても敵はない、とても強い、どうも今までわれわれのやつてゐたことは悪かつた、謝罪するからどうかこゝで一つ講和をしてくれないか、日本には上海を上げませう、勿論グアムもフィリピンも差上げませう、今までお取りになつた所は完全に日本に差上げますからといつて、揉手をして來たら恐らく誰しも喜んで、ほ才已は勝つたんだといつてすぐ英米と握手をするだらうと考へる。

これは十二月八日大東亞戦争が始まる以前に、ルーズベルトのあの不都合な條件をさへ承知して、英米と戦はぬ方がいゝといふ意見をもつてゐた人さへあるのでありますから、それにどんでん立派なものを澤山もつて來るといふならば手を握るがいゝ、戦争は常道ではない、平和が常道であるから速かに講和を締結すべしといふ議論が、日本國內に糾然として起ると考へるのであります、それが將來において日本が破れる一番危険な原因であります、この戦争は英米が城下の誓

をしてユダヤの謀略の根據である、それらの有ゆる施設が覆滅されてしまはない限りは續けなければ、他日日本は臍を噛んでも追付かないやうなことになる。

殷鑑遠からず前大戦におけるドイツは英米と戦争をして血塗れになつてゐる、英米も弱つてへとくになつてゐる、好機至れりといふので喜んでベルサイユ講和條約を締結した、十年経たぬ間にドイツが復活して來た、これは危いといふので、英米はびつくりして世界中の金を掻集め、アメリカの要塞見たやうなところに金を入れるところをこしらへて狼狽ふためいた、日本が英米といゝ加減なところでこの戦争を打切つたら、第一次大戦におけるドイツと同じ地位に英米が立ち、その敗けた恥を必ず近き將來において償はなければならぬといふ老へ方に英米の國民がなることは火をみるよりも瞭かだと思ふ。

日本はどうかといふと戦争に勝つたんだといふので、第一次歐洲大戦で日本が勝ちまして、國內に二十數億圓の金塊が轉り込んだといふのでいゝ氣分をつた、郵船株が何百圓に伸び、大株が幾ら伸びるといふやうに、有頂天になつてをりますと、いづくぞ知らん昭和二年にはがらつと來た、大阪の本町筋は御堂さんだけしか残らぬといふ状態になつて來た、所謂傲るものは久し

からず、日本が戦争に勝つて、勝つ放しのまゝで講和状態に入りましたならば、恐らく講和が出来ました後、十年、二十年を経ずして、再び日本は非常なひどい目に遭ふと私は信じて疑はない。

でありますから、どうかこの戦争は徹底的に英米を打負すまでは止めてはならぬといふ意氣込で、今次世界大戦争は世界永久戦の性格をもつてゐるといふ點を深く皆様は胸中に納められて、いつまでこの戦争が続いても大丈夫だといふ風な生活經營をして頂きたい、一年二年で済むから一寸の間の辛抱だといつて食物を辛抱されると、永久にこの状態が続くのであるから辛抱をするといふのでは、辛抱をされる氣持の上で大變な違ひがあるんぢやないかと思ふ、永久に臭い米を飯べて行かなければならないと思ひになりますれば、皆様がうまく家庭生活といふものを切盛りをして行かれる上にもお考が違ふと思ふ、一時的で、まアその内いゝ内地米が食へるからといふ風な覺悟の違ふところに、日本が永久的勝者としての地位を保てるか、永久に地球上の敗者にされるかといふ分岐點があると私は考へるのであります。

どうか私の申しますこの世界永久戦の性格について深く御研究を下さいますして、大東亞皇榮圖の經濟的、政治的確立に努力をいたしまして、これをお緩めにならないで、國家のために御奮闘あ

らんことを希望致します。(昭和十七年七月二十五日岡島會館講演筆記)

六 中小商工業の現状に就て

只今澁野中佐殿から御紹介にあづかりました武田でございます。御列席の皆様方の中には、私不斷大變親密にお願いを致して居ります方々も澤山御座います、さう云ふ方々を前に致しましてお話し致しますことは、甚だ恐縮に存じて居ります。又今回澁野中佐殿から話をしると云ふ御命令をうけました事項が、もう既に新聞、雑誌、或は諸所の講演に既にもう論じ盡されたやうな問題でありまして、私は本日こゝで事新しく申上げるやうな材料も何もございませぬ、お聞及びのやうなことを唯私が代りましてお耳に入れるに過ぎないと思ひますので、その點を悪しからず御諒承願ひたいと思ひます。

何時も私は此頃中小商工業問題を、或は新聞、雑誌に書け、或は話をしると云ふ御命令を受けました時に感じます感じは、恰度例へば伊勢大神宮様へ参拜を致しますといふと、大變朗かな氣持になります、お詣り致します以前から、参道をお詣り致しまして下つて参りました後まで

すがくしい氣持になるのでありますが、それと異りまして、京都に行つて智恩院とか或は本願寺あたりにお詣り致しますと、建築の壯美と云ふ點から申しますれば大變なものでございますが、彼所にお参りして歸ります氣持と云ふものは、餘り好いものではないのでございます。恰度この後で鈴木さんがお話しにならうとして居られる國防國家體制其の他の問題は、伊勢神宮にお詣りした時の氣持のやうなことをお話しになるのではないかと思はれるのであります。私は本願寺か智恩院詣りのやうなお話を致します。聊かお聴き辛いかと考へますが、その點も御諒承をお願い致しますと思ひます。

「中小商工業の現状」と云ふことでございますが、これは矢張り工業と商業と云ふものは全然違ふものでございますから、中小工業と中小商業に別けるべきものではないかと思ふのであります。何時も云はれますやうに、中小と云ふのは一體何處でその區別をするかと云ふことなんです。區別の必要を認めて、さてこれを數字的に例へば生産額とか資本とか或は従業員と云ふやうなものに依つて區別を致しますと非常に機械的になりまして、果してそれが中小工業の區別に適應してゐるかどうかと云ふことは非常に疑問があるのであります。日本全國の工業を労働者

の數で計算致しますと、大體五人以下の工場と云ひますものが全數の八割を占めてゐるのであります。大阪に於きまして約五萬あります工場の中で、四萬幾つかは労働者五人以下の工場であります。あと一萬幾らかと五人云以上であります。随つて何百人、何千人、何萬人使つてゐる工場は非幸に少いのであります。全國を平均致しまして一ヶ所當り、大阪も同様でありますが、三人位の労働者平均になるのでありますから、日本全體の工業と云ふものは外國に較べますれば既に中小工業程度に過ぎないと云ふことが云へると思ふのであります。さう云ふ小さい日本の工業生産力或は工業組織の中に於きまして、特に中小工業と云ふものを取上げますと云ふと、その規模と云ふものは非常に小さいものになつて参ります。先づ平均から致しますと、三十人前後の労働者を使つてゐる所が先づ中でありまして、それ以下或は五人以下の所も小であると云ふやうなことにでも致しますが、或は衣食給與規定が出来まして、厚生省が労働者保護の規定を施行致します時に、常時五十人以上上工員を使つてゐる所、然らざる所と云ふ二つに區別しまして、五十人以上上工員を使つて居ります工場に對して或る義務を課したと云ふ法律があるのであります。さう致しますといふと五十人以上が大工場であると云ふ風にも考へられるのであります。さう云ふ

ことに捉はれまして考へて居りましたのでは問題の論義が進みませんので、まあ大掴みにしまして、大體中小工業と云ふ常識に依つて判斷して論ずるより仕方がないのであります。

今日中小工業がどう云ふ現状にあるかと云ふことは、私が申上げる迄もなく民間に始終御居での大部分の皆様方のお耳に入り又親しくお目撃遊した所で、御承知の通りであります。今日の窮状の原因にも色々あると思ふのでありますが、先づ資材の缺乏と云ふことが中小工業の困憊する主とした原因ではないかと思ふのであります。尤も軍需工業に於きましてはこれは議論の外でありまして、充分一杯に動いてゐるのであります。併し、軍需工業以外に於きましても一杯に動いてゐる所はないでもありませぬ、又軍需工業に於きましても能率が非常に悪い、技術に非常に缺陷があると云ふ所では、最近行はれました重點主義に依りまして仕事は大分減つて、民需の相當良い所より尙悪いやうな中小工業もあるやに聞いてゐるのであります。大體軍需工場を除きました以外はどんな状態かと申せば、概括して申しますと半分休業状態ではないかと思ふのであります。大阪の土地柄と致しまして、私は繊維工業に接觸を特にもつて居りますが、繊維工業なんかも、軍需の繊維工業もありますし、民需の繊維工業もありますが、併しこれ等のものは、例

へば機屋さんなんかに致しましても、半休状態或は三分の一か動いてゐないと云ふやうな所が殆ど全部でありまして、紡績會社も半分は仕事がないと云ふやうな状態でありますから、私の申します半休状態と云ふものが先づ大體に當嵌るものではないかと考へて居ります。民需工場に於きまして然らば半休でなく相當やつてゐる所はどう云ふ所かと申しますと、代用品工業と申しますか新興産業と申しますか人絹とか、スフとか云ふやうな非常に優秀な代用品工業、生絲、綿絲に代るやうな纖維を造つて居ります所は忙しくて仕方がないと云ふやうな状態であります。又それ等のものを使ひまして織物を織ります所でも相當の仕事があるのであります。皆様もそれに御關係の方が中におありと思ひますが、さう云ふ實際を色々考へて見ますと、一つ／＼の商品に就て、一つ／＼の工場によつて違つて居ります。或は一杯一杯のな運轉が出来なくても、或は半休状態で居りましても、勘定が良いか悪いかと云ふことは一々違ひますので、之を概括して申上げる譯には行かないんぢやないかと考へます。これを中小工業の各々の生産品に依つて、工場の労働者はどう云ふ状態にあるか、色々のことを考へますといふと、随分多岐の結論が生れて來まして、唯一つの斯うなりと云ふやうな斷定は非常に難しくなると思ふのであります。半休状態の所

に居る、併し大して困つてゐない。總體的に見て大して困つてゐないのではないかと云ふことを私は云ひ得ると思ふのであります。何故困つてゐないかと申しますれば、それは政府のやつて居ります物價統制或は生産・消費・配給統制なるものに非常に缺陷がありますので、その缺陷に乗ずると申せば語弊がありますが、その缺陷を巧みに縫つてさうして生産を續けて行つて利益を得てゐると云ふのが、半休状態にありながら日本の中小工業が動いてゐる所以ではないかと考へるのであります。さう云うことを致しませんで、それでは正直にやつてゐるものはどうかと云ひますと、これは語弊がありますが暗取引と申しますか、さう云ふことを少しもやらないで正直にやらうと思へば、實は手も足も出ないと云ふのが本當ではないかと思ひます。又中小工業者が何故さう云ふ風に困るのかと申しますと、政府の政策がハッキリ致しませぬ、或は政策は言葉に於て、或は文字に於て示されては居りますが、それが如何なる形に於て實行に移されるかと云ふことをハッキリ示されない爲に、業者がどう云ふ態度をとつて良いかと云ふことを躊躇して仕事をしないと云ふことの爲に、苦しんでゐる中小工業も多いのであります。之等の中小工業者は餘りに統制が喧しいから他に轉業しやうと致しましたが、その轉業先の將來に就て危懼の念がありまし

て、轉業しても果してそれが安全な轉業先であるかどうかと云ふことを考へますと、大體これまた躊躇する。さうしますといふと結局何もしない方が良いんぢやないかと云ふことで、工場を休んでジツと見送つてゐると云ふやうなこともあります。又政府が最近發表致しました轉業施設に致しましても、例へば厚生金庫と云ふものが出来て、金を幾らでも貸してやる、殆ど只呉れてやる積りで作つたと云ふのであります、この金庫が本當と動きますのは二、三ヶ月先と云ふことになりませうれば、それ等の資金で轉業しやうとしても出来ないから矢張り足踏してゐる。之れが生産が減つた儘、或は休業状態に居る所の今日の中小工業の一部に於ける、非常に苦しい状況であると私は考へるのであります。

もう一つ中小工業者が不必要に苦しみますことは企業の合同でありまして、企業合同を政府がやらせると云ふことになつて居りますので、企業合同をするならば一生懸命働いても、合同してどう云ふ形になるか、その形を見た上にしやうと云ふやうな考が非常に多いのであります。殊に經營者側に立ちますと、企業合同を致しますといふと、經營主或は工場主は今迄のやうな主人公でなくて、使用人に轉落するかも知れない。或は一つの會社にしますといふと、他のものが社長

になり専務になつて、自分等は平取締役にしかおかれぬと云ふやうな考から、営業状態に陥つて自然不景氣になつてゐる所もあります。又工業方面で特に困つて居りますのは、商業資業を以て遊んでゐる方でもあります。その方が工業に轉じたり、或は過剰資本を工業に投資した方が非常に多いのであります。例へば、大阪にあります本町筋とが久太郎町と云ふ方面に綿糸同屋が非常に澤山あります。皆様方の中に御經營になり、御關係の方がおありになるかと思ひますが、さう云ふ所では商業資本が餘つてどうすることも出来ないと言ふので、小さい工場をお買ひになり、さうして工場に資本を投下せられると云ふやうなことをなさいました結果が、先程申しましたやうに初めの中は過去の實績に依りまして原料とか資材の配給がなされて居つたのでありますが、段々重點主義になつて來た爲に技術の悪い工場には軍需の注文が減り、その他の注文も思はしくなく非常にストツクになつて困つてゐると云ふことであります。又軍需方面に於てもどうも大きい工場の下請になるのは嫌だからと云ふので、自分自身獨立の工場として行きたいと云ふんで、努力しましたが、技術上の缺陷がありまして思はしく行かないと云ふやうな所が、相當と申すと語弊があるかも知れませんが、思はしい成績を擧げないで困つてゐる工場もあるやに聞いてゐるの

であります。それで今申しましたやうな企業合同に對する見透し難による躊躇、政府將來の政策見透し難に依る躊躇、資材缺乏、技術者の不足と云ふやうな點が色々合しまして、今日の中小工業の不況を生じてゐると云ふ風に結論致して、私は良いんぢやないかと思ふのであります。

今申ししたのは現状・原因を取交せて申しましたやうであります。この窮状の原因をもう少し現状を離れて特に抽出してお話し申上げますならば、資材の缺乏、云ふことは勿論であります。が、一步を進め資材が足りないから代用品をやつたらどうかと云ふことで、政府も代用品工業の奨励をなさいまして、代用品工業に轉換せられた方もありますが、その代用品工業の成績が思はしくないと云ふことが、又一つの不況の原因になると斯う考へるのであります。これは思ひ切つた發明が出来ません限り、現在のやうな間に合せの代用品では、私は現在の中小工業の不況を救ふことは出来ないんぢやないかと考へるのであります。代用品工業に就きまして、私は曾て朝日新聞の講堂に於て、或る業界の依頼に依りまして話したこともあります。又先日或る新聞紙に書いたこともあります。日本に於ける代用品工業は、本當の代用品——何か過去にありました品物の代替物を造ると云ふことで、その外觀までも似せようとして大變無理をしますが、

前にあつた品物に置きやうとしてやります爲に、代用品それ自體の性能が閑却されて、代用せられる元の商品に置きやうに非常に工程上に無理があつて、完全なものが出来ないと云ふ缺點があるんじゃないかと思ふのであります。私は代用品工業と云ふ名前がいけない。新興生産工業とか何とか云ふ名前を付けたら良いんじゃないかと云ふことも云つたことがあります。さう云ふ名前にしてやります方が、この代用品工業の成績をよりよくすることが出来るんじゃないかと考へるのであります。現在の所では先づ贋物を拵へる間に合せ物を拵へる程度ですから思はしくない。今の窮状をもう少し掘下げて調べたら、それが原因の一つではないかと考へるのであります。又もう一つは機械工業でも生産工業でも同じであります。今迄アメリカから相當機械が這入りしました。極く新しく拵へた機械はなか／＼高いのであります。古い機械——レビルトと申しますが、すつかりばらしまして磨いて組立てた機械、これは値段が安くて能率に於ては國內で拵へたものより良いものであります。さう云ふ機械が随分相當今まで輸入されました。私が關係して居ります機械工業會社でもさう云ふアメリカのレビルトせられた機械を買つたことを記憶致して居ります。さう云ふ譯であります。今日かりにサイベリヤからドイツの機械を入れますには、船

で積んで来るやうな譯には参りませぬ。さう云ふレビルトの機械が這入りかねます。そこに中小工業の缺點と致します技術を向上せしむると云ふことが、機械の助けによつてこれを達成せしめやうと云ふ點に非常な困難を生じてゐるのであります。何とかしてこの技術工業の能率を増進します爲には、機械の入手を何とか旨くやる方法があれば、この原因が除かれるのではないかと云ふ風に考へるのであります。

尙その外に然らば原因が色々あるかと申しますと、極く細かく別けましてこの原因を論じて参りますといふと、随分澤山あるのであります。先刻申しました企業の間でもさうであります。昨年の夏私は三國同盟締結の氣運を察しまして、三國同盟が締結せられますれば當然アメリカとの衝突と云ふものは不可避のことである。必然的のものである。アメリカと衝突すると云ふことになりましたれば、日本からしかけられないでも、アメリカからしかけると云ふことになれば、どうして日本の經驗を維持して行くかと云ふことを考へまして、色々研究致しまして、結論としまして日本のこの生産組織に於て一番長所と云はれて居りますのは中小工業であります。中小工業は日本の生産組織に於て、全世界に比類のない長所であると云ふことを從來云はれてゐる

のであります。所が、私はこれは長所であると同時に又大なる缺點であると云ふ風に考へました。それはどう云ふことかと申しますといふと、中小工業は如何にも家族的な點がある。或は特殊な技能を發揮すると云ふ點に於ては優れて居ります。詰り事業として、寧ろ生業としてその日を過すと云ふ中小工業と云ふものを考へますと、これは非常に大切なことであります。國民生活の維持、特に國民各個が自主獨往の氣持を以て、人に使はれないでお山の大将で事業をやらうと云ふその精神を尊重して考へますならば、中小工業の澤山ありますことは非常に良いのであります。大阪に於きまして私の極く親しい、尊敬してゐる方に中小商工業擁護に終始一貫なすつてゐる方がありまして、そのお説に私も共鳴してゐるのであります。これは平時の日本ですとそれで良いのであります。殊に對外的に貿易を伸張します際に於て大企業に依る生産物はこれは外國と非常に衝突し易いのですが、日本の工業組織の特徴と云はれる中小工業に依つて生産せられた雜貨と云ふものは、これはドイツの雜貨工業と日本の雜貨工業が全世界に於て双壁であります。この中小工業による雜貨の輸出と云ふものは、日本の貿易の三分の一強を示してゐると云ふ實情から見まして、又將來今日のやうな國際情勢が続くと致しますれば、日本の貿易を伸ばすには結局

斯う云ふ特殊の雜貨工業によるに非ざれば伸張は出來ないと云ふことはよく分つてゐるのであります。併し今日のアメリカの態度或は今後の世界の情勢變化と云ふことを察しますといふと、この中小工業が日本の長所であると云ふことに安心して、この長所の維持育成と云ふ方針のみを守つて居て果してこの日本の經濟組織がこの國際情勢の大變換に應じ切れるかと云ふ點に考及びますと、私はそこに非常に危懼すべき點があるんぢやないかと思ひます。敵を撃ちますには敵の一番弱點を握るのが良い、又一番その長所を挫くのが戦法上私は良いのぢやないかと思ひます。閣下が居られますし、私なんか作戦のこと或は戰略のことを申すのは烏滸しいのでありますが、これは千古渝らざる眞理であると思ひます。さうするとアメリカが總力戦に於ける國內第一線たる大阪の中小工業に打撃を與へやうと思へば容易に私は出來るのぢやないかと思ひます。彼の資力を以てすれば日本の雜貨工業の輸出をスツカリ止めて仕舞ふ謀略も出來ます。或は大企業に對して原料供給の道を絶つことも出來る、さうしますとこの雜貨工業の出口が塞がれたならば我が中小工業と云ふものは對外的原因に依つて壊滅すると云ふことはハツキリして居ります。又アメリカから機械、屑鐵其の他のものを呉れなければ、機械工業ばかりでなく同時に機械によつて生産

せられます色々の生産業といふものは總て壊滅に瀕すると云ふことが云ひ得るのぢやないかと思ふのであります。

さうしますとこの中小工業と云ふものを強いものに組織しておくことが必要ではないか、それはアメリカの攻勢が我々にハッキリ分る以前、今日のやうな状態になる以前に中小工業の企業合同を行つて、さあ何時でも来いと云ふ體制を私は整へて置くべき必要があると考へまして、先程申しましたやうに昨年六月末から七月にかけてその意見を當局に具申し大分私は説いて廻つたことがあるのであります。で今日になりますと中小工業の企業合同はいけない、それは失業者を生ぜしめるからいけないと云ふことで抑えられてゐるのであります。又この國際情勢の現況から判斷致しますといふと、今直ちに中小工業の大合同をやりますといふことは、それは時期の宜しきを得てゐないと云ふことは私も認めますが、併しこれは早晚大合同をやらなければならぬのぢやないかと思ひます、その大合同に依つて生ずる結果をこの日本の發展に利用すると云ふことさへ出来れば、私は企業合同は大いに促進すべき必要があると考へるのであります。これを大阪に於ける防空施設に擬へて私は考へましたのであります、例へばアメリカの爆撃機が大

阪市の上空に來まして、爆弾を二、三十投げたとしますと、ロンドン、リバプール等がドイツの爆撃機にやられました現状を見て、大體それ以上の大變なことになるかと云ふ想像が出来るのであります。中部軍司令部常屋が先般御發表になりました「防空施設の要項」と云ふものを新聞紙上に拜見して、現在の大阪の状態はいけないと云ふことがよく分るのであります。然らばどう云ふことをすべきかと云ふことは、大工業と中小工業と、大阪のこの防空施設に對する建物の状態と云ふものがよく似てゐますと思ふのであります。例へば大阪驛でありますとか阪急ビル、中央郵便局、阪神ビル、或は堂ビル、大阪商船ビルと云ふやうな大きなビルディングがあります。あれを私は大工業と考へれば良いんぢやないか、それから外に小さいビルもあります、大部分八、九割までは大阪の建物が皆木造の日本作りであります、さうするとこの空中爆撃に對してどう對處するかと云へば、結局この木造の家を全部鐵筋コンクリートの家に變へて仕舞へば良いのであります。變へて仕舞ひましても一階二階建の鐵筋コンクリートの家もありますが、それでは地下室に逃げてもられる、兩三日前に大阪俱樂部で住友銀行のロンドン支店長のロンドンで爆撃を受けた體験談を聽いて參りましたが、ドイツの爆撃は非常なものでありまして、住友銀行に使は

れて居りましたタイピストの身寄のものが爆撃に遭つて何も残らず姿が全部消えて仕舞つたと云ふ風な強烈なものであると云ふことを聴きまして、又十階もある建物の天井から地下室まで抜けた爆弾もあると云ふことを聴きまして、さう云ふやうな強烈なものであるといふと、大阨に建つべき建物と云ふものは尠くとも十階やそこらの餘程強固なものでなければ安心でないと云ふことが云へる。さうしますとさう云ふ建物に大阪の木造建築を集約しますといふと、大阪の土地には随分空地が出来らんぢやないか、その空地をどうするかと云へば、それは御堂筋のやうな大きな道路にして仕舞ふ、さうして建物と建物との間に空間を残して、今迄百軒もありました家を一つのビルディングに纏めて入れておくと云ふことが防空施設として最も望ましいものではないか、空地が出来ます。それは道路にし、横に擴がつたものを縦に積重ねて、さうして強固な防空施設にすると云ふことは、爆弾の雨が降らうとも家と家との間が空いて居れば延焼する心配がない、十階、二十階になれば地下室に逃げることも出来る。と云ふことになれば私は非常に安全な防空施設が出来るとぢやないかと思ひます。これを中小工業に致して見ますと、十階、二十階のビルディングに入れたと同様に、中小工業を合同しまして一つの大きなものに仕上げる。さうすれば遊

んでゐても維持が出来るとぢやないかと云ふ風に考へられるのであります。私は日本の紡績會者は五、六の會社に合同したら良いと云ふ意見を述べたのであります。或る大臣はそんなことがどうして出来るかと云ふことをお話しになつたのであります。商工省に於て敢然これをやらうとしますれば、五、六にはなりません、四十もあります紡績會社は十幾つ位になつて仕舞ふと云ふ所から、さう云ふ主張を致しました。アメリカから来る棉が来なくなれば日本の紡績會社は潰れる、日米國交が破れました後棉が来なければ日本の紡績會社は潰れるんだ、或は國交斷絶に至る前に棉花の輸出禁止をアメリカがやるかも知らない、さう云ふ時にはその前に日本の紡績會社が合同して居りますと、御承知の通り紡績會社は何千萬、何百萬と云ふ積立金を持つてゐる會社が多いのであります。或は現金を現に持つてゐる會社が多いのであります。さう云ふものが合同して居りますと、女工を遊ばしても二、三年間の維持は出来るのであります。さう云ふ風にして置けば紡績會社は一應破綻しないで済む。アメリカが考へまして、棉花がなくなると日本の紡績會社が潰れんとすればもう仕方がない。寧ろ棉花を賣つてやつた方が良いぢやないかと云ふことになる。詰り日本の内部の備へが強ければ強いほどアメリカの恫喝攻撃と云ふものが少なくなつて

來ると云ふことが云ひ得ると思ふのであります。その點から私はこの中小工業の合同と云ふものをもう一度國民としても考へ直し、政府としても考へ直して見る必要があるんぢやないかと思ふのであります。一朝日米戦争になりましたならば、私は必ずしなければならんと考へます。私は中小工業の合同を唱へましたのは昨年九月でありましたが、綿業會館に於て或る講演會を催して呉れと云ふことでありまして、その席で話した時にもさう云ふことを話して置きましたが、さう云ふ企業合同に依りまして遊ぶ方が出來ます。例へば重役の方々が失業せられます。ドイツの會社なんかで合併致します時に一番問題になるのは、失業重役の處置問題であります。事務員などゝ云ふものはさう淘汰されるものではありません、合併しましても工場に於ける工員はさう淘汰出來るものではないのであります。さう云ふ人々は合併に依つて何等脅威を受けない。株式は鞏固になるし、何等反對は起らない。反對の聲はいつも重役から起る。或る會社、銀行が合併しまして觀兵式のやうに重役が二十人も三十人も並んだ會社をまゝ見受ける。さう云ふ所は妥協の道をとつた爲にさう云ふことになつたものと私は考へます。これ等の重役の方々は、私はアメリカが前歐洲大戰に於てとりましたやうに、ワンダラーマンと同じやうに手辨當で政府が今度開か

れました直任事務官でありますか、書記官でありますか、最近三菱の飯野君がなりましたやうな貿易局の顧問でも良い、或は興亞局の顧問でも良い、さう云ふ所に斯う云ふ方々は進出されまして、政府の官吏任用令を改正されましたその趣旨に合ふやうに、これ等の人がワンダラーマンとして採用せられて、その知識、手腕と云ふものを應用されましたならば、私は一舉兩得ではないかと思ひます。ツそこに事務員その他の方面に於て失業者が出來すれば、この等の人は私は海外進出の豫備軍として政府がこれを養つておいて、愈々進出の機會が來たならばこれ等の人々を何箇師團かに編成して進出させると云ふことにしたならば良いんぢやないかと思ふのであります。現實に合同をしませんでも、將來合同してこれ等の人々を斯う云ふ方面に配置するのだと云ふ風な計畫を樹て、政府が企業合同の立案をしてゐなければ、私は將來非常に後悔をする時が來るのではないかと考へるのであります。

企業合同の問題は、さう云ふ問題の外に技術の向上と云ふ點から申しましても、良い工場を中心にして二、三のものが集つて大同團結して會社が出來た、その結果が全部非常に良くなつて來た、從來前の會社ですから職工が移動することは法律上禁止されて居りましたが、一つの會社に

なると甲の工場から乙の工場に熟練工を移動させることは何でもない。それを移動させて技術の不足を補へたと云ふ事實も承知してゐるのであります。今日日本で最も要求せられて居りますことは技術の向上であります。この技術の向上さへ出来、さうして生産能率が増進すれば、これが一番生産の新體制に即應したことになるのであります。この點からも私は企業合同と云ふことを單に維持育成と云ふことに捉はれないで、もう一應この點からも考へ直す必要があるんぢやないかと考へるのであります。これは私は政府の手を以ての企業合同よりも、寧ろ親しい間の方々民間に於て進んで企業合同を御相談になつて、それを實行せられて、政府に斯う云ふ風にするんだと云ふ範を逆に示されるのが、私は今日の急務ではないかと考へるのであります。

次に中小工業の不振の精神的の原因に就て少しく申しますと、この政治經濟の革新論中非常に行過ぎた革新論が随分無責任な方々に依つて日本の津々浦々まで宣傳されたことがあります。その爲に非常に事業家は恐れられて、どうしたら良からうか、さう云ふ風になればもう商業も止めやうか、工場を閉鎖しやうかと云ふ方が澤山ありました私に對して、十萬圓以上の財産は全部没収するんだと云ふがほんとうかと聽く人がある。「私の家は少いけれども三十萬圓位あるから、二

十萬圓を政府に献納し、後十萬圓全部取られては食へませんから、まあ四、五萬圓の金を持つて田舎に引込まうと思ふがどうだらうか」と、眞面目くさつて私の所に來てさう云ふことを云ふ。「何故さう云ふことを云ふか」と訊きましたら、「これは非常に立派な方からさう云ふ話があつたので、私は心配だから貴方に御相談に參つたのだ」と云ふ話でありました。斯う云ふ無責任な放言が實業界の經營者の頭を混亂せしめ、その爲に無用の事業上の澁滯を生じて不景氣を招來すると云ふことがあり得るのであります。又先刻申しましたやうに政府の方針は言葉の上文書の上に於ては明確に示されて居りますが、實際に自分達が斯う云ふ風なことをやつて見て、これが政府の政策に順應してゐると思ふのですがどうでせうと云ふ相談を、責任ある人々に會つて云ひますと、その方々はそれに對して明快なる指導を與へないと云ふことが多々あつたのであります。それが先刻も申して重複致しますが、これが矢張り企業家の心といふものを日和見的にしたと云ふのが、不況の原因だと思ふのであります。

その次はこれは責任が全部政府にあるとは申しませぬ。民間のものも責任を負はなければなりません。先刻申しました統制經濟、特に物價統制の強烈なと云ふことが、私は非常に不景氣を

呼起したものだと思ふのであります。勿論、配給統制に於ても生産統制に於ても随分不手際であります。御列席の方々にも多いと思ふのであります。皆様もこの點は御體驗なすつてゐる方が多きものゝ値段を高くする、或るものゝ値段を決めた爲に、その商品の生産が不可能になつて、全然市場から姿を消したと云ふやうなものが非常に多いのであります。この價格を政府が定めた場合に於ては、勿論低物價政策を執り、インフレーションを防ぐ爲から來てゐるのであります。この低物價政策に副原因として、私は一つの精神動員的原因が物價政策に關聯してゐるために物價統制に於て各種の、矛盾が生じてゐると考へるのであります。それは、私が申しませんでも皆様御經驗の例の七・七禁令の時に、商工省は何ヶ月か實行を延ばさせて、その間に商品の處分が出來て、生産者、販賣業者が困らないやうにして居ります時に、精動が横から出て來て柔道着を着たものが銀座に現れたりした爲に非常な損失が商人に及びました。大阪に於て有名な大商店が數百萬圓の損をしたと云ふやうなことが現にあるのであります。さう云ふ損失をそのものにして、それで何の得る所があるか、それは敵國人ならば良いですが、日本の國民であるさう云ふ

ものに損をさせて何が得かあるかと云ふと、そこに一つ左翼的思想が潜んでゐると思ひます。それ等のものが商賣に依つて消費者、生産者から搾取してゐる、利益を得てゐる、さう云ふ中間搾取商人は須く打倒すべしと云ふ左翼的イデオロギーから過激なる消費統制、物價統制と云ふものに行はれた嫌ひがあると思ふのであります。この點は政府としても國民としても餘程氣を附けなければならぬ。私は昨年九月頃に「國防國家と新經濟體制」と云ふ小さい書物を出しましたが、その中に一寸書いてゐるのであります。商工省の或る事務官は、醤油なんか要らんぢやないか、鹽を放り込めば済む、甘い菓子なんか要らんぢやないか、砂糖を舌めれば同じことだと云ふやうな意見をもつてゐる方がありました。如何にも砂糖を舐めて居れば甘いし、お醤油を使ひませんでも鹽を舐めれば良いのであります。併しそこに國民保健の上から見て、砂糖を舐める、或は鹽を舐めるのと違つて、そこに菓子或は醤油と云ふものゝ慈味が別にあることは、國民の日常生活を潤ほすと云ふ點に非常に効果がある。菓子を取上げて仕舞ふ、醤油を取上げて仕舞ふ、味噌も取上げて仕舞ふと云ふやうなことを致しますならば、我々の日常生活と云ふものは無味乾燥になる。これが一年、二年の戦争ならば、百年續くかも知れないと云ふ時に、日本の從

來あります生活の最低限を保證し、その最低限に於て國民生活にそこに潤ひのある最低生活をさせること云ふ方針でありませなければ、日本はロシアのやうな生活状態になつて仕舞ふのであります。この點が私は物價統制、生産、消費統制に於てイデオロギー的の行過ぎが現れてゐると云ふことを述べたのであります。若しさう云ふことがありませんで、例へば七・七禁令で金絲、銀絲の肩物を禁止すると云ふことを後で段々緩めて來たのも一方法であります。禁止されまして、商人達はこれを投資りして損をして仕舞つて、今度許されました時にはもう時期後れであつて、何等の救済にならないと云ふやうな事になつてゐるのであります。それなれば初めからさう云ふ商人殺しをやらぬでおいた方がいゝんぢやないか。昨秋金融界が非常に詰つて参りました。これは春或はそれ以前から悪性インフレーションを怖れまして、非常に金融の引締をやつて來まして、七・七禁令を切掛にしまして大きな間屋、或は機屋あたりの金融がバツタリ止つて仕舞つた爲に、日本に於て四、五億の資金と云ふものが全く凍結して仕舞つた。若しあの状態がその儘過ぎて金融緩和をしませなかつたならば、必ずそこに悲しむべき現象が生じたと思ふのであります。政府がこの點に氣附かれて金融緩和を圖つた。今度は又緩め過ぎて大晦日近くなると五

十億近くの兌換書が出た、「羨に懲りて膾を吹く」と云ふ嫌ひがあります。二、三日前の結城日銀總裁の話に依りますと、金融は窮窟になるかも知れぬ、締めるんだと云ふお話であります。この締め方と云ふものに非常に注意を要するのであります。金融問題と云ひますものは人間の心理状態に非常に働きます。金融新體制をやらうとして、東京方面に於ては随分混亂があつたやうであります。心理的に色々フリクションが起つたやうに聞いて居ります。この金融新體制を政府がやらないやうになつた。一應これを中止したといふのは、結局微妙な心理作用があるからであります。例へば銀行に金を預けておいて、定期預金の引出しを制限したら良いぢやないかと云ふ意見があります。これを制限すると云ふことになれば、金を一萬圓預けて千圓しか引出せないと云ふことになれば、千圓預けて九千圓は算笥の抽斗、或は床下にでも埋めて置かうかと云ふことになるのであります。銀行預金と云ふものが殆ど全部引出される危険があるのであります。従つてインフレーションにならないやうに引出しを制限したらと云ふことは、机上論では良いのであります。實際に於てそれを行ふと云ふことは非常に危険で、金融界を全く混亂に陥れると云ふことになるのであります。それは國家に忠でないだと云ふことを云ひますけれども、今日の日

本の制度に於きましては、——ドイツ、イタリアに於ける制度もさうでありますけれども、個人の生活の責任を國家が別に負擔してゐないのであります。例へば私が失業して金がなくなつたから政府に救つて呉れと云ひ、地方廳に救つて呉れと云つても救濟して呉れない。各人が生活保證の責任をもつてゐる。この制度であります以上矢張り自らが金を持ち物をもつてその安全を確保しやう云ふことはこれは本能であり、又それが國家を壊滅に歸せない所以でもあります。總てのものが其の日暮しにかへることは國家滅亡の速度を早めるものではないかと云ふ問題であります。茲に個人の經濟性と云ふものを政治家が如何に善用するか、金融統制に於ても其の他の消費生産上の統制に於ても、矢張り個人の經濟性と云ふものを尊重し、さうしてそれを善用してやつて行くのでなければ、本當の生きた政治と云ふものは行へないのであります。國民が本當に團結し、共同して責任を取り得る組織が出来た後に於て主張すべきであります。その主張をさう云ふ組織なくして個人の責任の儘に放任して置きながら、共同體が出来たが如くに考へて主張する行過ぎた革新派の議論と云ふものは、餘程私は注意をしなければならんと考へるのであります。

次に資材の缺乏と云ふことの著しいことを申し上げます。私がこの十日ほど以前に體驗したこ

とをお話し申し上げます。これは此處に居られます軍關係の方には特にお聴きを願ひたいのであります。私は早くから革新論をやつて居りまして、先般堂ビルの清交社に於ても申述べましたことでもあります。マルキシズムの研究に十年ばかり掛りまして、後五年掛りましてアンチ・マルキシズムの私の經濟學を樹てました。私の經濟學はマルキシズム打倒の經濟學に終始してゐるのであります。随つてマルキシズムの何所に缺點があり、何所に長所があるかと云ふことはよく心得てゐるのであります。随つて國民經濟上どう云ふ態度をとらなければならんかと云ふことに就ては洞察を誤らないと信じてゐるのであります。最近に於て暗取引は非常に不都合であるからと云つて、政府は罰則を以て臨んで居ります。これは當然のことであります。私は死刑を以て臨んで良いと云ふ位極論を致して居ります。併し一面に於て政府の生産配給統制が悪い爲で、暗をやらなければ生きて行けない、仕事が出来ないと云ふ不平があるのであります。私は今申しました十日前の體驗と申しますのは、私が三十坪以内の政府の制限に依る住宅を建てたい。私の子供が出征致して居りますが、或は幸にして歸つて來るかも知れぬ、小さい家を建て、やつて置かうと云ふ個人的考へであります。或る建築業者に相談を致しました所が、「何ヶ月間にこれをやる

んだ」と聞きますから、私は「それは四、五ヶ月間にやつて貰ひたい」と云ふと、「それではお引請出來ませぬ、暗をやつて良いと仰有ればそれは三月にも四月でもお拵へ致しませう」斯う云ふ話です。それはどう云ふのかと云ひますと、「政府から三十坪の家に配給せられますセメント、釘と云ふものでは完成な家は建たないんです。地盤が直ぐくるつて來ます。そこで暗でセメントを買つて來、釘を買つて來ると云ふことになるのであります。貴方は暗取引を喧しく云つて革新論者だと云つて居られるから、貴方の御意に副ふなら一年掛るか、二年掛るか、配給の來るまで待つて貰はなければなりません」。「それでは困るから止めておいて呉れ」と云ふのでその計畫を放棄しましたが、即ち政府が統制をします上に於てさう云ふ風な一方に於て法令を出してあるなら片方に於てそれが完全なものになるやうな資材配給と云ふことを考へておかなければならぬのぢやないかと思ひます。特に最近大阪に於きましては外郭に對して防火装置をしると云ふことになりましたが、その防火装置の爲には商工省で持つてゐるセメントを全部使つても足りませぬ。外壁をやりますモルタル其の他に使ふセメントと云ふものは全然最近に於ては不足してゐる譯であります。法規施設を考へます政府當局と、セメント配給を考へます政府當局とは全然別の觀點か

らやつてゐるのであります。この間何ら連絡がありませんから、迷惑するのは建築業者であり、家を建てんとする民間であります。このやり方の不備と云ふものがどうしても家を建てる必要のある人に暗取引をさせるか、或は建築業者にさせなければ家が建てられない、已を得ずそこに統制経済法規違反をやると云ふことになるのであります、斯う云ふことがありまして、而も一方に於て嚴罰を以て臨む、足を纏つてマラソン競走をやれと云ふのと同じことでもあります。斯う云ふ統制上の缺陷と云ふものが是正せられなければ、私は凡ゆる業者の救済と云ふことは出來ないんぢやないかと云ふやうに考へるのであります。

又これは大きな或る機械工業の會社の經營者の二、三の方に私はお尋ねしました、「貴方々は政々の配給切符だけで完全に仕事をおやりになつてゐるか、それで一切暗をまたずにおやりになつてゐるか、一千万の仕事の中で五圓か十圓でも暗が這入らなければ出來ないんぢやないかと思ふがどうか」と云つて訊きましたら、「それは君が云ふ通りだ、千分の一か萬分の一は必ず暗が這入らないと出來ない。自分の會社自體ではやらんが、注文を出した下請のものがやつてゐるかも知れない。さう云ふ點に於ては僕は確言出來ない」と云ふことを二、三の人が云つて居りました。

實際さう云ふ實情だと私は思ひますが、斯う云ふ統制經濟が行はれませんが、資金の不足から暗取引が必ず起るのではありません。三菱、三井と云ふやうな大きな會社さえも民間の小さな仲買人、ブローカーを使ひまして、銅其の他の資材を市中から買ひ漁つて行たと云ふ實例さへあるのであります、如何なる大きな經營に於きましても矢張り煎じ詰めますとさう云ふ缺陷が起きて來るのであります。さう云ふことに就ての配慮をとゝのへなければ、今日の業者を救ふ道はないんぢやないかと考へるのであります。正直なものは働けないと云ふやうなことでは、私はいけないんぢやないかと考へて居ります。

次に中小工業者の救済對策はどうすれば良いかと云ふことでありますが、今迄申しました缺點を除いて仕舞へばもうすでに救済は出來るのであります、救済策は結局原因論或は現狀論の中に論じて仕舞つたやうなものでありますが、尙二、三附加へて申しますれば、機械工業其の他に於きましては、下請工場制度と云ふものを商工省で完備しやうとしまして、准則が出來て居ります。この下請工場制度と云ふものを早く整備してやらなければならんのぢやないかと思ひます。下請工場に私は二つあると考へて居ります。或る大きな親工場の仕事のみをやつて居ります分工

場式の下請工場と、十も二十も親工場をもつて居ります純粹下請工場とあるのぢやないかと思ひます。この二つをどう云ふ風にして取扱ふかと云ふことでありますが、専門技術的のことに成りますと、中小工業者の技術向上と云ふ點或は研究其の他の點から考へまして、矢張り分工場式に成可く親工場を少くして行くと云ふ方向に導いて行くのが良いのぢやないか、勿論下請工場の機械設備、使つて居ります工員の技術が單純か或は複雑かと云ふ點に依つて決定されるのであります、これ等の工員の融通と云ふことは逆も出來ないと思ひますが、傭入規則、移動禁止令が緩和しますれば分工場式のものに段々近付けて行くことが出來るんぢやないかと考へて居ります。又先刻申しましたやうに、代用品工業を本當の新興生産工業にすることが必要だと云ふことを云ひ得るんぢやないかと思ふのであります。又下請工場と申しますのは親工場と同じことをやるのであります、中小工業で獨立して自ら專業にやつて居りますものは親工場を捨へることは出來ませぬ。これ等の特殊技能の工場は本當の維持育成と云ふことをやつてやらねばならぬのであります。之等には救済の金を貸してやるとか技術者をやるとか、機械を貸してやるとか云ふやうなことが必要であると思ふのであります。最近滿洲重工業の副總裁になつたとかなるとか云はれて

居ります東洋製罐會社の専務の高崎君が、あの製罐會社をやつて居られました極く初期の時を私は知つて居りますが、商工省——當時の農商務省——が外國から製罐の機械を輸入しまして、さうして高崎君の工場にこれを貸與へまして、そこで作つた製罐の利益では毎年少しづつ償却の金を積立て、返せば良いんですが、大部分只で呉れてやつたと云ふやうな風で獎勵して居つたことを私は目撃してゐるのであります。さう云ふ風なことを、少くともドイツと今日の同盟關係が出来て居りますならば、ドイツ邊りから特にさう云ふ機械を輸入して、さうして中小工業者に貸與へて、獨立性を確保して行くと云ふ政策が、私は執られるべきだと思ふのであります。

先刻も金融のことを申しましたが、更生金庫とか色々なものが出来ません。或は中小工業の爲に中央金庫と云ふものが出来て居ります。併しその貸付けます手續が非常に難しいのであります。例へば或る組合が借りに參ります。理事者が連帶無限の責任を負はなければ貸さないと云ふやうなことであります。私は商工省の或る振興委員會の委員を仰付かつてこの金融問題を取扱ひましたことがあります。商工當局に對して、斯う云ふものは理事者が連帶責任を負はなくて済むやうな途を開いて呉れなければ困るぢやないかと云ふやうなことを主張した所が、金庫當局は、

理事者から金を取立てやうとするのではない。理事者が保證する位の組合員でなければ信用があるものとして貸せないんだ、と云ふやうなことを云つて居られましたが、實はこれは貸して貰へるやうな信用のあるものならば何處からでも借りられるのであつて、貸して貰へない、信用のないものが本當は金を借りたいのであります。そのけじめをつけて、本當に中小工業を維持育成しやうとするならば、この金融の道に今少し大膽な方法を執るべきぢやないか、最近更生金庫の理事長になりました大口さんの話では只で呉れてやるんだと云ふやうなお話でありましたが、いざ商賣の店を開くといふと必ず保證人を立てろ、何をしろと云つて難しい手續を行はれると思ふのであります。今からさう云ふことのないやうに希望して置きたいと思ふのであります。

その次には私は海外轉出の道を開いてやる、それは國際情勢が左右します。色々な問題もありますから、今直ぐには行きませんが、私は北支とか滿洲とか云ふ方面に獨占制を布かないで、自由に進出出来るやうな制度を先づ開いて、然る後に南方共榮圈に進出させたらどうかと思ふのであります。滿洲に於きましては獨占會社が出来まして、一社一業主義でやつて居りましたが、旨く行かないので、最近色々組織變へをして居られるやうであります。斯う云ふ新興國、新しく開

けます地方には統制と云ふこと、或は計畫と云ふことは一寸私は行過ぎぢやないかと思ふのであります。あゝ云ふ所は或る所まで發達するまでは自由にしておいて、然る後に統制を加へる、或る程度の計畫性と云ふものを持つて行くことは勿論必要であります。從來餘りにその點が畫一に過ぎたと思ふのであります。滿洲に於ける計畫が變更せられたやうに聞いて居りますが、もう少しこれを緩和して、もう少し進出出来るやうにしたらどうか、又北支に於ても殆ど今は入れないやうな状態になつて居ります。これも一つ入れるやうにして頂いたらどうかと考へるのであります。日本人も随分北支にいかさまなものが行つて居りまして、興亞院の方々に伺ひますと、出て来て貰ひたい人は出て来て呉れないで、来て貰ひたくないものばかり來ると云ふ歎聲を漏して居りましたが、さう云ふ風な嫌ひがあるかも知れませんが、私は共食でも良い彼所に進出する方が良いんぢやないか、國內に居つて何もしないで親戚知己の負擔になつてゐるものは、北支でも中南支でも共食でも良いから行つて生活して貰つたら、國內の負擔の軽減が出来る、又北支、滿洲其他に於て生産業に従事するものが多く要ります。と云ふことはこれは私が通貨政策の上から云つても當然しなければならんと思ふのであります。日本の北支に於ける或は中南支に於ける通

貨政策と云ふものは少しく通貨の理論に捉はれ過ぎてゐるんぢやないかと思ひます。お札を發行するには準備金が必要である、餘りに餘計出すとお札の値段が下るから、成可くこれを禁止しなければならんと思ふことは、通貨統制の技術としていろはであります。専門學校大學あたりの經濟科の生徒でも知つてゐる所であります。併し通貨の價值と云ふものはそれが購買します所の生産物の量に依つて左右せられるのであります。生産物が多くなつて來れば隨つて通貨の價值と云ふものは高くなつて來ます。日本人が支那大陸に行つて生産業をドンドンやつたら、初めの固定資本を入れます間は通貨は變則的な膨脹をしますが、その設備が完成して商品が生産されるやうになつて、多量の商品が賣捌かれるやうになると、今度は逆に商品が安くなつて、通貨が高くなつて來るのであります。斯う云ふ商品と通貨の價值の關係と云ふことを長い眼で考へて、通貨政策と云ふものを行はなければいけないのであります。目前の爲替相場が下つたからどう斯うと云つて遽てふために通貨対策をやると云ふやうなことでは、却つて國家を禍すると云ふやうな點があるやうに考へるのであります。最近に中支に於きまして中央儲備銀行と云ふものが出來ましたが、あれも矢張り生産業と云ふものを中心にし、中支に於ける生産力、これは工業生産力でも

農業生産力でも、或は商品の流通でも良い、さう云ふものを以て通貨價值の裏付にすると云ふ政策から出發致しませんことには、あれは北支の聯合準備銀行券と同じやうな運命に近い中に逢着するんぢやないかと云ふことを私は心配してゐるのであります。國內を整へます爲に色々の人々を外に出すと云ふことから、通貨政策と生産人の關係を検討する必要があるんぢやないかと考へるのであります。

次に中小商業の問題に就て簡単に申し上げます。商賣のことは工場と違ひますから皆様は直ぐお解りのこととあります。何故中小商業が弱つてゐるか申しますと、これは工業の時と同じやうに各種の經濟統制が強化せられ、資材が不足して來る結果取扱ひます所の商品の品種數量と云ふものが減少して來る爲に非常な打撃を受けてゐるのであります。この打撃も先刻申上げましたやうに、七・七禁令のやうな行過ぎた統制強化の爲に非常に迷惑をして居ります。最近大阪府の特免品だと云ふやうなことで、贅澤品と目されるやうなものが相當ショーウインドーに現れるやうになりました、多少緩和されて居りますが、もう國民の心はさう云ふものを買はうとしませぬ。さう云ふものゝ賣行きは餘程減つて居ります。併し七・七禁令の出ます前に私は或る大阪の大デ

パートの特選賣場と云ふのがございます。彼所の人に訊きました「君の係は非常に贅澤で一反何百圓の着物を賣つてゐるんだから非常な打撃を受けてゐるだらう」と云ふと「いや、お蔭様で大變儲かりました。七・七禁令で贅澤なものが買へないと云ふことになるので、その前から外見贅澤に見える、華美に見えるものは買ひませんが、地味な大島とか何とか云ふ木綿物に見えるやうな、匹何百圓と云ふやうなものがあります。さう云ふものは全部賣れて仕舞つて非常に儲りましたから、暫く遊んでも結構です」と云ふことを聴きました。それはまあ一例でございますが、七・七禁令に依つて打撃を受けないで儲けた百貨店、小賣屋さんもあると思ひます。さうでなくて非常に打撃を受けた商店もあるのであります。これも行過ぎ禁止をやるよりも、何か外の方法があつたのではないか、斯う云ふ時に私は矢張り最初コツソリ製造禁止の命令を出して、商店にありますが商品が賣れて仕舞へば後にはさう云ふものがなくなる、賣つて居りますから買ひます、製造しますから仕入れるのであります、元の製造を止めて仕舞へば、もうそのものが賣れて仕舞へばもう問題は起らなくなる、さう云ふ政策を執つて行くなら、矢張り今云ひましたやうに匹何百圓とか、反何百圓します衣類が飛ぶやうに賣れると云ふ、さう云ふ跛行現象を生じなくて済んだの

ではないか、國民に奢侈を禁止して、却つて奢侈を奨励するやうなことの起らないやうな政策を執ることが出来たらうと思ひます。

又商業に於ても工業と同じやうに、革新の聲に煽られて、或る大藏省の事務官は大阪の某會合に出席されまして、商賣人の存在の必要はない、中間搾取階級であるからこれ等のものは全部拂拭して仕舞ふんだ、若しそれに君達が反對するならば銀行に命じて金を貸さぬやうにして仕舞ふ、と云ふやうな極端なことまで云はれたさうであります。私は直接聴いたものではありませんが、間接に聴きました。或は無責任になるかも知れませんが、事實さう云ふことを述べられて、速記にまで取られてゐると云ふことであります。さう云ふ風な行過ぎた革新論をせられまして、商賣人を脅やかすと云ふことはいけません。商賣人も亦國民であり、商賣人の本當の生きる道は單純なる配給ではありませんで——何時か私は公會堂で商業報國運動の時にも申しましたが、生産消費の指導をする、合理的な生産消費の指導をすると云ふのが商業の任務であります。さう云ふ任務を負はしめるやうに導いて、この商人をして生きる道を作つてやるのが私は本當ではないかと思ふのであります。單にこれを聲を以て脅かすと云ふやうな事は、國民を敵國

人扱ひにすると云ふ誹があるかと考へるのであります。又この經濟警察違反を怖れまして商賣を止めたり或は休んだりするものがあります。工場と違ひまして商店は特に警察關係の方々が近付き易い、商店街の兩側の商店は奥まで見えるやうなんで、非常に警察の方々の監視を怖れて、而もそれが先刻工業の時に申しましたやうに、物價統制の拙劣なものと抱合せになりまして、商賣人をして商賣を忌避する氣持を起さしめる、從來私が聞いて居ります例の一つを申しますと、仕立上りました子供の服はボタンの附け方、裁方の寸法が小さいか緩いかと云ふことで値段が違ふのであります。これを無視しまして同じ値段で出さなければいかんぢやないかと云ふことで値段をつけかへる、その爲に損をすると云ふ小賣商が相當多いと云ふことを、地方に於て私は聞いてゐるのであります。さう云ふ點から商賣人、特に小賣商と云ふものが萎靡してゐると云ふことも云ひ得るのぢやないかと思ひます。

又卸賣商方面に於きましては製造工業と同じやうに行過ぎた企業合同を政府が仄かしました爲に怠業氣分になつたのであります。例へば生絲の卸商と云ふものが手何百軒ありますのが三十幾つに減らされると云ふことであります。數は私の記憶違ひかも知れませんが、又タオルの卸商は

三十萬取扱ふものを基準にして商店の合同をさせる爲に、大阪では四、五軒の間屋になつて仕舞ふと云ふことがあるのであります。斯う云ふ行過ぎた企業合同が我々の方にも来るんぢやないか、それならば商賣を休んでゐる方が良いいんぢやないかと云ふ怠業氣分になつたものが多いのであります。企業合同に就ては先刻申しましたやうに、一定の目的を樹て、それに合致するやうな準備が必要であります、今申しましたやうなタオル、生絲の如き行過ぎた合同と云ふものは差控へて、今少し實情に即したことをやるべき必要があるんぢやないかと思ふのであります。特に企業合同は工業者、商業者を通じての問題であります、合同します際に於て、合同されて整理されたものが他に轉業して必ず成功する素質をもつてゐるもの、或は海外に進出してそこで成功する能力をもつてゐるものを先づ淘汰すると云ふ意味で、或はさう云ふ方面で成功する人を特に選出して、さうしてその業務にならして行くと云ふやうな親切な態度をとつて行く、さう云ふ企業合同が良いいんぢやないか、さう云ふことにすれば進取の氣性に富んだ人は、俺は海外に出て行くんだと云ふことで易々とそこにフリクションなしに企業合同が解決するんぢやないかと考へるのであります。

中小商業者の窮迫の現状及び原因、その對策と云ふことは今申しました中に殆ど含まれてゐるのであります、尙こゝで特に商業者の爲に、私は先程も申ました商業者の技能に就ての政府の指導方針、單純な配給業者でないことと云ふことの意味を私は重ねてこれを強調して置きたいのであります。尙小賣商に就て私が考へて居りますのは、小賣屋さんの數を制限して免許制を布かうと云ふ政府の一部の考であります、今日の資材が缺乏し、小賣屋になつては立つて行けないと云ふ時代に、小賣の免許制度を布いて數を制限すると云ふ必要はないのであります。寧ろ商業者になるものを奨勵しなければならぬなり手がないと云ふ現状ではないかと思ひます。そこに救濟策として免許制を布くと云ふことは全然方向の違つた考へ方ではないか、誤つた處置であると斷言して良いと信ずるのであります。商賣人の生きる道は少なく生活必需品なんかは殆ど共同配給になつて仕舞つて居ります。さう云ふものは別に致しまして、小賣方面或は小さい卸で特殊の専門業者として生きて行くようにしてやるには、國民生活に於ける文化性と云ふものを或る程度尊重しなければ出来ない、専門品と云ひますものは、特に文化性の高いものであります。靴でも只靴の恰好をして居ればいゝ、兵隊さんが戦争の時に履くと云ふやうな靴でも靴であります、

日常生活に於て我々が都市で履きます靴は多少の飾くらゐはあつても良いんぢやないか、先程味噌、醬油、菓子为例を申しましたと同じやうに、そこに文化性を持たせて、特殊の専門業者の生きる道を拵へてやるのが、失業者として社會不安を起すよりは私は良いと思ふのであります。勿論戦時に於ては文化と云ふものは閑却しても良いと云ふ議論も一應は成立ちますが、日本國が滅びて仕舞ふなればそれで宜しいが、この大東亞共榮圈を建設して發展して行くと云ふには多少の文化性を残すに躊躇すべきでないと思ふのであります。

時間が参りましたので結論的に申上げますならば、今日政府のやつて居ります統制と云ふものは、物價或は生産配給消費の統制と云ふものが旨く行きません爲に生じて居りますこの中小商工業者に對する障礙は、これは私は速かに何等かの方法に於てとつて仕舞ふことが、國民の一致團結を促す上に於て一番必要と考へるのであります。國民に對して國家に忠なれ、減私奉公をしろと云ひましても、その生活が困難になつて來ると云ふやうなことではいけないのであります。矢張り國民が總力戰的に見て安定してゐると云ふ程度にこれを修正してやる必要があります。それにはドイツ、イタリアで行つて居りますやうな官僚統制を罷めまして、民間人の自治統制にこれ

を任して行くことが必要である。或る經濟關係の方にこれを進言して置きました。民間の自治的の統制團體を拵へて、商業組合、工業組合のやうなものとは別途の統制團體を拵へて、理事者と組合員が連帶責任を負ひ、さうして一致協同して職域奉公の誠を盡し得るやうにしてやる、他面物價生産配給消費の統制は自らの責任に於てやらせると云ふやうにして行き、減私奉公の精神を吹込むのが一番良いんぢやないかと思ひます。これは經濟を滑かにすると同時に國民精神の動員になるのぢやないかと云ふことを私は考へてゐるのであります。さう云ふことになりましたれば、民間人は政府當局を恨みませんで、俺達の力に依つてやるんだと云ふことで、私は非常な力が盛上つて來るのぢやないか、大政翼賛會の方が、大政翼賛運動は國民の方から盛上つて來るのでなければいけないと云ふことを云はれて居りますが、盛上らしめるには、矢張り盛上るだけの道をつけてやらなければならんのぢやないかと信ずるのであります。特に私はこれを商業者、工業者をして今日一番苦しんでゐる原因たる資材の不足を克服すると云ふ方向に導いて行くのが一番いゝんぢやないかと思ひます。これが大にしては日本の國難を克服し、小にしては各自の生活に安定を與へるのではないかと思ひます。代用品工業其の他に就て申上げました同じやうなことで

ありますが、政府が生産力擴充を唱へられて居りますが、生産力は段々減退してゐると云ふ實情であります。これを國民各個の責任に於て、或は協同體の責任に於て生産力を擴充するやうに仕上げて行くと云ふことにしますならば、忠良なる日本國民がその方向に働かない筈はないのであります。國民を敵國人視して色々の施設を行つて來た點に誤りがあるのであります。これは政府の誤りばかりぢやない、民間人も責任を負ふべきだと信ずるのであります。それはどう云ふことかと申しますと、政府が統制を始めました初期に於て民間業者の意見を訊きますと、民間業者は或る重要なポイントをばかして、政府が法律を實施すると直ぐにその裏をかくて儲けるような穴を造るのであります。さう云ふことをやつてゐる方々を澤山知つて居ります。ですから經濟當局は民間人の云ふことは信用しない、それならば俺の方で勝手にやらうぢやないかと云ふので、今日の官治統制と云ふことになつて來たので、それから役人が民意を尊重しないと云ふことになつた、原因は民間人の方にある。罪は兩方にあると思ひます。官民兩方が欺し合ひ、駈引し合つて、日本とアメリカ、ドイツとイギリスの如くやつて居つては經濟の發展はしやうがないのであります。この點は官民共に反省しまして一致協力して行く必要があるんぢやないか、私はそれが

總ての中小商工業問題を解決する一番の捷徑だと信じます。尙申上げたいことがあります、大體時間が参りましたから、甚だ詰らないことを申上げまして相済みませんが、これで御免を蒙ります。(拍手) (昭和十六年一月十日於大阪偕行社講演速記)

七 三國同盟の成立と産業界の再編成

支那事變を戦ふこと三年有餘、戦争の成果をして有終の美たらしめんがためには、孤立なほよくこの國難突破の勇を奮ひ起さねばならぬ秋に當り、豫てかくあるべしと期待した通りであるが、日獨伊三國の政治、經濟、軍事の全般に亘る同盟の成立は、國民一般に力強い安堵を與へたと同時に新らしき意味におけるより一層大なる國難の到來を意識しないでは居られない、三國同盟の締結の遠因並に近因は多々あるであらう、たとへば英本土攻略がドイツ軍司令部の目算通りに進展しないといふことも一原因であつたかも知れないし、または米國に對し反省の機會を與へんとする意途もまた原因の一として計上され得るかも知れないが、兎に角に、東亞において英米の經濟制覇を全アジアより驅逐して新秩序を建設せんとする我國の努力は、歐洲におけるドイツ及

びイタリアの同様の目的に出づる對英戰爭と東西呼應の態勢においてあるが故に、志を等しくする者相集まつて一團を作り互に目的貫徹のため協力することは、各自のしかも共通の目的を達成するために、必ずなさなければならぬ事柄であり、またそれは必ず成し遂げられねばならない任務遂行上必然の要請であるといひ得よう。前述のドイツの對英本土攻略戰の延遷は、確かに英國側にとつて福音であるも、英本土の運命は軍事的に見て時間の問題に過ぎず、早晚ドイツ軍の鐵蹄下に蹂躪されることは明かであるがこの延遷の時間的間隙がドイツにとつては重大な國運成敗の岐路となるのであつて、かゝる間隙を充填するために打つべき手は、日獨の軍事同盟以外にはないといつても可なりであらう。即ちそれによつてソ聯の獨ソ協定への忠誠と不足物資の極東よりの補給路確保に成功し以て長期戰即應の態勢を整へ得るからである。ドイツの國歩安定はイタリアの同様の安定を意味し、我國もまた英米依存からの脱却によつて生ずべき不足物資供給の缺陷を、獨伊よりの補給によつて充填し東亞新秩序建設の事業を完遂し得べきを以てそこに日獨伊三國同盟の成立の機運を容易に發見し得るのである。米國大統領ルーズベルトの對日獨伊の態度は、米國建國の本來の精神に反するものであるが、彼がユダヤ財閥の手先として、戰爭業者の

くわいらいとして、是非共米國を驅つて參戰にまで持つて行くに非ざれば大統領の地位を持続し得ざる限り、彼に對し反省を促すは木に倚つて魚を求むると同一であらう。ル氏の大統領三選が確定した曉には必ずや米國は太平洋に向つて益々露骨なる干涉の手を打つであらうし、また假に彼が落選してウイルキー氏が當選したとしてもユダヤの金權は彼を捕虜としてル氏と同様の方向に向はしめるやうに策謀する事は明かである。ル氏が大統領に當選した當初は日露戰役當時の大叔父ル氏を想起して彼の血統が親日的傳統によつて純化されて居る如く説いた人々が我國に多くあつたが、その後のル氏の態度は全くそれ等の人々の期待を裏切るものであつた。我國が全體主義國家群に参加したる限り、到底米國との友好を望むことは不可能であり、太平洋の波浪は時を経るに従つて高くなるであらうことは誤りなき事實と成るものと信ずる。

日獨伊三國同盟成立の結果ソ聯は日獨伊三國の中間に介在してサンドウイツチのハムの如き極めて有意味の存在となつた。かゝる意義ある存在であるソ聯をして三國に對し最も意義ある作用を営ましむるには、ソ聯をしてその看板たる共產主義の旗印を撤去せしめ、ポートランド、リトアニア、ラトヴィア、エストニア等への進駐による自己の行動に鑑み國家資本主義國たる本性に

名實共に立戻り三國と同一歩調の下に歐亞大陸一貫の新秩序建設同盟の一員たらしむべきである。スターリン自身としてもかゝる轉向によることが自己保存の最良策であり、蘇聯邦自體を守護するにも最善の方策である。日獨伊三國の勸説は必ずや良く蘇聯邦の改過遷善を成し得ることゝ信ずる。現實にソ聯邦はそれによつて國內經濟再建を可能にし民心の協和を確保し得る筈であり、スターリンの生命の終生の安全をも保障するを得よう。而してそれはまたユダヤの共產主義と資本主義の双刃の政策を清算せしめ、今日までの該種族の理想と全く反する結果を招來しつゝある事態の進行から彼等を救ひ出し、世界革命に代へて自己保全の現實に生くる途を發見せしめる契機となるであらう。

實際に三國同盟が日蘇獨伊の同盟にまで發展し得るならば、米國もまた現實の事態を直感して、必ずや自國の參戰による世界大戰化に向つて策動するの愚を演じないと同時に、ユダヤ種族をしてその所を得せしめる方策を日蘇獨伊と共に謀るの賢明なる途を取ると思はれる、ユダヤをその所を得せしめ無謀なる世界覆滅の陰謀から正道へ立ち歸らしむることが世界平和の眞の要諦であると考へる。しかしながらかゝる理想から眼を轉じて目前の事態に對處するには、我國と

しては三國同盟を政治的に、軍事的に將又經濟的に善用して、大東亞自給圈の確立とそれによる副産物としての支那事變の終熄を圖る必要に迫られて居る。支那事變の處理は決して直接的方法によつては可能でなく、前述せる如く大東亞圈の盟主たる名實兼備の地位に我國を置くことによつて始めて成し得る事である。従つてかゝる地位に我國を昇らしむるには、我國の政治經濟軍事の各般に亘つての強化充實を急速に完遂せねばならぬ。しかも斯の如き強化充實は、重慶政權と經濟的にまた政治的に親密なる聯繫を保つ英米と我國とが親善關係を結び之等の國の政治經濟界を牛耳れる金權資本關によつて重慶政府と同様好個の軍需品販賣先として愛好されたのでは、一方において得る所は他方において失はれ、結局強化充實の目的を永遠に達するを得ないであらう。實に我國の親英米派の行動は英米ユダヤ閥の世界覆滅の政策に躍らされ、重慶政府と共に左右の手にて操られて居たことを知らなかつたに原因するものであるが、そのあまりに覺醒するの時間の遅かりしことを遺憾とせざるを得ない。しかしながら今や三國同盟の成立によつて敢然英米依存を清算し得たることは邦家のため慶賀に堪へない所である。

我國が大東亞自給圈の確立を圖るには、我國自體の經濟、政治、軍事の各般にわたつて強化充

實を遂げねばならない。かくするには先づ第一に英米依存脱却によつて生ずべき國內經濟の缺陷を補填する方法を講ずべきである。例へば生絲の國內轉用、低品位鐵礦並に砂鐵の國內利用等を圖る如きである。かゝる缺陷補填は、併し在來のまゝの經濟組織を保存しながらなすを得ないのであつて、必然的に産業全般に亘つての編成替が行はねばならない。今日迄の民間の各種經濟團體から發表された新經濟體制案は外廓的統制團體の整序を考案せるものであつて、産業經營そのものゝ強化充實を企圖立案したものでない、従つてそれは形態的には一應の整備が成れるかに見ゆるも、その實は舊態依然たる内容を持つに過ぎない似而非なる新體制である。名實共に具備したる經濟新體制は、蓋し産業の内部に立ち入つてその強化充實を成し遂げたものでなければならぬであらう。

産業界の編成替は先づ大東亞自給圏建設のための經濟軍の進發を容易ならしむる目的の下に、即ち手足まとひとなる部分を整理するために多數に存在する弱體企業——主として中小工業を——その地理的、經營的、技術的見地より最も便宜とする方法によつて成るべく少數の會社、工場、商店に併合し、如何なる困苦にも堪へ最高の效率を發掘し得る如き資本と勞務の強固なる結

合體たらしむる必要がある。この企業の集約化が成し遂げられると歩調を合せて、それ等企業の聯繫を密ならしめ統制司令の一貫を期するために國家主義的組合團體を結成せしめ、それ等各種組合を中央集權化して、命令一下全産業界が一絲亂れず目的の方向に進み得る如くせねばならない。各種企業の再編成による強化は、それによつて既述せる如く英米との經濟絶縁に對處して我國內經濟の破綻を防ぐと同時に、大東亞經濟進軍の力を自らの内に求むるを主目的とするのである。従つて大東亞經濟進軍の戰士を國內に求め一大編隊を形成して南下せんとするものである。大東亞經濟自給圏の確保は陸海軍人のみによつて可能なるにあらず、國民の多數が南方擴大圏に進駐してそこにおいて經濟的霸權を掌握するにあらざれば成し遂げ得られないものなるが故に、國內企業合同によつて南進戰士を成るべく多く選出し、それ等の戰士に軍資金を與へて勇飛せしめねばならないのである。産業界の編成替はかゝる一石二鳥の惠澤を目標とするものであつて、徒らに失業者を製造して銃後の不安を増し、また無目標にあるひは單なる技術的見地よりあるひは經營的見地より企業合同を促す如き低調のものであつてはならない。吾人の意圖する編成替は上述の如き高き理想の實現に邁進するためのものでなければならぬと確信する。(昭和十

八 將來を洞察せよ

資材の缺乏、重點主義、高能率生産制の採用、主要物資の共同配給組織の普及は中小工業者の失業を加速度的に増加せしめつゝあり、銃後經濟戰線整備上の一大憂患として心ある者の痛心に堪へないところである。

元來中小企業形態はわが國特有の生産配給組織にして、これあるがためにわが國の産業構成ができてゐることく、主張する人々が相當多くあるのであるが、脆弱なる企業體の多數の存在がわが國産業組織の本來的のものであるとすれば、それは直ちにわが國産業組織の易懷性を物語るものであつて、強力なる國防國家體制完遂の希望とおよそ縁遠いものではあるまいか、日獨伊三國同盟の成立の目利からいつても、世界新秩序の一環としての大東亞新秩序建設の中軸體たる、わが國の産業界が、英米の經濟攻戰によつて一撃の下に破壊されるやうでは、國民の期待は雲散霧消せざるを得ない。

津田信吾氏の説くごとく、中小企業をその質的性格に顧みることなく、一概に大企業に併合する企圖は極力排撃しなければならないが、産業組織中の脆弱部分を除いて健全なる活動體となすには各企業を地域的關係、經營的關係、技術的關係の三見解に従つて大企業と中小企業または中小企業相互を適當に合同せしめる必要がある。またかゝる合同に當つて考察するべき外的條件は將來の情勢の變化といふ一事であつて、今日強固なりと考へられた企業體も明日は或は健康體であり得ないかも知れない。従つて將來起り得べしと推想される興件を計算に入れて今日健全なりと目さるゝ工場、商店をも併合の對象とするだけの識見が指導者に對し要請されるのである。速に有效適切なる處置を希望せざるを得ない。(昭和十五年十月十一日工業新聞春秋欄所載)

九 經濟統制手法を即時改善せよ

中小商工業救濟問題が喧しく唱へられ、政府當局もまたその緊急性を察知して、更生金庫ならびに勤勞訓練所の設置等の計畫を發表し、漸く眞剣な態度を見せはじめたのである。けれども、現今の中小商工業は勿論、大商工業者の窮迫の原因の一半は、海外依存度の高い我國商工業界が

自立性の乏しきまゝにその依存性を脱却せんとしたところに存するが、他の一半の原因は現在行はれつゝある経済統制の遣り方が、甚しく拙劣である點に在ると考へられる。

現今の経済統制はその立案にあたりて統制の對象となる業界全般の實情に通ぜず、しかもその接觸する一部業界人の視界の狭い進言に信を置いて、統制の方法を決定するためか、思はざる波瀾を業界に捲き起し、経済界全體に不測の損害を與ふることがきはめて多いのである。例へば七・七禁令のごときはその著しい例證である。この七・七禁令によつて禁止されたいはゆる金絲銀絲入り織物は、純正なる金、銀織の使用が禁止された後において、商工省當局より許可されたる代用品たるアルミニウムなどを以て造つたいはゆる金、銀絲を用ひて織つたものであつて、代用品として曾ては賞讃を受けた原料による製品である。その製品の製造販賣を短期間の猶豫しか與へないで禁止したため、世間周知の波瀾を業界に惹起せしめたのである。従つてこれをしも朝令暮改と言はずして何ぞといひたくなるではないか。

代用品の問題は兎に角として、不必要な損害を業界に與へ、破綻の憂目を見る者さへ現はれたといふに至つては、言語道斷であり、銃後の経済界を攪亂したる消極的利敵と看做されても致し

方ないであらう。かゝる禁令を出す代りに賢明なる政治家は、かならずや金、銀絲製造を尙かに禁絶し、暗黙の裡にその目的を達する手法を採つたであらうとおもはれる。政治の要諦は妄に國民を不安の境地に追ひ込まざるに在ると信ずる。経済統制の運用を思慮足らずして衝氣のみ盛んなる若手官僚の恣意に住すことは、國家百年の計を破るものといふも過言ではない。勿論爲すべきことは爲さなければならぬが、その實行の方法において練達堪能ならんことを切望せざるを得ない。(昭和十五年十一月十三日工業新聞春秋欄所載)

十 民心不安とその解消策

最近何となく民心不安の感覺が鋭く感じられるのであるが、或るものはそれは第六感的なものであつて、現實にはさほど憂慮すべき状態においてあるのではないと主張する。しかし陸軍當局の人心明朗化必要論の發表は、右の第六感を裏書きするものであるし、また筆者に對し將來の不安について訴ふるものが相當多數ある事實に鑑みて、決して單なる第六感的なものとして取扱ふべきものでないやうに思はれる。

最近の經濟關係會談においても中小商工業救濟策に關聯して民心安定の必要性が強調されて居る。筆者の調査研究によると民心不安の原因は政府の政策の不明瞭に専ら存するやうである。もちろん日獨伊三國同盟成立による外交方策とか大東亞共榮圈確立などの大綱は明白に知られてゐるけれども、國內政治經濟新體制の具體的内容が全く不明であり、殊に大政翼賛運動の實際的進行が未だその緒についてゐないことが、民心不安の最大原因である。殊に經濟新體制に就ては左翼主義的な色彩の濃厚な經濟機構案が採用されるのではないかと懸念の強いことが、經濟界の不安を募らせるに多大の作用を營んでゐるやうに見えるのである。或る論者はかゝる民心不安説は革新を阻止せんとする現状維持派の宣傳工作であると簡單に片付けるが、しかしさう簡單に片付けるわけには行かぬのではないかと思ふ。といふのは少壯官僚の若干の者が種々な會合の席上において随分思ひ切つたことを斷言するので、それが考へ方によつては極めて左翼的なものと同様に見える結果から右のごとき判斷が生れて來るのである。

現在わが國において志向されてゐる政治經濟機構再編成の内容は説く者によつてそれ／＼異つてゐるけれども、要はわが國を大東亞共榮圈の中軸たらしめるについて、最も適當せる政治經濟

機構に在來の舊體制機構を編成替しようとする目的に出づるものであるから、この點を國民一般によく理解せしめる方法を採りさへすれば、民心不安の大部分は解消するものと信ぜられる。尤も凝つては思案に能はずで、拙速でも良いから一刻も速やかに新體制案を發表し、官民一致協力してさらに研鑽を加へ、最も理想的な案を得てそれを一日も早く實行に移すのが一番上策であらう。(昭和十五年十一月一日工業新聞春秋欄所載)

十一 價格統制方策の是正

經濟界安定策の一つとして筆者は缺陷多き現行の物價統制のやり方を一日も速く是正せんことを要求するものである。「秋刀魚の秋」に東京市民の食膳に秋刀魚が江戸以來の傳統を無視して上らなくなつたとか、公定價格が上るまで鶏が卵を産むのを見合せたとか、随分理窟に合はぬ現象が至るところに見られるのは、全く政府の物價統制のやり方が拙劣だからであつて、鶏や秋刀魚の罪ではなさうでもある。

今日までわが國內で需要されて來、また需要されつゝある物資の種類は數千、數萬の多きに達

し、その一つ一つの価格を政府吏僚の手で公定せんとすることは手数の上からいつて到底不可能に近い事柄にあるのみならず、商品に對する知識をほとんど持合せてゐないといつて差支へない素人が、それぞれの品質に適應した価格を決定しようといふこと自體が無理である。もちろん商工省物價局では専門委員を選定し、各専門委員に委嘱して價格の決定を行ひつゝあるのであるがそれらの専門業者は自己の専門とする部門の商品知識と市價の高低については通曉してゐるけれども、他の部門の商品に關しては全く無知識であり、いはんや物價全般の均衡などいふことはてんで考へようもしないのであるから、専門委員が決定した通りに公定價格を發表すれば間違ひないと考へると、それこそ大變な誤りを犯すことになるのである。

政府の人達ばかりではない、物價協力會議とか審議會とかに關係する人々も物價の均衡の絶對必要性を認識してゐないのである。あらゆる物資の價格は有機的な相互關聯性を持つてゐる。この關聯性を尊重することは、とりもなほさず全體的均衡價格の必要性を認めることである。従つて物價全般の均衡状態をみきはめる能力を持つものが、物價統制の行政中樞をつつて、専門委員の進言する價格の諸相を均衡状態においてあるごとく修正するにあらざれば、秋刀魚が東京を嫌

ひ、鶏が卵を産まなくなつたりする事象が至るところに起るであらう。

經濟は生きものであるといふことは、昔も今も將來も變らぬ眞理である。生きものを扱ふにはそれに適した方法をもつてせねばならない。刺身庖丁で鯛の粗は料理出來ないが、出刃庖丁では刺身はつくれない、この道理が理解出來るならば物價統制を行ふについても物資別に適應せる統制機關をつくつて、有機的關聯性を活かした統制方法を實行せんことを切望する。(昭和十五年十一月三日工業新聞春秋欄所載)

十一 經理統制令とインフレ

經理統制令施行の精神はインフレの防止にある。しかし一旦法令が發布されるとその根本問題が忘れられて統制のための統制が行はれる心配がある。わが國の官吏は大部分法律解釋學的教育を受けた人々であるから法令の精神を忘れて條文解釋の末にはしり、不知不識の裡に條文の字句を實際にそのまま適用しようとする傾向が大である。經理統制令についてかゝる弊害が生じたとしたら産業界の活動が停止するおそれがある。

今日まで多少ともインフレ傾向があらはれた原因には色々あるが日本銀行券の増發額のみを見てインフレの程度を判断するのは早計である。政府が經濟統制を行ひはじめてから商取引の多くは現金取引になつたために國民各自の手許現金在高は驚くほど増加した。これだけでも全國で約十億圓の増發を促したはずである。したがつて事變前に比較して今日十數億圓の通貨膨脹ありと斷定するは誤りであつて、わづかに數億圓の膨脹に過ぎないのである。これほどの大消費を敢てしながら眞の膨脹が十億圓に満たざるといふ事實は明かにわが國に悪性インフレなしといふ證據である。もつとも後半の膨脹額の約半額、すなはち全膨脹額の約四分の一の五億圓ほどは、闇取引のための現金資金として増發を餘儀なくされたものと推算出来るのである。もちろん既述の前半の現金取引のための十億圓の膨脹額の中からも闇取引用資金が捻出されたことは疑ひなきところであるが、とにかく以上のごとく考察すると眞のインフレ部分は五億圓にも満たぬ少額となるのである。

上述の計算が果して正確なる數字としては是なるや否やについては議論があるであらうが、それでもかくのごとき計算が一應成立することは何人も異議なきところであらう。さうすると悪性イ

ンフレなどいふ怪物はわが國にはまだ現れてゐないことが明らかになるわけである。したがつてインフレのビシマス・サクルといふか、悪循環といふか、さういつたものゝ幻影に捉はれて騒ぐのは如何であらうか。それよりも生産力擴充の方向に向つて全資力を注入し、物資生産量の増加による物價の低落をはかる方がインフレの防止に有効であり、經理統制令を必要とすること高利潤企業が現出する可能性が消失するのではなからうか。あへて當局の一考を煩はす次第である。(昭和十五年十一月七日工業新聞春秋欄所載)

十三 經營效率としての利潤尊重

マルクスの勞働搾取説以來、利潤は勞働搾取の果實のごとく考へられて、高率利潤を擧げることが罪惡のごとく非難的となつた。利潤は果してそのやうなものであらうか。マルクスは利潤率は搾取率に比例すると主張したが、實際においてそのやうな場合もあるであらうが、わが國の主要産業部門における代表的企業體の利潤發生の實際を調査研究して見るに、利潤率の大なる企業ほど勞働搾取率が低いことが發見される。このことは實に經營效率としての利潤率の作用を認

めるべき論據となるものであつて、共產理論をつくりあげんがためにことさらに曲筆舞文したマルクス資本論のごときものによつて歪曲された搾取説を讀まされ、それを金科玉條と信奉する者の反省を促す好個の資料であると思ふ。

國家の總力戰態勢をととのへるには、武力について經濟力の充實擴大がことに必要である。經濟の擴充は企業の健全なる發展にまたねばならない。しかして健全なる企業はより大なる利潤を生み出すとき高能率經營によつてはじめて成立するのである。したがつて經營の効率の高低を表示する利潤を尊重するにあらざれば、健全なる企業の發展を望むことは不可能である。

いはゆる新體制が共產主義的體制でない限り、利潤の尊重は當然のことからである。しかも目下最も多く要望されてゐる生産力擴充の觀點からしても、利潤を生み出し得るとき生産企業でない限り、時局の要望に應へるものとは看做し得ない。損失をも顧みず國家的要求に即應する事はもちろん必要であるが、損失を生ずることが國家的要求の企業においては當然のことからであるといふ主張は誤りである。外地方面において國家的事業の無利潤性の主張が強く、そのために却つて國家的事業か發展を遂げ得ない結果が招來されたるやうに見ゆるものがある。ことに經營

者の無能を國家的事業の無利潤性説によつて辯護せんとするに至つては、許すべからざる責任回避である。マルクスもいて居ることく、同種産業部門の各企業間の利潤率の相違は統制經濟の行はれてをる國家内においても起生する現象である。この利潤率の相違が經營効率の相違をそのまま反映して居るや否やを検討して、それが經營効率の差を端的に表示する限り、これを助長することは生産力擴充の目的に副ふものとして、尊重を惜んではならないと信ずる。(昭和十五年十一月十日工業新聞春秋欄所載)

十四 意圖的な利潤追求を排す

某新聞紙の傳ふところによれば、政府は民心萎縮の實情にかんがみ、經濟機構の再編成における急進的イデオロギーによる猪突主義を緩和し、利潤追求主義を或程度認めることによつて、生産力擴充の實を擧げんとする意向なるやに見受けられる、その主張は特に少壯官僚間において有力であるとのことであるが、それは或意味において至極結構であるとするも、また他の意味においては頗る反新體制的であると言ひ得る。

利潤追求が、國家目的に副ふ經營効率の高度化を目標とするものである限り、それは極めて新體制的であると言ひ得るも、若しそれが個人福利の追求以外の何物でもないとしたならば、極力排撃されねばならない。元來急進的イデオロギーの少壯官僚群の抱懐する利潤否認論はマルクスの搾取理論に基礎を持つものであり、その限りに於いて吾人は之が打倒を主張するものである。しかし若しそれが悪性インフレ防止の對症療法的なものである場合、吾人は敢て賛意を表するに吝ではない。しかも本欄において既に論述されたごとく悪性インフレの杞憂なることが判明し、現金取引を信用取引に復し闇取引の絶滅が實現するならば、インフレ療法としての利潤追求排撃の必要は消滅するはずである。

近衛首相の主張する臣道實踐の經濟的意義は、個人福利の追求を國家福利の追求に置き換へることを要請するものである。従つて大政翼賛運動の趣旨にしたがふならば單に利潤追及を認めることによつて生産力擴充の目的を達せんとすることは舊體制への還元であつて、そこに革新の後退を認めざるを得ない。吾人の希求するところは經濟人が國家主義的悟道に徹する場合においてたくまずして經營効率の高度化から自然的に生ずる餘剩利潤の恩澤に浴する事象の現出せんこと

であつて、意圖的な利潤追求をゆるすことは翼賛の實に反するものと斷じて憚らない。經濟機構の再編成は、もと／＼高能率企業體を造出せんとする目的に出づるものであるが故に、經營効率の昂まることによつて生ずる利潤を認めるべきは理の當然であつて、逆に利潤追求を容認して能率の増進を期待することは、個人主義への復歸にほかならないであらう。(昭和十五年十一月十三日工業新聞春秋欄所載)

十五 完全包圍戰術を排す

攻城野戰の術策において、敵を或は城中に、或は山野溪谷に、東西南北より完全に包圍して撃滅せんとする場合は、敵は必ずや窮鼠却つて猫を噛むの反撃に出て、味方を損ずる事意外に大なるものあるは、古來その例證極めて多く、名將は常にかゝる完全壓殺の企てをなさざるを原則とする。この原則は經濟統制の運用に當つても、等しく適用さるべきものである。

經濟統制の運用に當つて、細規煩則至らざるなく、經濟人の活動の範圍を極度に局限するならば、經濟人は自己の生存確保のため猛然反撃の擧に出づるは明かであり、統制違反はために頻出

し、刑罰の繁徒らに多くして遂に統制の目的を達する能はざるに至るであらう。また若し彼等にかゝる勇氣なくして、命令是從はんか、經濟界は萎縮して遂に破綻を見るであらう。心すべきは完全包圍の拙劣なる戰術である。

主務各省の少壯官吏は概ね攻城野戰の歴戦者にあらずして、象牙の塔に立て籠れるイデオロギストといつてよい。その抱懐する理念は、机上の整序にかゝる觀念形態の範疇を出でず、百戰練磨の實踐から歸納され洗鍊されたものではない。これを醫師に例へるならば、臨床的經驗の少しもない法醫學者が、聽診器をとりメスを揮はんとする類であつて、病患を治療するよりも、患者の生命を奪ふ方が早いのではないかと思はれる。生き物の經濟界を料理するに、かかる生兵法にて果して成功するであらうかは、疑ふまでもない事柄である。

斯く論ずるとも、筆者は經濟革新の不必要を説くのもなければ統制の不要を唱ふるものでもない。しかし經理統制令を繞つての政府當局者と財界人との衝突のときは、それが重役賞與に關する限り、筆者は財界人の主張に反對するものであるも、一般雇傭者の昇給率の制銀のとき、青年の向上心を抑壓し、經濟活動の活潑性を阻害するものとして、絶対に反對の意を表明し

たい。重箱の隅を針でほじくるとき法令は、その運上の困難は蓋し豫想の外であると思ふ。あまりに完全を期することは、却つて破るゝ基である。完全包圍戰術を排して、適正有效なる術策を採用せんことを希望してやまない。(昭和十五年十一月十五日工業新聞春秋欄所載)

十六 國民に悟道を與へよ

國民的全體革新は國民に對しそのよつてたつべき國民的哲學による悟道を與へるのでなければ絶対に成し遂げ得ないものである。個人主義的人生觀乃至は國家觀を是正し、眞に國家の一員として安心立命の境地に居るには、それにふさはしき國民的自覺に生くるの道が啓示されてあらねばならない。左翼思想の旺盛なりし際その撲滅のために設けられた國民精神文化研究所の業績については、筆者寡聞のためか、國民精神を統一的に指導し得るとき卓越したものが生れた由を聴き得ないのである。不世出の大聖賢が生れて來ない限り、かゝることは望むことそれ自體が、不當な慾望であるかも知れない。しかし文教の府たる文部省が確信をもつて設立した研究所が、たゞ單に偽裝轉向者を多く生み出したゞだけで、能事終れりといひ得ようか。

臣道實踐といひ、滅死奉公といひ、公益優先といふも、それは標語そのものとしては極めて卓絶した表現として賞讃の辭を奉るに吝かではないけれども、其内容に關し説くところが説く者の面の異なるごとく相違するのは如何なる理由によるものであるか。國民は表現の外面にかゝはるものにあらずして、その内容の如何に關心をもち、それが實踐に移された場合の結果について、細心の注意を怠らないのである。したがつて爲政者が標語を與へるのみで打捨て置くならば、國民は空疎なる宣傳として之を葬り去るに躊躇しないであらう。

ドイツ・ナチス並びにイタリヤ・ファシストの國民哲學が如何に淺薄なものであるとしても、國民の心をとらへてその實踐を具體的に要請し、國民もまたこれが實生活への適用を心から歡迎する現實の事態をみて、吾人はいさゝか感なき能はずである。哲學は心の糧であり、それによつて悟道に入ることには満足の境地に達することを意味する。國民が心の糧に満足するとき、はじめてその精神動員が完成したのである。而してかゝる満足は國民の自我と他我の統合において生ずるものとすれば、自我の放棄をのみ要求する昨今の一部人士の言説は、國民的悟道を妨ぐるものといひ得る。國民的悟道は自我もまた國民的悟道の中に満足を得るときものでなければなら

ぬ。全體と個の完全統合を成就するとき哲學の道を國民に與へてこそ、國民的全體革新の完成が期し得らるゝのではなからうか。(昭和十五年十一月十六日工業新聞春秋欄所載)

十七 重工業團體再編成に就て

中央物價統制協力會議は十九日重工業關係團體再編成部會を開催して、重工業團體の再編成方針を決定し、その要綱を發表した。發表された要綱によつては具體的な實踐部面を知るを得ないけれども、從來の四分五裂の團體をほゞ一元的な統制機構に纏めあげる企圖については何人も異議ないところであらう。しかし第一に憂慮される點は現存統制團體をそのまま利用し、これが發展をはかることが果して再編成の目的を達するうへにおいて有利であるかどうかといふことである。多少とも現存團體に觸れての再編成でなければ意味をなさないのではないかと思はれる。

ことに要綱第五の(二)に掲げたる各企業體に公共性を賦與し資本と經營關係の調整を行はんとする意圖があるなれば、尙さら既存の營利的統制團體に對し、若干の修正を加へる必要があり、『つとめて摩擦混亂を防止すべく細心の注意を拂ふ』ごとき消極的態度にては再編成の意義が没

却される惧れがある。もちろん既成の善良なる秩序を破壊することは絶対に避けねばならないけれども『比較的基礎強固なる』のゆえをもつて、そのままに置いて足るや否やが研究を要するものと思惟する。

次に憂慮すべきは經營擔當者が企業資本の營利性から生れて來るところの掣肘から免れて、國家目的に副うて活動し得る如き方策を講ずる點について生ずるであらうと思はる摩擦混亂である。私有資本制度を認め、治安維持法の嚴存せるわが國において、雇傭關係のもとにある經營擔當者に對し、資本主の要求を離れて行動することを要求するのは不可能を強ゆるものである。これは一種の下刻上の行爲を認めることになり、企業體内の秩序の破壊をきたす原因となるであらう。現存の統制團體の内部においても、理事者と職員間の考へ方の相違が如何なる方法によつて統制されてゐるかの實際に徴して見ても理解出來る事柄である。

筆者はもちろん資本の横暴を認めんとすのものでなく、反對に資本主の國家主義化を要求する點において人後に墮ちない者であるがゆえに、資本と經營の分離をはかるよりは、資本家の行動を國家主義化する方法の強化によつて、新秩序の創設が圓滑に行はれんことを希望するものであ

る。(昭和十五年十一月二十一日工業新聞春秋欄所載)

十八 國家總動員法の改正について

國家總動員法は去る昭和十三年春の發布にかゝり、未だ國防國家體制の完備による總力戰態勢整備を意識して立案されたものにあらずして、單に強權による統制を主眼とし、建設的乃至發展の部面への着眼を忘れてゐたかの感があつた。現在の國家總動員法による生産力擴充の實績に徴するも、軍需工業方面の生産力は如何にも多大の發展を見たるも、その反面民需の生産力萎縮は思ひ半ばに過ぐるものがあり、國家總力戰の見地よりする場合、極めて遺憾の點が多かつたのである。

元來總力戰の行はるところ、銃後と第一線の區別は全くなく、第一線戰備の強化も銃後の政治、經濟、文化百般の事態が、第一線と完全に統一されたる關聯において整序されて居ないかぎり、戰勝の約束を得ることは絶対に不可能である。ことに戰時における國民の經濟生活を第一線たる銃後たるを問はず、完全に確保せんがためには、國家總動員法がかゝる目的に合するや

う國家國民の總力を動員し得ることと組立てられてあることを必要とするはいはずもがなである。また生産力擴充の一半の責任をになふ工業界においてもその生産力を國家目的に副ふごとく發揮しないで、工業家の私利を目的とする方面に注いで、貴重なる資材を國家的に見て浪費したると同一の結果に陥つた事例が今日まで夥しく存在するのは、實に總動員法の立法精神に缺くるところがあつたがために起つたものと思はれる。

・歐洲における樞軸外交強化が急速なる發展を遂げつゝある際、わが國もまたこれに應じて大東亞共榮圏の確保に邁進せねばならない秋に當り、いたづらに威壓的法令によつて國民生産力を萎縮せしむるの愚を續けないで、一日も速く國家目的達成のために國民全部が勇奮し得るがごとき指導法を設定することが必要である。國家總動員法はかくのごとき國民指導の法令であるべきであつて、後退を拍車するときものであつてはならない。切に總動員法の進取的改正が行はれんことを望んで止まない次第である。(昭和十五年十一月二十七日工業新聞春秋欄所載)

十九 經濟評論家の自重を望む

最近殊に著しき現象として吾人の眼に觸るゝことからは指導者をもつてみづから任ずるところある經濟評論家たちの無責任きはまる言動である。資本主義にあらずんば共産主義あるのみといふがごとき放言は、人心を惑亂する恐れ大なるものとして識者のもつとも與せざるところである。資本主義的經營によつて維持されつゝある經濟研究所あるひは景氣研究所のごときものが、その自己保全の目的からかゝる言辭を弄するものとして見れば叱責する前に愍然の感なきにあらざるも、皇國興廢の岐路にある今日にあつて自己保全のための言動によつて國民の歸趨を迷はすがごときことあつては不忠これより大なるはないと信ずる。

資本主義にあらずんば共産主義あるのみならば多數憂國の士が今日まで十年辛苦の研鑽を必要としなかつたであらう。共産主義の非違を排し、資本主義の弊を正して眞に皇國の經濟興隆をはからんがためにこそ志あるものゝ忍苦檢討を要請したのであつた。あへてドイツまたはイタリヤの實例に徴せずとも、第三帝國的存在が可能であり、第四次元の世界としてのわが皇國独自の政

治經濟機構が成立し得ることは吾人の疑なき所信である。近衛首相が臣道實踐を唱へるのも、一にかゝる世界觀に立脚してのことであると思はれる。

周到細心なる科學的研究を行はず、たゞ思ひつきのまゝをさも眞理なるかのごとき表現において發表して無智の衆愚の賛辭を獲得するとしても、識者をあざむくことは不可能であるが、併し今日の難局に直面せるわが國において、かゝる無責任なる評論家の横行することそれ自體がわが國に與へる損害は蓋し鮮少ではない。特にドイツの碩學の書籍を引用してしかも果してそれを讀んだのか否かさへ疑はるゝごとき文章を物する評論家の存在するにいたつては、わが社會科學界の恥辱とすら思はるゝのである。いま少しく自稱指導評論家たちの眞劍なる科學的精進を要望したい。先年物故した有名なマルクス主義經濟學の大家がドイツ語の原本を克く讀み得なかつたといふ事實がある。語學の力が學問の深淺を左右するものではないが、マルクス原著の譯本を出しながら克く讀破する力を持たなかつた實例があるから、あへて經濟評論家の一、二の者の不徳を責むべきではなからうが、時局が一言してその反省を促す次第である。(昭和十五年十一月三十日工業新聞春秋欄所載)

二十助成金制度撤廢に賛成

石炭、鐵鋼などの生産に對する助成金獎勵金および補償金制度を廢して、公定價格修正によつて同一の目的を達せんとの説が最近商工省内に有力化しつゝありとの報道は、筆者を甚しく悦ばせた。物價統制は不均衡不合理な價を強權的に押しつける目的で行はれるものにあらずして、定められたる公價において物資の圓滑なる生産、配給、消費が行はれることを期待するものである。

或る物資に關する助成金または獎勵金などを撤廢して公定價格を引上げるならばそれらの物資を原材料として生産される物資の原價計算を不利ならしめ、従つてまたそれらの影響を蒙る物資の公定價格を引上げねばならなくなることは明かであるがゆゑに、これらの助成金などの交付對象たる物資の公定價格を引上げる場合には諸價格の有機的關聯性に鑑みて全般的な公定價格改訂が行はれる必要が生ずる。今日までしばしば唱へられてきた適正價格公定の議が實に諸物資の價格の有機的關聯性の廣汎なるため常に立消えとなる運命にあつた事實にかへりみて、上述の助成

金などの廢止が容易に物價局長官の同意を得能はざるにあらずやと危惧されないではない。

しかし適正價格、換言すれば全時的均衡を得たる物價の公定は現在の價格統制の不完全性より發生せる種々の經濟界のフリクションを解消せしめ、斯界を明朗化し國民經濟の健全なる維持を可能ならしむる爲にぜひとも成されなければならぬものである。従つて全般的公定價格の改訂の事業が如何に困難であつても物價局は敢然これが更訂の大業に乗りだすべきものと信ずる。殊に九・一八停止令を出して以來一年有餘、しかも適正價格制定を聲明しながら未だ何らこれが實施に指を染めてゐない際に當局の勇奮を望まざるを得ない。いたづらに物價統制違反の罪人をつくらんよりは根源に遡つて物資の生産、配給、消費の圓滑化をはかるごとき價格統制の實績を擧ぐるに努力されんことを切望する。(昭和十五年十二月二日工業新聞春秋欄所載)

二十一 農業團體統制と商工業

農業、漁業、畜産、林産などに關する統制方式が決定され、農林省を中樞として全國的實踐の幕が切つて落されんとしつゝあるときにあたり、商工業者の立場からこれに對し一言注文をつけ

ることは、敢て論争せんと意識よりするにあらずして經濟全般の高き立場よりみたる公正なる意見を吐露して、農林行政當路の一顧を煩はしたい希望より出づるにほかならない。

統制方策要領中に示されたる團體の事業の(一)のニ、ホ、へ、トに示されたる農林、水産物の生産、集荷、貯藏および配給の統制中の集荷、貯藏配給統制、農林、漁業用物資ならびに農山漁家の生活必需物資の貯藏、配給および消費の統制中の貯藏、配給、統制、農林水産物の集荷、販賣、加工、貯藏および配給の事業の全部、農林漁業用物資ならびに農山漁家の生活必需物資の購買、貯藏および配給の事業の全部はその統制の範圍と事業の規模の如何によつては多分に商工業者の分野と交錯する惧れある諸點である。

農山漁家が當然自己の業務の範圍内としてなすを便とするかぎりのものは、農山漁家の團體をしてなさしむるを適當とするも、從來の全購聯、全販聯のごとき産業組合の上部構造が農山漁家と全々遊離して獨自の意思によつて商工業を営み來つた事實は、産業組合本來の使命を逸脱するものとして、世間の非難の的となつたのであつた。米、木炭、肥料の闇取引によつて全購販聯または府縣購販聯の役職員の多數が刑罰を受けたことは最も明白にこれらの遊離せる團體の陥りや

すい缺點を如實に示してゐる。

今回發表されたる農林漁畜の統制團體がその生産團體の本來の使命たる原始生産業の統制團體としての職務に専心忠實に貢献するならば、從來産業組合の道府縣聯または全國聯が犯したるとき他人の業務を侵害する行動に出づることなく、その本職の完遂が期し得られるはずである。團體の強化が他の業務への侵犯とならざることが、この際とくに希望される點である。これはたゞにわれらの希望たるに止まらず、全國商工業者全部の希望として、農林當局の考慮をもとむるものである。(昭和十五年十二月三日工業新聞春秋欄所載)

二十二 西園寺公の國葬

元老西園寺公薨去して、はやくも十二日目を迎へた今日、一億國民の追悼のうちに國葬の儀がとりおこなはれる。明治維新の元勳中たゞ一人の生存者として、公私ともに尊敬の的と成つてゐた西園寺公の國葬當日にあたり、吾人はあらためて深甚なる哀悼の意を表する次第である。公の生涯についてはすでにあまねく傳へられてゐるのでこゝに贅言を差ひかへるが、公が經濟

問題に關聯して盡した功績に對し、吾人は改めて感謝の言葉を呈するに吝かなるものではない。

わが國の經濟が明治、大正、昭和の三代をつうじて今日見るごとく發展を遂げたのはまつたく自由主義經濟の賜であつた。封建的統制經濟の打倒につぐ自由主義經濟の樹立によつて、はじめ活潑なる經濟發展が可能となつたのであつて、若し封建的統制經濟そのまゝが踏襲されたとしたならば、おそらく今日までの經濟的興隆を見るを得なかつたであらうことは何人も否定するあたはざるところである。今日戰時經濟統制の行はれつゝある秋にあつて、過去を顧みて感なきあたはずである。

わが國の經濟發展に貢獻したる自由主義經濟制度の功績を讃へるにあつて考ふべきは、西園寺公が青年時代歐洲より舶載しきたりたるフランス革命思想が如何に大なる思想的影響を當時の國民有識者に植ゑつけたかは今日吾人の想像を超越するものがあつた。封建的統制經濟の束縛より蟬脱せんとするフランス國民の要求の熾烈さは政治的のそれにまさるとも劣らざるものがあつた。しかるにわが國における維新の革新は本質的には天皇御親政の昔に還さんとする國家主義的政治革命であつて、經濟的のそれは極めて僅少な部分しか占めてゐなかつたやうに見ゆるのであ

る。こゝにわが國明治維新とフランス革命との間に著しき相違が發見されるのである。

しかるに現下經濟的革新の急速に行はれんとしつゝあるにも拘らず、政治的革新が後續的であり生煮的であり、明治維新當時と全く反對の現象を呈せるは如何なる理由によるのであらうか。舊態依然たる政黨人の自薦選舉制度維持の主張とか、解散したはずの政黨の實體的存在とかに想到する場合、西園寺公のごとき偉大なる政界指導者の再出現を待望せざるを得ない。國葬當日にれたり公の薨去を悼むと同時に、現下の政界の状況をみて感無量たらざるもの果して幾人あらうか。(昭和十五年十二月五日工業新聞春秋欄所載)

二十三 企業合同と資本主義

經濟新體制に關する政府原案の決定を見るまでは巷間傳へらるゝ種々の報道によつて、一般經濟界は赤化政策採用の危惧に襲はれ、安き心もなかつたやうであるが、幸に中正穩健なる新體制案が決定されたことは、國民の一人として慶祝の念堪へ難きものがある。

企畫院、商工省、大藏省、農林省などの若手官僚の人達が私見を吐露する場合、假令それが私

見であるとの斷り書きの下に發表されても、その官職が連想に上る場合には、必然的にそれが政府の政策の一端に具現さるべしとの推斷に導くのである。従つて、官僚の言動が極めて慎重ならんことを要望せざるを得ないのである。

しかるに經濟關係省において立案される企業合同方策について見る場合には、社會主義的傾向とは全然反對の方向を指すものが看取されるのである。すなはち企業合同はそれが日鐵當局が、つて企圖したとき單一獨占を目ざすものではなくても、比較的少數の民間大企業體による一産業部門の集合獨占形態の強化を來たすものであつて、明らかに資本主義體制の高度化を企圖しつゝあるものといひ得るのである。

かゝる企圖に照して見る場合には、いはゆる革新少壯官僚のイデオロギーは必ずしも左傾的色彩濃厚なりとはいひ得ないのではないかと考へられる。あるひはこれらの人たちの思想はドイツの國家社會主義的文獻を讀むことによつて形成された、多分に非日本的なものに歪曲されてはゐるが、しかし日本的なるものを絶対に失つてゐないといひ得るのである。ことに企業合同による資本制強化の實際的方策にかんがみて、世の資本家たちは意を安んじて可なりと信ずる。

しかしながら資本主義体制の強化が、同時に國家目的に副ふものであるとしても、これらの人たちの或るものが主張したごとくに經營が資本家利潤追求の壓迫より脱却するためには、却つて一層の困難を來たす事態が生れ出る危険性がありはしないか。こゝに將來への一つの課題が提出されたのではないかと思はれるが、とにかく經濟體制が資本主義體制高度化の方向に進みつゝあることを摘記して、識者の参考に供したい。(昭和十五年十二月十二日工業新聞春秋欄所載)

二十四 公益優先

新體制の理念が公益優先にありとはドイツ好みのいはゆる革新官僚群の中から發せられた言葉であるが、これに對し、公益優先なる言葉は公益と私益を對立的に見たものであり、従つて私益尊重の意味が藏せられてゐるがゆゑに不可なりとか、あるひは公益優先は私益を否定するものなるがゆゑに、個人の黽社を無視する嫌ひありとか、あるひはまた公私併存であるべきがゆゑに、優先を説くは誤りであるとか、種々の俗論が賛否兩側において喧傳されてゐる。公益優先の意味は私利と公利の衝突をきたさんとする場合、先づ公利を選んでその達成を圖るに於ては、多

言を費さずとも明らかである。そこには判然と私利を無視せざることが示されてゐるのであるが、同時に決して公益が私利によつて覆へされざることまた明示されてゐるのである。なんらの議論の餘地さへもないことと思はれる。しかるに公益優先の標語が批判的となるのは、標語そのものの表現上の不完全性に基因すると同時に、標語を解釋する人々の思想が根本的に差異あるによるものと思ふ。

筆者の私見をこゝに述ぶることは恐縮至極であるが、標語の魔術性を認める筆者は標語がなんらの誤解なく受取られるごとき表現法を採るべきであると信じてゐる。わが國が今日肇國以來はじめての大國難に遭遇して、上下一致その艱苦に打勝つて行くべき秋にあたり、國民指導のスピーカーが意味判然しないでは濟まされぬわけである。また標語の解釋が二、三であるごとき國民思想の不統一をそのまゝに打捨て、置くわけにも參らぬと考へる。大政翼賛、臣道實踐のうへにおいてもし支障が生じては、近衛首相の責任問題ともなりかねない重大事である。字義解釋の閑問題として、國家の重大事として取扱ふべきものである。

産業報國會、商業報國會が結成され公益優先のスピーカーがそのまゝ報國運動の標語に採用さ

れながら、是非の議論を解決しないで置いては、商工業従業員の思想指導のうへにも障害が生じはしないかと憂慮される。何事を變革するにしても、何時如何なる國においても、思想が先づ改まらぬ間は成就しない。これは史實が示してゐる千古不變の鐵則である。大政翼賛會などは先づ第一にこの標語問題の解決に努力する必要がある。即時研究に着手されんこと要望する次第である。(昭和十五年十二月十四日工業新聞春秋欄所載)

二十五 産業科學研究員の態度

産業科學の研究において基礎原理的研究が充分でない場合はその應用部面の成果が不充分であるといふ因果關係を否認せんとするものではないが、公私の各種研究所のうちことに國立、公立の研究所においては私立研究所または研究室が直接營業成績の良否に關係を持つために應用的研究に對する熱意が旺盛であるのに比較していさゝか熱中の度と實に差異があるのではないかとともに思はれる節がないではない。公設研究所の人達の中には學位獲得のために特殊研究をなすものがあるといふ話を聞くのであるが、學的榮位の獲得はまことに結構であるが、それが私的慾望から

來るものであるとすれば公益優先の新體制原則に反しはしないか。

國防國家完成のために要請される科學研究の部面は實にきはめて廣汎である。研究の對象にと缺くことは絶對にない。したがつてかゝる強い要請に應へる研究に没頭してその成果が國家的に認められ學界もまた同時にこれに榮譽を與へる結果、自然に學位獲得の功成る順序を辿るものならば何人もその榮譽に對し滿腔の敬意を拂ふであらう。しかるに目前の國家的要求に即應することなく徒らに私的満足感を得るために學位獲得に便なる研究に従ふならば、それは現下の要求する科學研究者の資格なきものといはねばならぬ。

わが國醫學の進歩の著しきことは驚くべきものがあるけれども、それは醫學博士の數の増加に全く正比例したとは認め難いものがある。その研究態度において遺憾な者が發見されないではない。もし産業科學の研究が旺盛となりながら、その研究の多くが學位獲得のためであるならば醫學博士の濫造と同一の結果に墮し國家目的達成に支障を生ぜしめるおそれがある。公益優先の原則は決して商工業者のみ示されたものにあらずして産業科學陣營の戰士にも課せられたものと信ずる。英米の經濟壓迫に抗議して支那事變の處理を完くし東亞新秩序の建設なる大使命を

成し遂げんとする重大時局に直面して産業科擧陣營の戰士が私的慾望をすて、敢然國家のために學的殉死の大覺悟に徹せられんことを熱望してやまない。(昭和十五年十二月十七日工業新聞春秋欄所載)

二十六 中央協力會議に望む

去る十六日より十八日にかけて三日間はめて眞摯な中央協力會議が行はれたことは、國民の一人として衷心より慶賀するものであるが、しかしながらその會議において述べられたる審議のうち、翼賛會の法的性格に關するもの以外の大部分の問題は、今日までに民間各種の法的團體並びに任意團體の會合において再三再四とりあげられた事項であつて、別に翼賛會附設の中央協力會議を俟たなければ上通されなかつたことがらとも思はれない。かゝる問題の討議が中央協力會議の使命でありとすれば、それは擬國會なる悪評を裏書きすることになるおそれがある。またもしかゝる民間陳情の意見開述が本來の仕事であるとするならば、從來の議會への陳情が採擇されて法的權威をもつて行政部面に望むよりも一層効果の薄いものではないかと思はれる。

中央協力會議の使命は決してかゝる在來の各種機關によつて爲しきたれる建議、陳情、民意上の業務に在るにあらずして國防國家體制完成に對する協力會議であるべきであり、そこにおいて論議さるべき問題は、したがつておのづから趣を異にするはずである。すなはち、中央協力會議は謂ふところの國民再組織とか經濟再編成とかの具體的國策的問題の實踐に關する討究とその結果の上通をなすを本來の職務とし、國民各個の職域奉公の可能性を増高する途を開くことを使命とすべきである。しかもなほこゝに附言したきは具體的問題が從來のごとく抽象的取扱ひを受けないで、眞に事實の各個に觸れた問題としてとりあげられる必要性についてである。例へば、中小商工業問題について見ても各種業態のものを一括して中小階級に押し込めて論じてはそれは全く非具體性のものに化してしまふほかない。今日までの政府の對策のあるものが有効適切ならざりし原因は十把一束の取扱ひをなしたつた缺陷にあると思ふ。事實の具體性を尊重し、國防國家體制を文字の上でなくまた言葉のうへでなく現實に成就するについては國民協力會議たるごとく中央協力會議を利導する必要を痛感する。切に末次議長ならびに有馬事務總長の努力に期待する次第である。(昭和十五年十二月二十日工業新聞春秋欄所載)

二十七 新支那中央銀行の生誕

國家總力戦を戦ふうへにおいてもつとも困難を感じるのは經濟戦中の通貨戦である。支那事變はしまつて以來三年有半、法幣打倒の通貨戦を開始して三年、それでもなほ法幣打倒の目的達成は英米の資本関による法幣支持のために前途なほ逡巡の感があつた。しかるに今日南京政府が敢然と中央儲備銀行を創設して一面南京政府の財的源泉となり、他面法幣打倒の通貨戦に乗出したことは吾人のもつとも愉快に堪へざる處である。

北支の聯合準備銀行がその創立以來嘗めた苦杯は外貨獲得の困難であつた。これはわが國の所要する物資と北支の第三國輸出品との關係から生じた障礙に起因するものであるが、南京政府の現實の勢力範圍における外貨獲得力はその物資別觀察にもとづいて、斷するならば、北支のそれに幾倍有利なる地歩を占め得る筈であるが故に、わが國の國力との結合その宜敷を得れば相當の成績を擧げ得るものと信ずる。

通貨政策を論ずるもの、また通貨政策を講ずる局に當るもの、殆どすべてといつていゝ位に通

貨を外貨獲得力の基礎をなす生産力の大小とは無關係に、兌換準備金の多寡にのみ關聯せしめて考察する傾向を持つてゐる。かゝる觀點に偏する結果、通貨政策が通貨獨自の操作に局限され、あたかも鹿逐ふ獵師山を見ずの諺の如く經濟界の實務を離れて通貨そのものゝみを對象として神經的な政策を弄する弊に陥るものである。中央諸備銀行の當局の聰明をもつてしてかゝる弊害に捉はるゝ事なかるべきを信ずる者であるけれども、通貨政策を局限されたる通貨操作に終らしめず眼を廣く南京政府治下の經濟界の生産力の増大において物資豐饒といふ經濟の實力によつて裏付けられたる通貨創出政策を堅持せられんことを切望する。かくのごとき方策にして徹底せんか、重慶政治下の民衆も法幣を手離して必ずや南京政治下に移住し安居樂業の惠澤に浴せんことを希ふ結果として、自から支那事變の根本解決ができる機運が醸成されるであらう。すなはち生産力を根底とする通貨政策は外貨獲得力を持つと同時に國民生活保證力を持つものであり延いて經濟戦中のもつとも困難なる通貨戦における勝者たるべきことを約束するものといひ得るのである。(昭和十五年十二月二十一日工業新聞「工業春秋」欄所載)

二十八 内閣強化

〇〇内相が〇〇無任所相と、風見法相が柳川興亞院總務長官と更迭して近衛内閣の實體的強化が一步前進したことは近衛内閣のため慶祝に堪へないところである。而して兩相の更迭理由が如何やうであらうとも、それは最早問題とするに足らぬ過去に屬し、將來の近衛内閣の動向を察知するには、平沼新内相と柳川新法相の性向を吟味する必要がある。

さて今回の兩相の就任によつて思想的方向は一層明瞭になり、國內人心の安定に資するところ極めて大なるものあるを信するのである。ことに平沼新内相は國本社以來、國家主義陣營の巨頭をもつて任ぜられ平沼内閣時代において三國同盟の措置について非難を受けたるも、同男自身の政治的信念は當然三國同盟支持であつたことは明らかであり、その時代の各般の事情は同男の意にまかせずやむを得ずつひに「複雑怪奇」の宣言を残して退陣を餘儀なくされたことは同男のたぬ氣の毒に堪へない。今回内相の椅子についてその國家主義信念を内政のうへに實行するならば、相當有效適切なる措置をみうることであらう。また對議會策よりいつても現代議士の多くの

ものより前首相時代に獲得した尊敬の急が有利に作用し、議會切抜けも極めて容易であらう。また柳川新法相は法相として未知數であり、その將來を卜する何ものもないけれども、その人格に何ら非難なき點にかんがみて、けだし好法相たるの任を完ふするものと思ふ。

とまれ近衛内閣が二新大臣を迎へたることは内閣の人格向上と手腕強化のうへよりいつて大成功といはなければならぬ。(昭和十五年十二月十二日工業新聞「工業春秋」欄所載)

二十九 第七十六議會の召集

昭和維新の第一回翼賛議會が本二十四日をもつて召集されることはわが國憲政史上特筆大書すべき劃期的事象であり、國民たるものだれ一人として輕々に看過すべきではない。政治に經濟に文化に新體制が要請されつゝある中にあつて、最も新體制的變革の困難なるものは政治のそれである。わが國の議會制度は明治天皇の賜りたる國民翼賛制度の第一に居るものであつて、議會運用の精神は皇運扶翼、大政翼賛の四字に盡きるのである。

しかるに第一次歐洲大戰の結果として世界的思想混亂が生じ、民主主義ならびに共產主義の思

想が世界を風靡し、あるひは勞農獨裁の執政形態が、あるひはデモクラシーの政治形態が壓倒的勢力を伸長し、わが國議會制度の中心思想にもまたデモクラシーが受け容れられ、政治の大權が議會に移り、その構成團體たる諸政黨中の最大政黨の勢力の消長によつて國政一般が左右され、わが皇國本然の姿が全く消滅したるかの觀を呈したのであつた。従つて政黨人の多くの者の思想の中からは殆ど全く皇運扶翼、大政黨贊の考へ方が雲散霧消してしまつたかのごとき觀をすら與へるものがあつた。

殊にコミンテルンとデモクラシー一派の合従連衡なるや、人民戰線を形成し、あの手この手を弄して各國の内政を崩壊に導かんと策動するに至つたことは、識者の記憶に極めて新たなものあると信ずる。かゝる危機に際し代議士諸君が政治思想の内容に深く省察するところあり、明治天皇より賜りたる皇運扶翼、大政黨贊の本義に則つて議會をその本來の姿において顯現するやう努力せられんことを祈つてやまない。

選舉制度の改革の如きは議員の思想さへ皇國民本來のものであれば何ら問題にすべきではない。眞に國民を代理して皇運扶翼、大政黨贊の至誠を致すならば國民は政黨の存在を否認するが

ごときことはしないであらう。わが國未曾有の國難に對して臣道實踐における國民的戰士としての自覺に徹し、議會をして議會本然の務を果すごとく代議士諸賢の健闘を重ねてここに祈る次第である。(昭和十五年十二月二十四日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十 商工行政の刷新

小林商工大臣は大英斷を以て○次官を罷免し○貿易局長官を後任に擧げた。この任免の裏面の事情について多く書くの自由を持たないのを遺憾とするが、これを表面的に解釋して机上のペーパープランを排し、經濟界の實際に則せる商工行政を実施するためと見るならば、吾人は暫く小林商工大臣の手腕に信賴してその成果を待つに吝でない。

國民精神文化研究所の山本勝市氏は自由經濟的自動調節作用による經濟組織を尊重することによつて克く戰時經濟を賄ひ得ると主張するも、かゝる時代性を理解せざる學究的机上論の如何に拘らず今日わが國の經濟を調辨して行くことは一つの計畫性を持つ經濟統制によるにあらざれば決して總力戰的完全を期し得られないことは明かであり、小林商工大臣の所説として鐵、石炭な

どの生産、配給、消費に關するものを糺して見ても同大臣もまた計畫性のある經濟方策によるにあらざれば、しかもそれを民間の練達堪能の士の指導下において實行するに非ざれば完成を期待し得ないとなす點において吾人と見解を一にするものゝごとくである。

官僚の非實際性は久しき以前より論議されてをるところであるが戰時經濟の運用に當つて最近特にその然る所以が一層事實上の問題となつて來たやうに見えるのである。その國をおもふの衷情に就いては敬意を拂ふに躊躇しないけれども、その持つところのイデオロギーが非實際的であり山本氏の言ひ分ではないが經濟の自働作用を援用して巧に統制を効果的ならしむる如き手段に於ては缺くる處が甚だ多いやうに見受けられる。然し他面民間經濟人殊に指導地位を握持する現在の實業家達のあまりにも現實主義的な點は大に反省すべきであり、國難に殉ずるの覺悟において人後に落ちないと稱しながらその舌の未だ乾かざるに宜敷金儲に無遠慮の手を延ばすことは官僚の指摘するごとく國家的ならざるものゝ雄といふべきであり、言行不一致の甚だしきこれより大なるはなしと考へられる。官僚財界人の功罪ほど等しいとの判決を下しても何人も異論ないことゝ信ずる。

かゝる兩端を把握してこれを巧に統合しておのゝその長所を發揮せしめ運用の綜合的妙味を出し得るならば、しかして生きものゝ經濟を生かして働かせ戰時最も要望さるゝ生産力擴充の實效が順に擧がるならば、それこそ吾人の期待する眞の有效なる商工行政の刷新であるであらう。
(昭和十六年一月五日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十一 物價政策の再出發

昨年末發表された昭和十五年中の經濟統制違反數は昭和十四年度のそれよりも遙かに大なる數字に達し、その犯實また一層悪性を帯びつゝあるとことであるが、かゝる事象發生の原因としては經濟人の國家思想の低調とか、經濟統制法規とその運用の防犯的ならざることゝか、その他種々多様に存するであらうが、その中で最大の原因の一は物價統制の不備であると思はれる。

一昨年秋の九・一八停止令發布後、速かに適正價格を制定し物價の均衡を得たる公定を行ひ物資の生産、流通、消費の適正化をはかるべしとの當局の聲明にも拘らず甚だ漫々の今日なほ概ね九・一八停止令を繼續するに過ぎざる有様であるのは、如何にしても國民として我慢ならざる

ところである。しかもそれによつて國民各個の苦痛のみならず國家全體としての受くる損害は蓋し尠からざるものがある。

近時官僚の専横とか、獨斷とか頻りに官僚攻撃をなすものがるけれども物價政策の適正化に關する官僚攻撃の聲の比較的少なきは如何なる理由によるのであらうか、或は右のやうな状態であるため經濟人が闇取引によつて利するところ大なるが故に沈黙を守つてゐるのであらうか、或はこれもまた一部の眞理を物語つてをるかも知れない。しかし國家全體の損失を思ふとき吾人は一日も官僚の儉安を許す氣にはなれないのである。

公定價格はそれを嚴守することによつて物資の生産、配給、消費が最も適正を得るときものであるべきにも拘らず現行公定價格の多くはそれを遵守することによつて却つて生産、配給、消費の適正が破壊されるごときものであるとの非難が事實に合するとすれば、當局は何を措いても速かに適正公定價格の制定に邁進すべき義務がある。然るに自らの無能を棚にあげて國民の巨道實踐の足らざるによるとなすは甚だしき非違なりと斷ぜざるを得ない。銃後經濟の調整は國家總力戦を戦ふうへに最も必要な事柄である。當局は一刻も早く適正價格を制定して戦時經濟の均

衡を回復するに努力せんことを切望する。(昭和十六年一月七日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十二 軍官民協力の眞諦

政府は來る十四、十五、十六、十七の四日間にわたり各界の指導的人物を首相官邸に集め軍官民一致協力の要請をなすよしであるが、その企圖の時宜に適したるはいふまでもないけれども、民間に於ては大政翼賛會がすでに成立し、民間の指導的人物と看做される人人が常任總務とか平總務とか地方常任委員とかに選任されてをり、有馬事務總長の話では野に遺賢なきを期した積りであり、また舊臘東京において臨時中央協力會議が催されたことでもあり、最早こと新らしくさらに民間の指導的人物を招集する必要があるか否かについて疑問をいだくものが多數あるのである。

もし大政翼賛會が軍官民一致協力の達成機關にあらずして全く別個の目的をもつものであるとすれば、前述の疑問は故なきものといひ得るも、臨時中央協力會議が附設され國民の全的協力がこの機關を通じて行はれるものとの説明を聞いたものにとつては、奇異の感なきを得ないのであ

また大政翼賛會乃至は臨時中央協力會議に指導的人物が網羅されずしてなほ多く野に遺賢ありとすれば、それらの遺賢をも大政翼賛會乃至は中央協力會議に包容して、これらの會合の完璧を期すべきであらう。また假に若し今回の協力懇談會に翼賛會乃至協力會議の關係者が別の意味でもつて召集されるとせば、明白に翼賛會乃至協力會議の成立以後における意味内容の變化が看取されるやうに思はれる。

吾人は政府の企圖に反對するものでもなく、けちをつけようとするものでもない。しかし政府が時局の最大危機を明示して國民の協力を永めるためにかゝる會合を催すまでの決意をなすに至つたその勇氣を賞するけれども、政府の爲すことが統一性を缺き左顧右盼、朝令暮改の誹りを避け得ない傾きのあることを遺憾とするものである。もちろん誤れるを正すうへにおいては朝令暮改もまた可なりであらう。さりながら今日の時局はかゝる閑手を許さざるまでに緊急重大である。正しき適切なる國策を樹て、ひたむきにそれが達成に邁進すべき秋に當つて切に政府當局の一考を促したいのである。(昭和十六年一月十日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十三 配給機構の整備

商工當局より配給機構整備の方針が提示されたところによると、ほゞわれ／＼が日ごろ主張してゐた點に觸れて商業者の現在の地位を認め、その業的地歩を確保することを主眼とするやうであつて、諛辭を呈するに吝かでない。

商工省の内部には随分古くから中間商人排除論者があつて商人たちを不安ならしむるがごときことが少なくなかつた。しかるに今回振興部長より商工省の方針として商人尊重の原則が明確に示されたことが如何ばかり商業界を明朗にしたか想像以上のものがある。しかしこれが従來幾多の例のごとく單なる振興部の意見であつて、商工省全體の意思の結論として生れたものでないといふやうな商工省内部の不統一の影響があとから現れるやうでは、せつかく商人の歡びも空泡にをはるわけであるから、かゝることのないやうに希望すると同時に、その然らざることを一本釘をさしておきたいのである。

なほまた示されたる方針のうちに産業組合の購販聯と商業者との關係が特定の文字をもつて明

かにされてゐないがために、そこに實際上根本塞源的な解決案が整へられてゐないのではないかと懸念が生ずるのである。工業者の商業界侵入を防止することは比較的容易であり話せばわかる程度のものであるが、産業組合においては絶対に話してもわからない強硬な一種のイデオロギ―があつて、これを破碎せざる限り商業者との衝突は緩和されず永久に問題が残るものと思はれる。

現にある地方において木炭の配給について地方長官が産業組合の後押しをして商人よりその配給権を取り上げようとして目下紛争をつゞけてゐる事例さへあるのである。單に商工省限りの方針では果してこの問題が解決されやうとも思へない。産業組合と商業者の問題は國政の共通的重大問題として内閣において直接これを俎上にのぼせて處理すべきものと信ずる。

國民一億一心の叫ばれつゝある際かゝる相剋の今なほ頻りに行はれてゐるといふことはあまりにも政治の貧困を物語るものではなからうか。切に臺閣諸公の善處を要望する。

(昭和十六年一月十二日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十四 破壊力と建設力

國際情勢の緊迫にしたがつて、都市防空設備完遂の急務がますます痛感されるに當つて、一層しみたゞと胸にこたへるのはわが國の生産能力の不足である。生産力擴充の唱へられることすでに久しいものがある。もちろん直接軍需品の生産能力の増強された割合は實に驚くべきものがある。しかし間接的軍需資材の生産能力の増加にいたつてはほとんど數ふべきものもないといつてもいゝのではなからうか。

都市防空設備を急施するにあつて、まづ第一に必要なとされるセメントの生産能力はどうであるか、鐵筋に代るべき資材が生産されてゐるか。家屋の外壁防火装備は應急の一時の氣休めとしては至極結構であるが、それで果して重爆彈と熾夷彈の聯合攻撃に對して何ほどの効果があるか、焼ける前に粉碎され、粉碎されたものが焼かれたのでは、外壁装備はなんらの効果を齎さないことになりはしないか。

破壊されたものに代る一時的の居住設備を整へるだけの應急建設資材の手當が出来てゐるか。

難民の避難先が、また都市からの老幼弱者の退去先が豫じめ決定されてゐるか、子女の學校教育を如何にして繼續するかの配意が出来てゐるか。先年の〇〇火藥庫爆發の際の實例に徴しても、警防團員の今後の行動に遺憾なきを期するだけの訓練が充實してゐるか。銃後もまた第一線なりとの國民一般の覺悟を促すに遺漏はないか。

敵の破壊力に對應し、これを凌駕するだけの銃後の建設力が物心兩面において出来てゐないか。ぎり戦勝の榮冠を期待出来ないのではなからうか。日夜想ひを強力的國防のうへに馳するもの、一瞬といへども安堵の胸を撫で下ろすときがないのである。議會の機能を、大政翼賛會の性格を、官界新體制をおの／＼その好むところに於て論ずるもよからう。しかし銃後防空に關聯しての建設力の問題は、机上の空論ではすよされ得ないものであり、官民朝野が心を一にしてその解決に努力を傾倒すべきものと信ずる。

英國コヴエントリー市の破壊の真相を聞知して、誰か肌粟を生ぜないだらうか。前車の轍を踏まぬの希望があるならば、今はすでに遲きに失せずと思はるゝも、なさざるに勝る建設力の充實に努力を惜んではならない。(昭和十六年一月十六日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十五 時局認識と實踐

近衛首相は最近政界、實業界、言論界のいはゆる指導者階級の人人を招いて時局緊迫の實相を説明し、その協力を求めたのであるが、眞の國民的自覺あるものは誰一人として國難に際し協力を惜しむものとはあり得ないし、識者のすべては進んで協力を致したいけれども、政府の時局に對處してなさんとする對外的ならびに對内的企圖が方針において如何なる形態をとるものなるか、判然しないために躊躇してゐるといふのが實相である。

また政府の協力要望の對象として指導的階級の人々を先づ取り上げたことは非難すべきではないけれども、眞に協力の必要を説いてその奮起を要求する必要がある對象は庶民階級である。かゝる國民的自覺において充分ならざる人達の奮起を促すには首相招待に應じた人人の訓話繼承によるものと思はれるが、かくのごとき間接的方法を採るよりは直接法によつて首相より親しくこれ等の人達に對し時局の眞の認識に醒めるやう勸説すべきではなからうか。

忠良なるわが國民中に今なほ國民的自覺に生くるの途を知らざるものゝ存する諸理由中の最大

なるものは、眞の指導者より時局の認識に徹するに足るだけの教訓を受くる機會に恵まれざるに
よるものであつて、たゞ漠然と危局の存在を知り乍らそれに對處すべき國民的態度の如何なるべ
きかを自覺せざるところに存するものと思はれる。しかもかゝる自覺を呼び起すには偉大なる人
格に直接接觸することが一番効果的であつて、單なる請賣りの説話によつては餘り多くを期待し
得ないのである。

ヒットラーとかムツソリーニとかの言動の獨伊國民におよぼす影響の甚大なるは彼等が親しく
庶民に接してその崇高なる人格的感化を與ふるがゆゑであつて、臺閣の奥深く垂れこめてたゞ僅
かにしかもたまたまにラジオを通じて言語に接するのみにては、人格的感化を民衆に與ふるを得ない
であらう。非常時認識に國民の全部を徹底せしめるためには首相の躬行實踐を絶対必要とする。
近衛首相宜しくその偉大なる人格を民衆の前に現はし親しく時局指導の第一線に起たれんことを
切望する。(昭和十六年一月十九日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十六 日米外交調整の能否

松岡外相の議會における施政演説および豫算總會における答辯によつて外相の抱懐する日米外
交觀を明らかにするを得て一部において傳へらるゝごとき媚態外交の使命を野村大使に授けたる
にあらざるが判然とし、吾人の意を強うした次第であるが、外交の要諦はかならずしも強硬
方針を持続するところに存するにあらずして、時とところとに應じて柔剛よく國家目的達成の途
を拓くにあるはいふを俟たない。

由來、アメリカ合衆國は正統外交道を守らざる國であつて自國の思ふがままを他國に強要し、
その命に反する國に對しては自分勝手な國際正義論をもつて臨むといふ手法を常に繰返しもちひ
てきた。ことにわが國に對してはかつて滿鐵の國際管理論さへかつぎ出して攻勢を採つたことが
ある。それは外面的にはあたかも金持のわがまま息子の言動と軌を一にするところがないではな
い。かゝる言動の奥にはしかしながら看過すべからざる世界的謀略が潜んでゐるのである。この
謀略の參謀本部が何であるかを知らずして對米外交の手を打つたのでは決して成功するものでは

なり。

アメリカがその國防の第一線を大西洋の彼岸に置き、さらにそれに譲らざる重要性を支那大陸の二線に認むるゆゑのもの、國際的資本閥の國際的生存權確保の目的に出づるものであつてアメリカ自體の國防の安危にかゝはるがゆゑではない。リンドバーク大佐の語る如くアメリカ大陸そのものゝ軍事的不安は絶對にないけれども、そこにのみ安全に謀略の本據を置き得るだけに満足し得ないのであり、その安全地帯をも自己謀略の用にたゞしめて國際的資本閥の國際的生存權確保の作戰を有効に進めんとするところにアメリカ外交の動きがあるのである。この一事を心得て對米外交を押し進めるならば、おのづからそこに打開の途が発見されると信ずる。

すなはち大東亞共榮圈の確立はわが國の國是として是非とも完遂を期せねばならないことであるが、この共榮圈内に居住することがかれら國際資本閥一味にとつて一層有利であるとの計算を樹て得るときわが國の方策をかれらに示すならば、そこに窮通の途が拓かれるのではあるまいか。吾人はあへて最悪の場合に處する覺悟に缺くものではないが、好んで最悪の場合にたち入るよりは一步手前においてかれらの反省をもとめ人類の全般の不幸を招來するとき事態を

收拾する必要がある。動中靜を求めてアメリカを改過遷善に導くの大慈悲心の發露を望んでやまない。(昭和十六年一月二十八日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十七 民間自主統制組織の整備

政府は今次議會に産業團體整備に關する法案を提出せざることに決定したが、その案の内容を知悉せざるものにとつては或は該法案の企畫するところが時局の急迫のために不急不要に歸することきものであつたかと思はざるを得ないのである。しかし過日中央物價協力會議の發表したる組織關係の生産配給統制團體整備要綱の趣旨によつて見るも、民間業者團體の自主統制組織に依つて物資需給の統制ならびに物價統制の完璧を期せんとする意圖がはつきり看取し得るのである。若しかゝる意が政府にありとすれば既成の産業團體法案を改訂して急迫せる時局に即應せる新法案と成して急速に議會に提出してその協賛を求めべきであらう。

しかるに政府は總動員法の改正案をさらに改正して近く議會に提出せんとしてゐる。従つて議會の質問にも現はれたることく政府は總動員法を以て不提出の産業團體に代つて何等かの形にお

いて既定の方針を遂行するにあらずやとの懸念さへ生ずるのである。近衛首相の否認にも拘らず、なほその疑念の解消せざるものがあるやに思はれる。かくの如き疑惑を民心に生ぜしむるは不得策であつて、寧ろ迅速に適當の修正を加へて産業團體法を提案通過せしめ、民間人をして自主的團體統制によつて國家的方向に働かしむるに如くはない。

時局の急迫は三國同盟成立以來豫想されたるところであつて昨今に至つて急激に襲來したものである。また事態窮迫の度が増せば増した丈それだけ多く民間人の職域奉公の必要度が増すのである。従つてかゝる時局に直面したる場合にこそ最もその必要とする自主的團體統制を主眼とする法案を成立せしむべきである。

革新官僚一派より放送されたる職域奉公のスローガンはその當初の意圖するところが何物であつたにせよ國民の奉公をその職域における任務を通じてはじめて行はれるものである限り吾人はこのスローガンをこの正しい意味において把握してその實行に邁進したのである。政府はこの民心の機微を察して速かに産業團體法案を改訂提案して國民の職域奉公の至誠を致さしむべきである。(昭和十六年一月二十九日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十八 中小機械工業對策

本紙の熱心なる某讀者より數回に亘り中小機械工業に關して意見を申越されたので、深甚の敬意を表しこゝにそれらに對する答辯の意味を含めてわれらの意見の一端を述べて見たい。

中小工場は大工場に隸屬して發達し育成されて來たものもあるが、中にはそれ／＼の特殊の専門的技術を以て大工場から獨立して發生したのものもある。こゝに一々その實例を擧ぐる煩を避けけるが、必ずしも隸屬的なものと解することはできない。多くの中小工場の中には大工業資本の隸下において生れたのよりは、大商業資本の傘下に誕生したものが相當數に上つてゐる。これは機械工業よりも他の工業において一そう多くの割合を占むるのではあるが、とにかく大商工業資本の温情によつて或ひはその犠牲的救済によつて中小工業の救脱の途を求めんとすることは、中小工業の矜持を害ふものであり獨立自主勇往邁進の精神に缺くるところ大なりと思はれる。時局の緊迫の度の増すだけそれだけ多く自主獨往の勇氣が要請されるのであつて、他人の温情救済に倚賴することは喜ぶべき現象ではない。

一月の本紙上において二回に亘り述べられた本社編輯局顧問、武田鼎一氏の意見にても知らるゝごとく中小工業自身の努力による技能の向上が一等有効な救済策である。今日の時局において殊に資材の缺乏の感ぜらるゝ時において某讀者のいはるゝごとく大政翼資、臣道實踐、職域奉公の實を擧げるには技能の向上による以外に途とてはないのである。大阪〇〇物とか東京の××物とかいふ粗悪機械の代名詞は中小機械工場の技能の低度を示すものである。もちろん短年月にその進歩を望むとは望む方が無理であるかも知れない。しかし商工省の過去の政策たる實績主義をよろしく利用して公定價格制度の不完備に乗じて粗悪機械の思惑生産をした罪はそれらの關係業者の全責任を負ふべきものである。それらの機械をスクラップと看做すことは酷であるかも知れないが、時局柄臣道實踐、職域奉公の誠を致したるものとはどうしても思はれない。武田氏のいふ技能向上がつまりこの職域奉公の最たるものであることを上記の論證によつて良く理解して頂きたい。

今日の時局において最も必要とさるゝものは航空機の整備であり一機半機といへども多く生産されることを希ふ心は實に言語に絶したる切實なものである。若しわが國の中小機械工場のすべ

てがその技能において航空機製作に適する程度に向上してゐたとすれば、如何ばかり國防充備に役立つたであらうかと考へるとき、中小工場は自らを省みてその勵むべき方向を知り得るはずである。また政府は中小工業を抑壓するために利潤を制限せるに非ずしてインフレ防止のために行つてゐるのであるが、中小工場がその技能の向上によつて利潤を得た場合その利潤率を大工場同様に抑壓することは、某讀者のいはるゝ如く不都合かも知れない。しかしそこに臣道實踐の徳目を掲げて利潤率の多少を争ふべきではないと信ずる。これを要するに國民のすべてが己を空しくし國に殉ずるの心をもつて各その職域において業に勵むならば凡百の問題は自から解決されるはずである。時局が壁に馬を乗りつけたとき状態にまで押し進められた昨今論議の問題は實踐の問題に置き換へらるべきである。(昭和十六年二月四日工業新聞「工業春秋」欄所載)

三十九 總動員法改訂と經濟新體制

國家總動員法の改正法律案がいよゝ／＼議會に提出された。昨秋總動員法改正の議が生じた際は生産力擴充の目的に一層多く副ふごとく改訂を加ふるを主眼とするの趣の當局の言明があつたの

であるが、今回の再改訂においてはその主目的が多岐であつてしかも産業團體法その他の經濟新體制整備に關する法案の議會提出を見合せたる代りにそれによつて生ずる缺陷を補填する意味を多分に持つとき經緯を経て、再改正案が登場したのである。従つて民間經濟界は吾人が嘗つて本欄において指摘して置いた通り近衛首相の言明にも拘らず語弊はあるが一種のベテンの策略がその裏にあるのではないかと危惧しないでもないと思ふ。

國際情勢の緊迫の度は日一日と加重し不測の事態の何時生ずべしとも知れない際、國家總動員法を整備して總力戰態勢完備の一刻もすみやかならんとことを期すべきは論を俟たないところであり、しかして民間經濟人の何人もがその要を痛感し、その實現に協力を致さんとする熱意において缺くる點なきは吾人の等しく認むるところであるが、官民その心を一にして相協同するがためにはかゝる重大法案の成立過程において兩者の間に疑惑などの生ずべきはずはないのである。しかるに多少にてもそこに疑念ありとすれば、政府の諸法案取扱上に慎重を缺くところがあつたといひ得ないではない。今日のごとき重大時期に當つては政府は重要法案取扱方法に於て極めて慎重にして民心の徒らなる動搖を生ぜしめない用意が必要である。

今回の總動員法改訂の各事項はもちろん經濟新體制確立のため當然改訂さるべき方向に改訂されたのでから改正事項そのものには異論はないが、その實施に當つては不必要の犠牲を民間經濟界に強要することなく、よく戰鬪の第一線と銃後の第一線との等様の重要性を見誤らず眞の國家總力の最高能率の發揮が可能なるごとくその運用の妙を期待するとともに、經濟關係の不惜身命の健闘を切望する。(昭和十六年二月一日工業新聞「工業春秋」欄所載)

四十 總力戰體制の完備

國際情勢の緊迫は時々刻々加重し、ことにアメリカ合衆國の傍若無人のふるまひに對し頂門の一針を加ふるの必要あるとき、國內各方面のこれに對處すべき態度において缺くところ大なるものあるにおいては對米戰に勝算を期するを得ないであらう、吾人は好んでアメリカと事を構ふるを欲するものではない。然しアメリカがイギリスと異體同心となつて、北はアラスカより南は印度洋にかけてわが國包圍の陣形を整へつゝあるにもかゝはらず、いまなほ田中兵務局長の議會における言明のごとく對米媚態外交を策しアメリカの袖に縋つて難局窮通の途を發見せんとする